

11. 各部の開閉のしかた

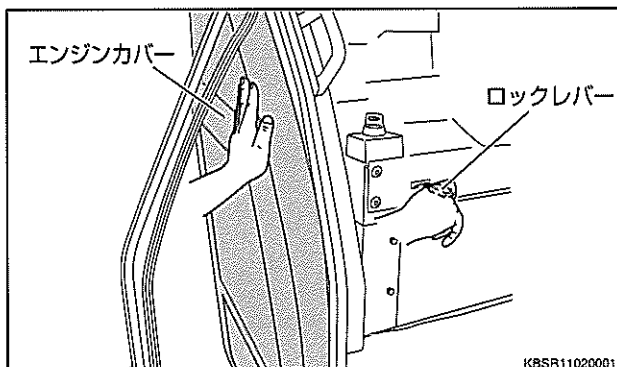
▲ 警告

- 各部の開閉作業時は、自走ロールベアラを平たんな場所に置き、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチキーを抜いて、周囲の安全を確認してから行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- エンジンが冷えてから作業してください。
※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 開けたカバーは必ず閉めてください。
※ 守らないと、巻きこまれ、挟まれ等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

11.1 エンジンカバー

◆ エンジンカバーの開けかた

- (1) ドアを開け、エンジンカバーに手を添えて、ロックレバーを矢印の方向に引いてください。



- (2) ドアを閉め、ゆっくりエンジンカバーを開いてください。

◆ エンジンカバーの閉じかた

- (1) ゆっくりエンジンカバーを閉めてください。

11.2 ラジエータ前カバー

⚠ 警告

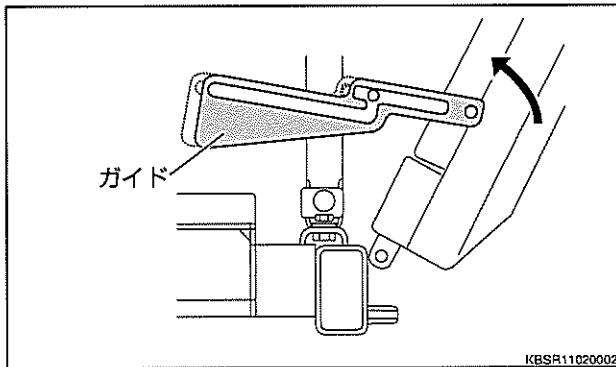
● エンジンが冷えてから作業してください。

※ 守らないと、やけど等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

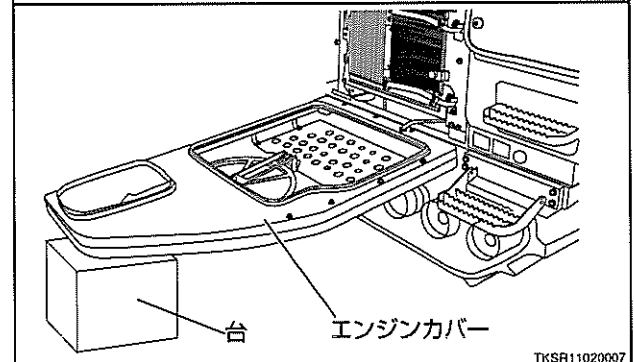
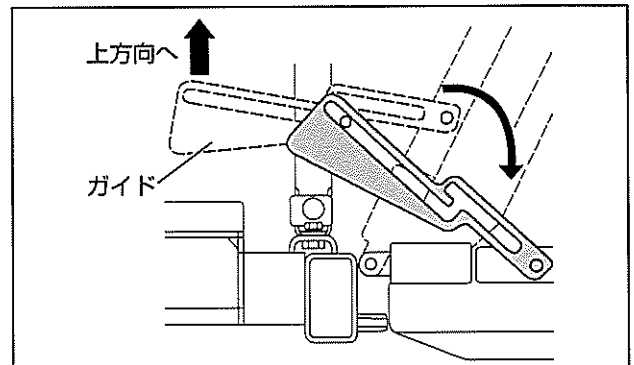
◆ ラジエータ前カバーの開けかた

(1) エンジンカバーの開けかたの手順で、エンジンカバーを開いてください。(114 ページ)

(2) 右手でエンジンカバーを持ち、ガイドの位置が図の位置に来るように、エンジンカバーを持ち上げてください。



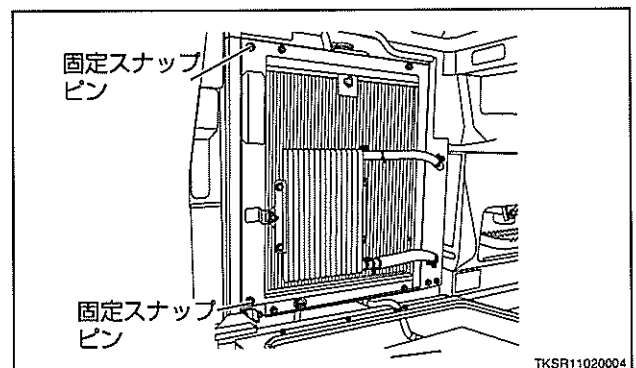
(3) 左手でガイドを持ち、ガイドを上方向に上げ、エンジンカバーをゆっくりと 90° 開き、台で固定します。



《 重要 》

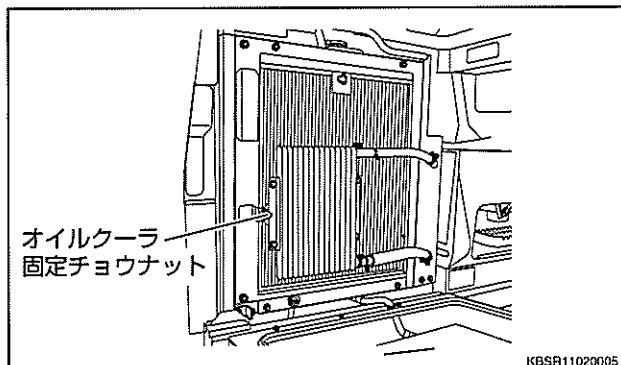
上記の作業を行なわなければ、エンジンカバーが破損するおそれがあります。

(4) ラジエータ前カバー固定スナップピンを取り外してください。

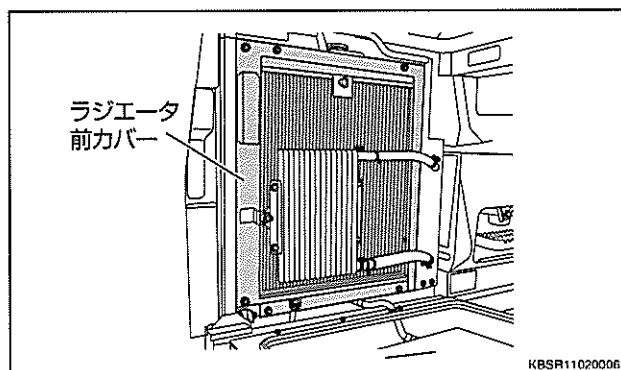


11. 各部の開閉のしかた

- (5) オイルクーラ固定チョウナットを取り外してください。

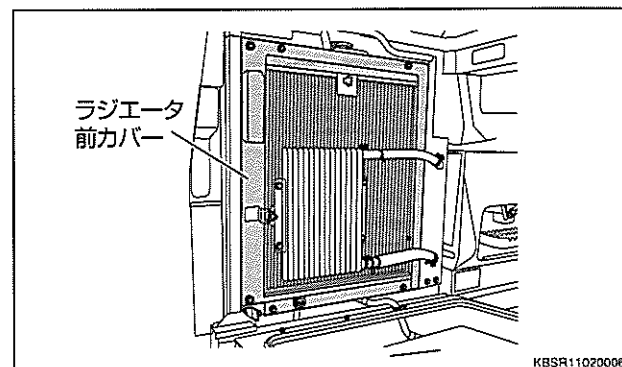


- (6) ラジエータ前カバーを開けてください。

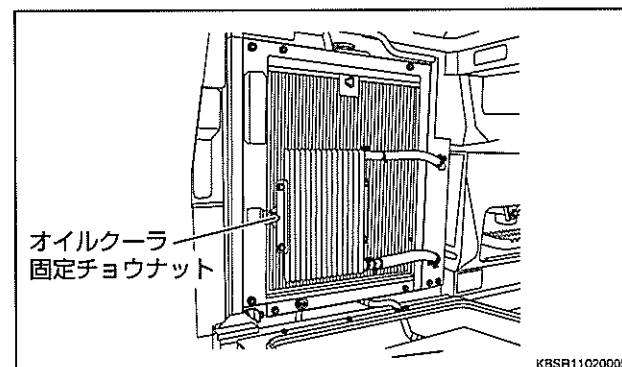


◆ ラジエータ前カバーの閉じかた

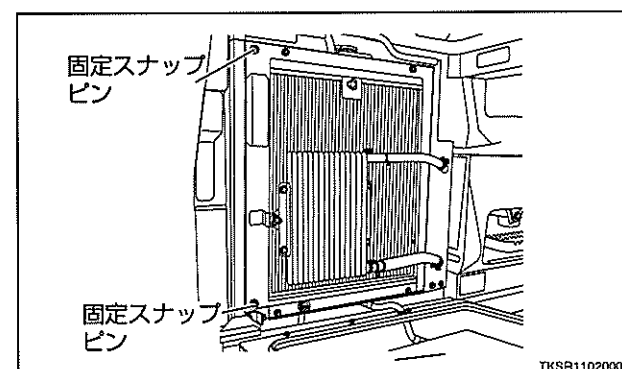
- (1) ラジエータ前カバーを閉じてください。



- (2) オイルクーラ固定チョウナットを取り付けてください。



- (3) ラジエータ前カバー固定スナップピンを取り付けてください。



- (4) ゆっくりエンジンカバーを閉めてください。

11.3 チェンカバー

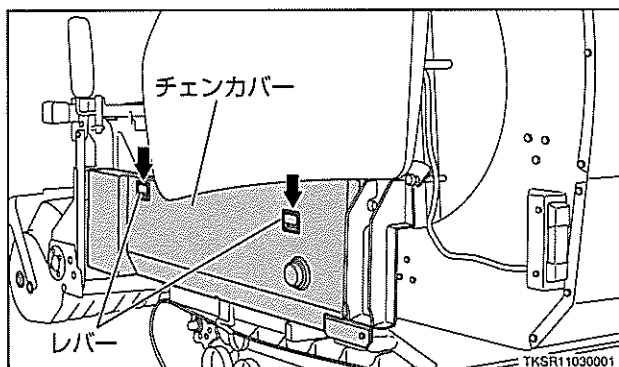
警告

- 各部の開閉作業時は、自走ロールベアラを平たんな場所に置き、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチキーを抜いて、周囲の安全を確認してから行ってください。

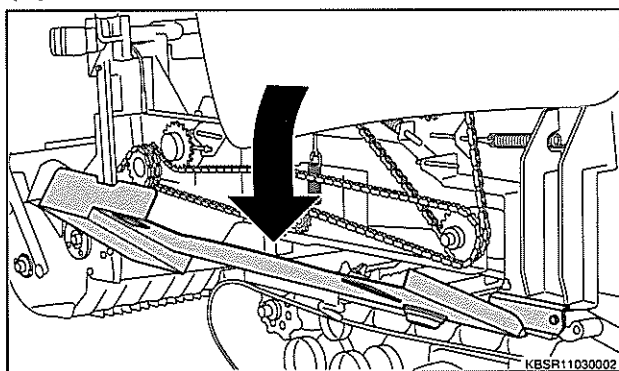
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ チェンカバーの開けかた

- (1) 矢印の箇所(2箇所)を持ち、レバーを握って、チェンカバーのロックを外してください。

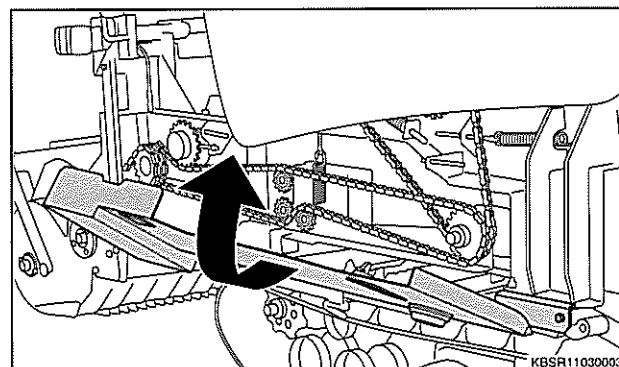


- (2) チェンカバーを、矢印の方向へ開いてください。



◆ チェンカバーの閉じかた

- チェンカバーを、矢印の方向へ閉じてください。



11.4 左サイドカバー

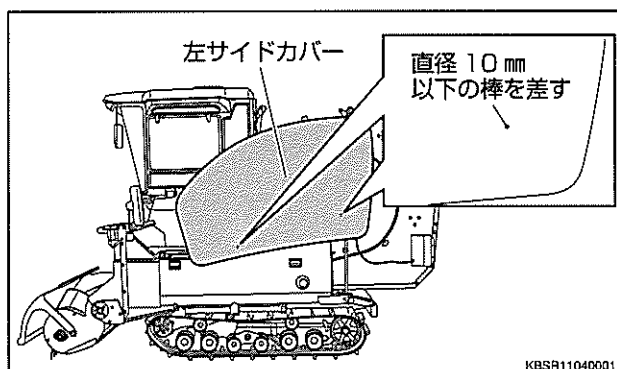
⚠ 警告

- 各部の開閉作業時は、自走ロールベアを平たんな場所に置き、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチキーを抜いて、周囲の安全を確認してから行ってください。

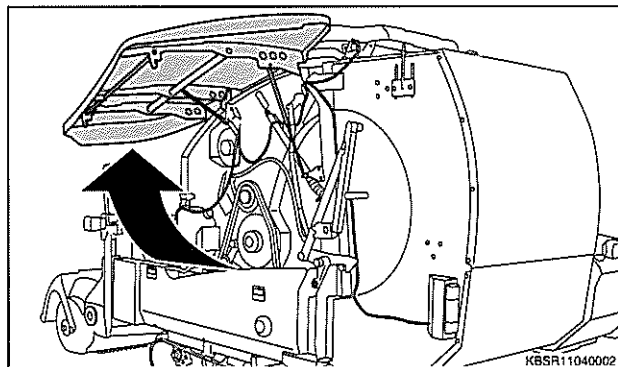
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ 左サイドカバーの開けかた

- (1) 穴に直径 10mm 以下の棒（ドライバーなど）を差し込んで、左サイドカバーのロックを外してください。

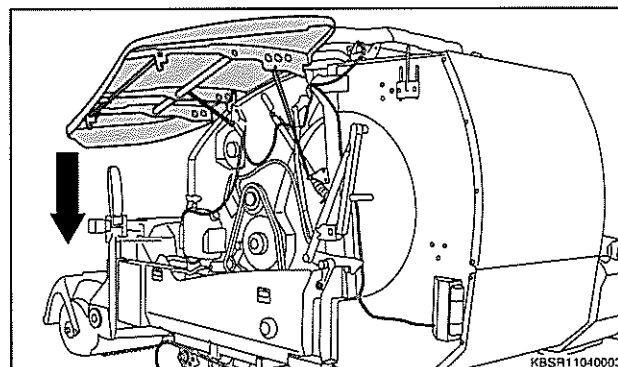


- (2) 左サイドカバーを、矢印の方向へ開いてください。



◆ 左サイドカバーの閉じかた

- 左サイドカバーを、矢印の方向へ閉じてください。



11.5 ベルトカバー

▲ 警告

- 各部の開閉作業時は、自走ロールベアラを平たんな場所に置き、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチキーを抜いて、周囲の安全を確認してから行ってください。

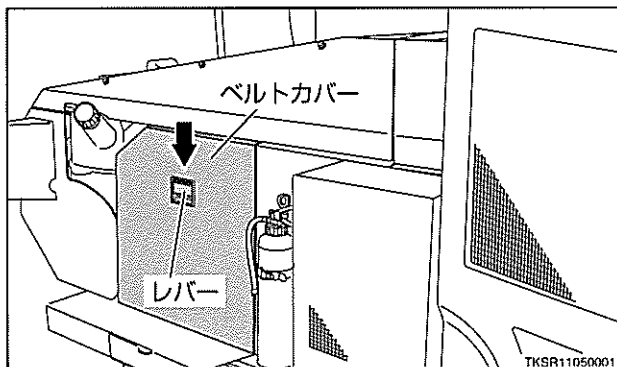
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- エンジンが冷えてから作業してください。

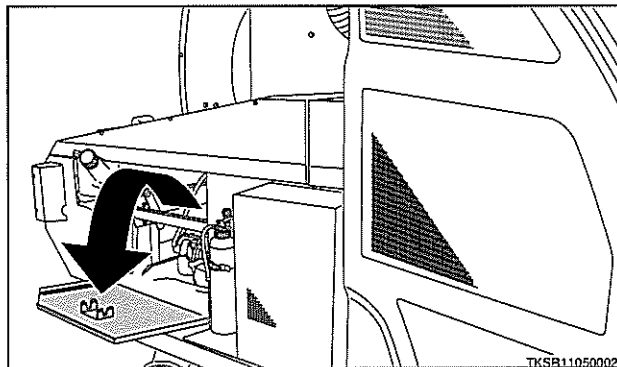
※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ ベルトカバーの取り外しかた

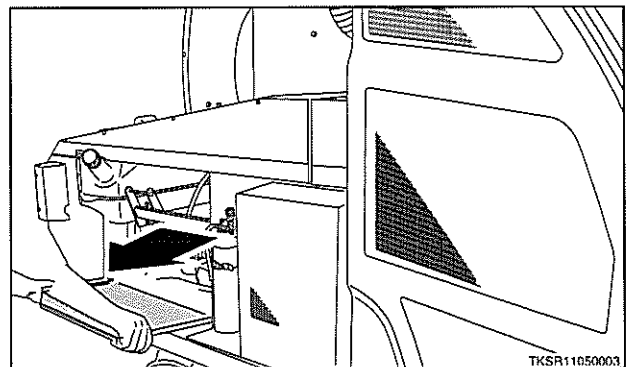
- (1) 矢印の箇所（1箇所）を持ち、レバーを握って、ベルトカバーのロックを外してください。



- (2) ベルトカバーを、矢印の方向へ開いてください。



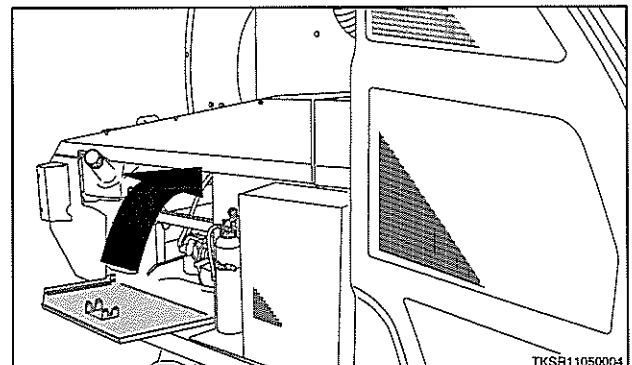
- (3) ベルトカバーを持ち、矢印の方向へ引き上げて、ベルトカバーを取り外してください。



◆ ベルトカバーの取り付けかた

- (1) ベルトカバーと、本機のかんごう部分に注意して、ベルトカバーを本機に取り付けます。

- (2) ベルトカバーを、矢印の方向へ閉じてください。



11. 各部の開閉のしかた

11.6 右駆動カバー

▲ 警告

- 各部の開閉作業時は、自走ロールベアラを平たんな場所に置き、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチキーを抜いて、周囲の安全を確認してから行ってください。

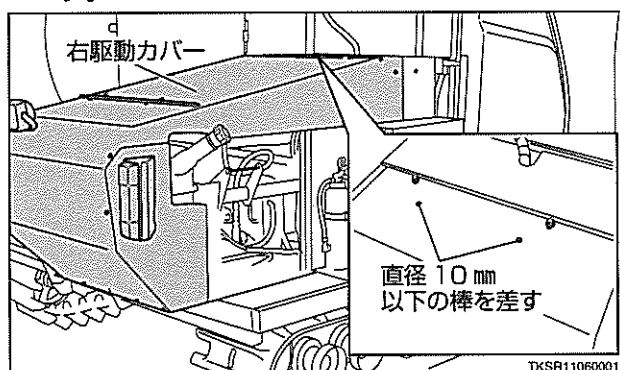
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- エンジンが冷えてから作業してください。

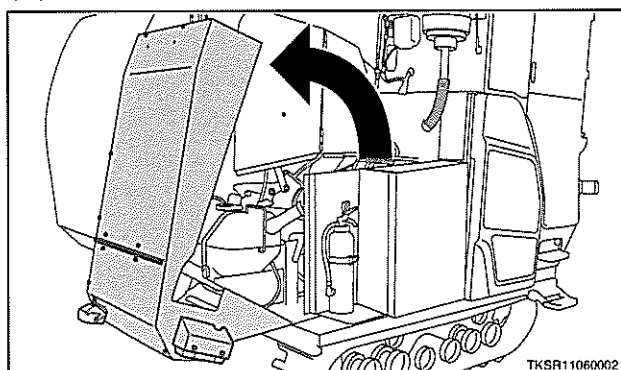
※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ 右駆動カバーの開けかた

- (1) 穴に直径 10mm 以下の棒（ドライバーなど）を差し込んで、右駆動カバーのロックを外してください。

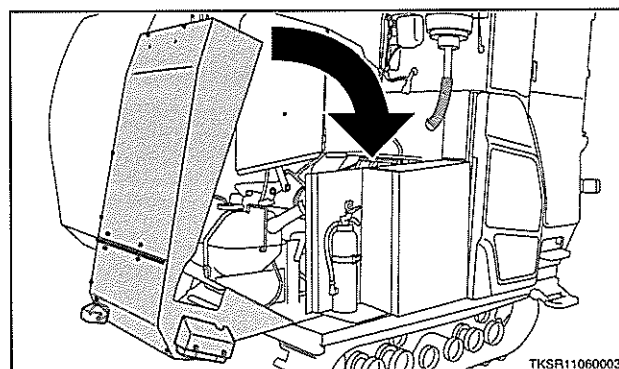


- (2) 右駆動カバーを、矢印の方向へ開いてください。



◆ 右駆動カバーの閉じかた

右駆動カバーを、矢印の方向へ閉じてください。



11.7 ネット駆動カバー

▲ 警告

- 各部の開閉作業時は、自走ロールベアラを平たんな場所に置き、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチキーを抜いて、周囲の安全を確認してから行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- エンジンが冷えてから作業してください。

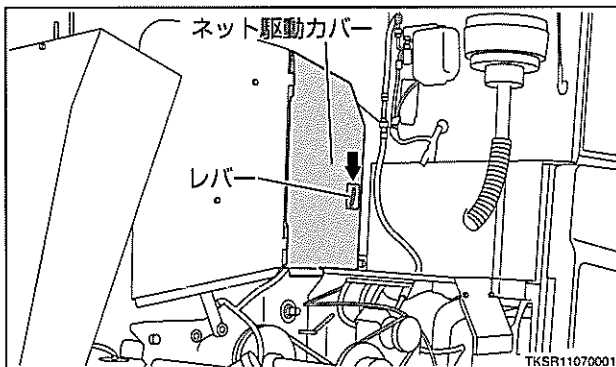
※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

《重要》

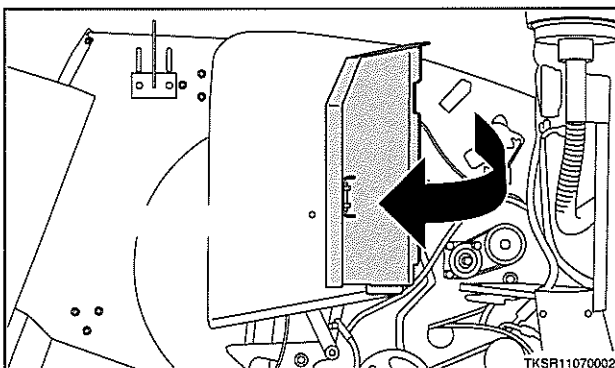
右駆動カバーを開けないと、ネット駆動カバーを開けることができません。

◆ ネット駆動カバーの開けかた

- (1) 矢印の箇所を持ち、レバーを握って、ネット駆動カバーのロックを外してください。

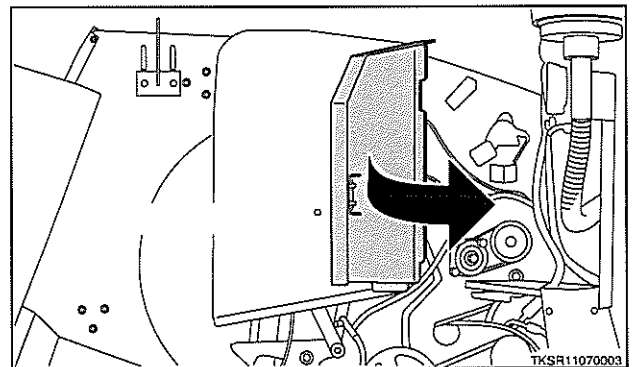


- (2) ネット駆動カバーを、矢印の方向へ開いてください。



◆ ネット駆動カバーの閉じかた

ネット駆動カバーを、矢印の方向へ閉じてください。



11. 各部の開閉のしかた

11.8 キャビンカバー

▲ 警告

- 各部の開閉作業時は、自走ロールベアラを平たんな場所に置き、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチキーを抜いて、周囲の安全を確認してから行ってください。

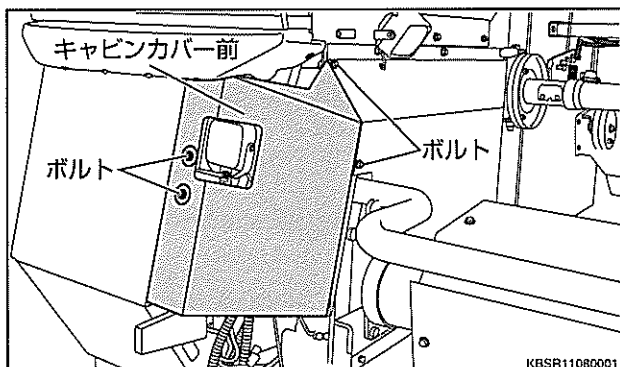
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- エンジンが冷えてから作業してください。

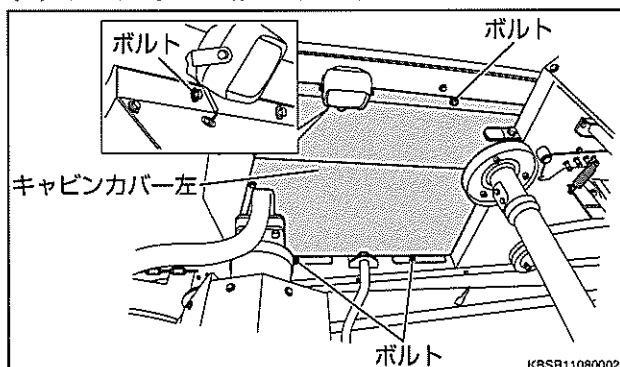
※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ キャビンカバーの取り外しかた

- (1) ボルト（4箇所）を取り外し、キャビンカバー前を取り外してください。



- (2) ボルト（4箇所）を取り外してください。



- (3) 作業灯のコネクターを取り外し、キャビンカバー左を取り外してください。

◆ キャビンカバーの取り付けかた

キャビンカバーを取り付けるときは、取り外すときの逆の手順で、取り付けてください。

11.9 ピックチェンカバー

▲ 警告

- 各部の開閉作業時は、自走ロールベアラを平たんな場所に置き、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチキーを抜いて、周囲の安全を確認してから行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ ピックチェンカバーの取り外しかた

ノブを反時計まわりに約 1/4 回転回し、ピックチェンカバーを取り外してください。

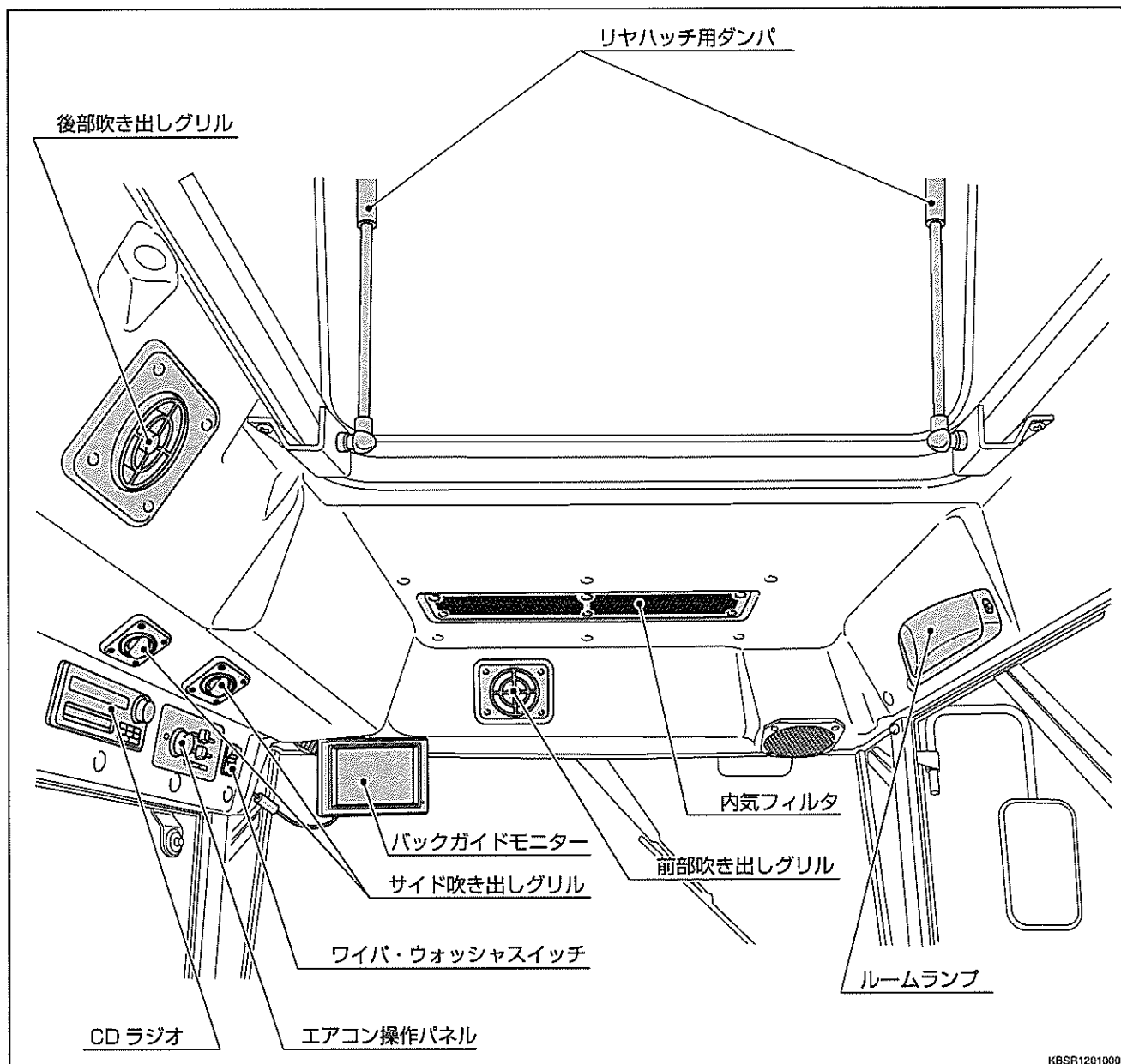


◆ ピックチェンカバーの取り付けかた

ピックチェンカバーを取り付けるときは、ノブを時計まわりに回転しなくなるまで回してください。

12. キャビンについて

12.1 各部の名称



KBSR12010001

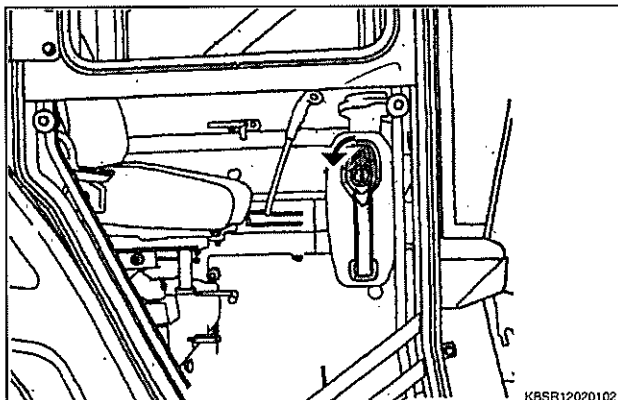
12.2 各部の使いかた

12.2.1 ドアの施錠・解錠

◆ 施錠

キーを差込み、左方向に 90° 回すと施錠します。

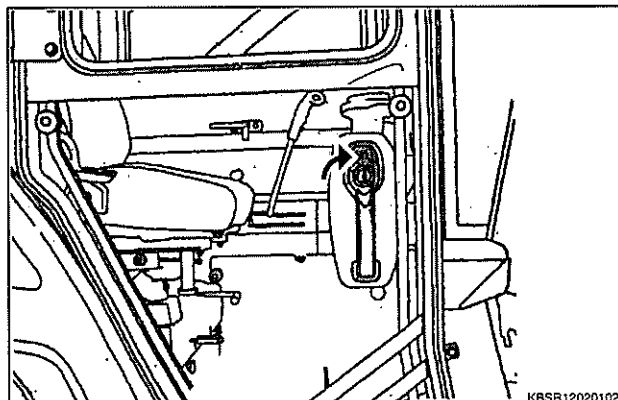
キーは水平位置のままで、抜き取ります。



◆ 解錠

キーを差込み、右方向に 90° 回すと解錠します。

キーは垂直位置のままで、抜き取ります。



12. キャビンについて

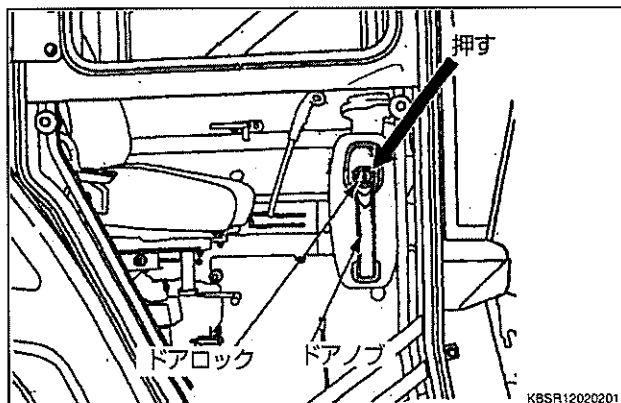
12.2.2 ドアの開けかた

▲ 注意

- ドアを開けたままで走行や作業をしないでください。
※ 守らないと、思わぬ事故やドア破損などを引き起こすおそれがあります。
- ドアを閉めるときは、手などを挟まないよう注意してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 乗降時にドア開閉用ダンパに荷重をかけないでください。
※ 守らないと、ダンパが変形するとドア破損などを引き起こすおそれがあります。

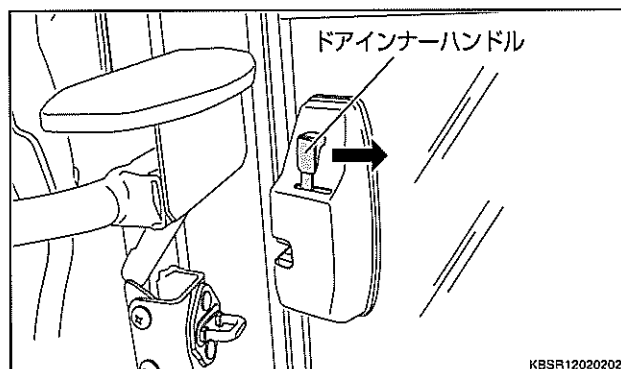
◆ 車外からの開けかた

ドアロックを解錠して、ドアノブを押して、ドアを開けてください。



◆ 車内からの開けかた

ドアインナーハンドルを手前に引いて、ドアを開けてください。

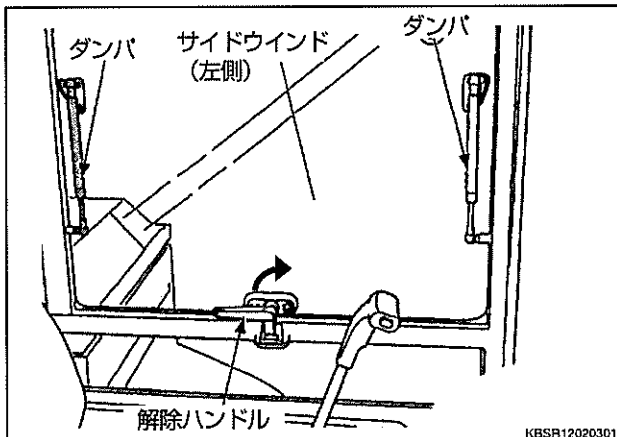


12.2.3 サイドウインド（左側）

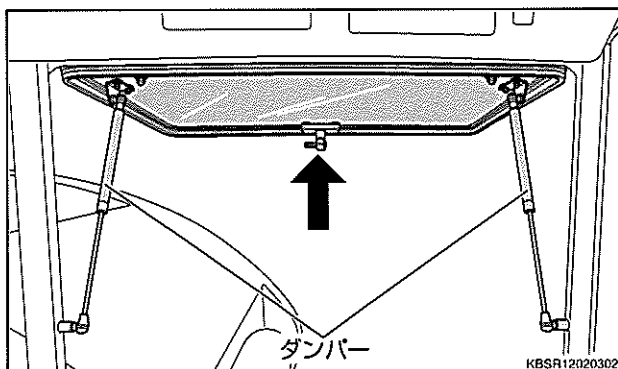
▲ 注意

- サイドウインドを開いたままで走行や作業をしないでください。
※ 守らないと、思わぬ事故やサイドウインド破損などを引き起こすおそれがあります。
- サイドウインドを閉めるときは、手などを挟まないよう注意してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 解除ハンドルをロック位置のままサイドウインドを閉めないでください。
※ 守らないと、解除ハンドル破損などを引き起こすおそれがあります。

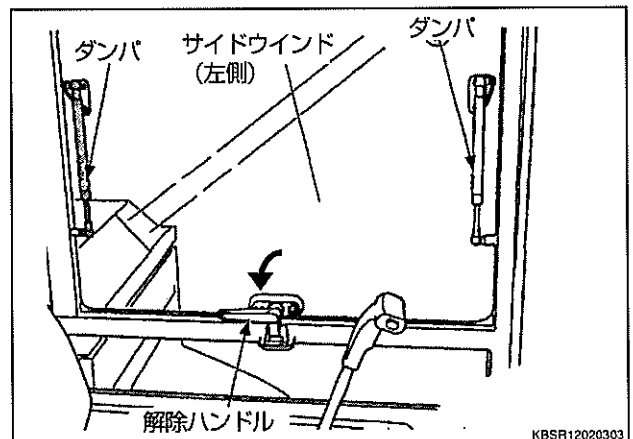
(1) 解除ハンドル部を 90°回転させて、サイドウインド（左側）のロックを解除してください。



(2) サイドウインドを少し押し出すと、ダンパの作用によって、自動的に開きます。



(3) 閉めるときは、ロックが確実にできる所まで、サイドウインド（左側）を手前に引き、解除ハンドル部を 90°回転させて、サイドウインド（左側）をロックしてください。

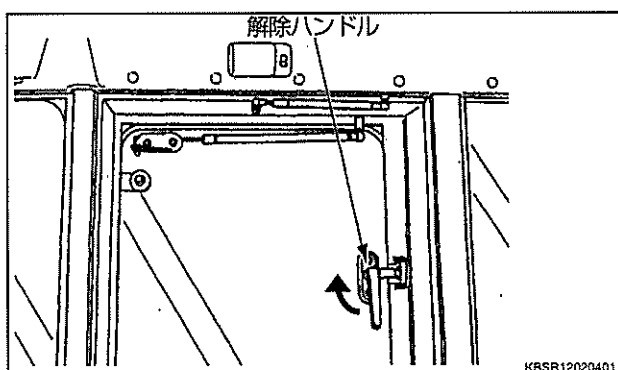


12.2.4 サイドウインド（ドア側）

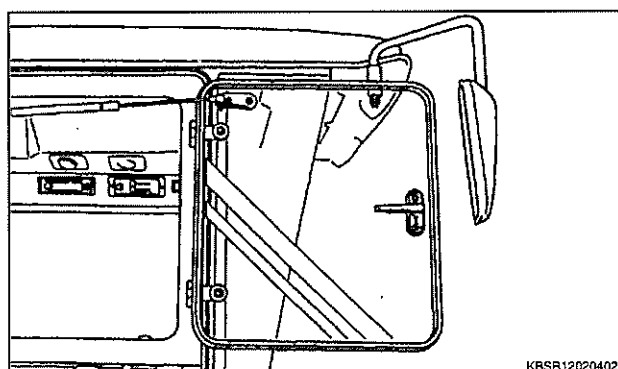
▲ 注意

- サイドウインドを開いたままで走行や作業をしないでください。
※ 守らないと、思わぬ事故やサイドウインド破損などを引き起こすおそれがあります。
- サイドウインドを閉めるときは、手などを挟まないよう注意してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 解除ハンドルをロック位置のままサイドウインドを閉めないでください。
※ 守らないと、解除ハンドル破損などを引き起こすおそれがあります。
- ドアを開閉するときは、サイドウインドを閉じた状態で操作してください。
※ 守らないと、サイドウインド破損などを引き起こすおそれがあります。

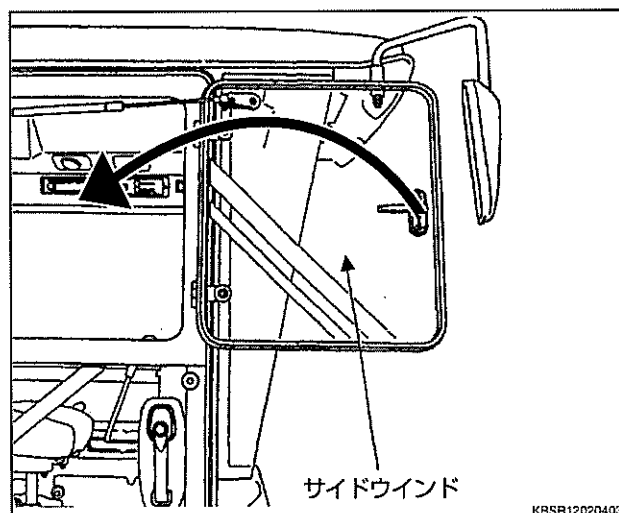
(1) 解除ハンドル部を 90° 回転させて、サイドウインド（ドア側）のロックを解除してください。



(2) サイドウインド（ドア側）は、車体前方に約 180° 開きます。



(3) 閉めるときは、ロックが確実にできる所まで、サイドウインド（ドア側）を手前に引き、解除ハンドル部を 90° 回転させて、サイドウインド（ドア側）をロックしてください。

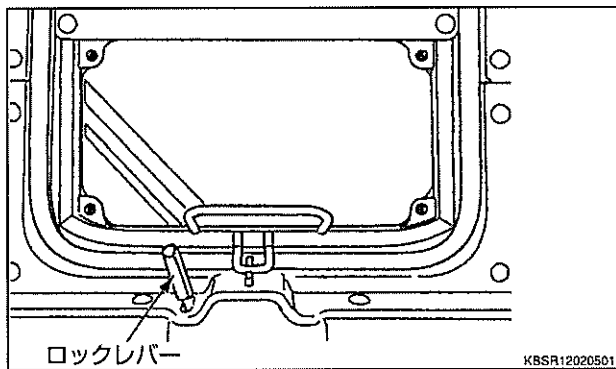


12.2.5 リヤハッチ

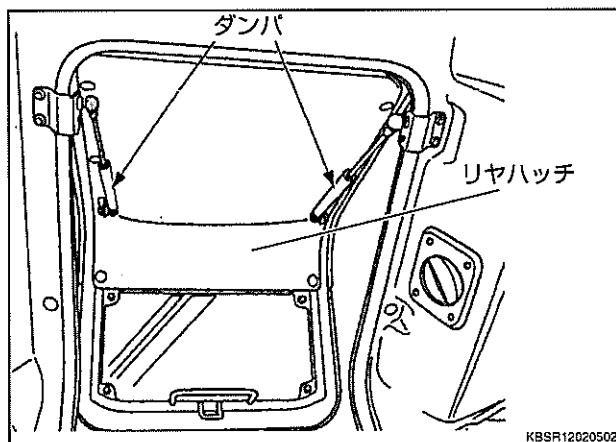
▲ 注意

- リヤハッチを閉めるときは、手などを挟まないよう注意してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- リヤハッチを開いたままで走行や作業をしないでください。
※ 守らないと、リヤハッチ破損などを引き起こすおそれがあります。

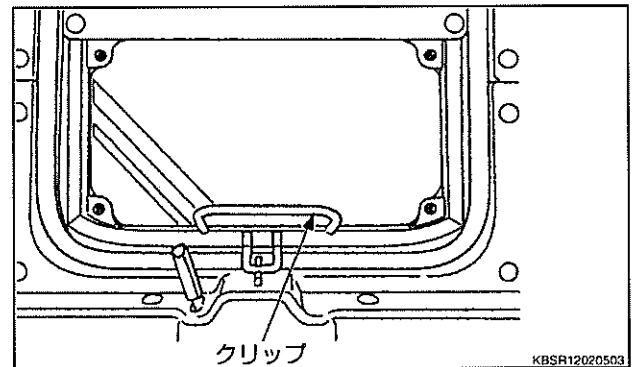
(1) ロックレバーを持ち上げ、ロックを解除してください。



(2) リヤハッチを少し押し出すと、ダンパの作用によって、自動的に開きます。



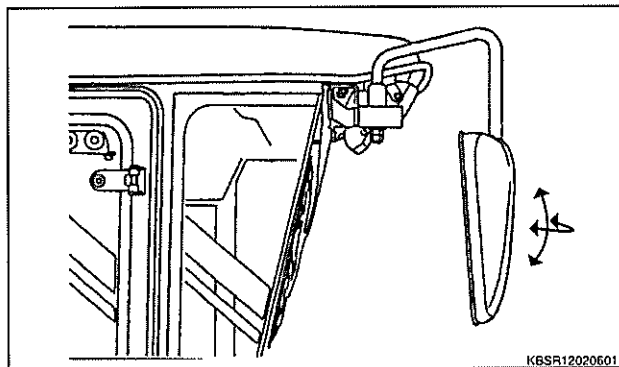
(3) 閉めるときは、グリップを持ちリヤハッチを静かに引き下げ、ロックレバーを確実に、ロックしてください。



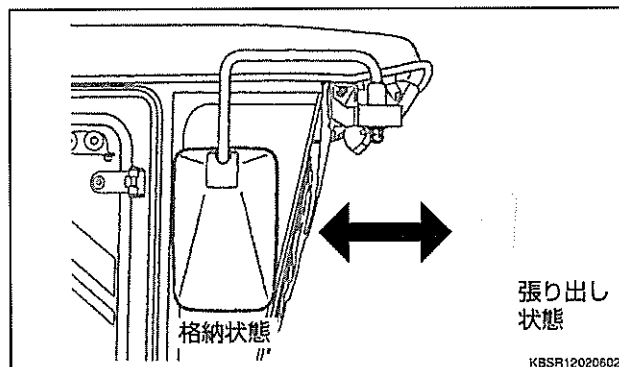
12. キャビンについて

12.2.6 バックミラー

- (1) バックミラーは、上下・左右に角度調整できますので、運転席に座って見やすい位置に、調節してください。



- (2) 狭い所へ自走ロールベアラを格納する場合には、バックミラーが接触しないように、前方または、後方へ倒すことができます。



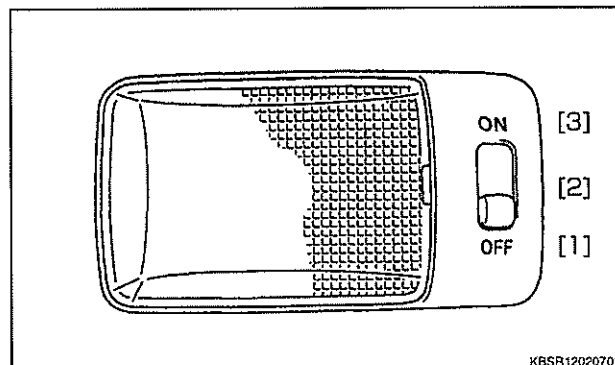
12.2.7 ルームランプ

スイッチの位置により、点灯状態が次のようになります。

[1]「OFF」位置：常時消灯

[2]「中立」位置：常時消灯

[3]「ON」位置：常時点灯



《重要》

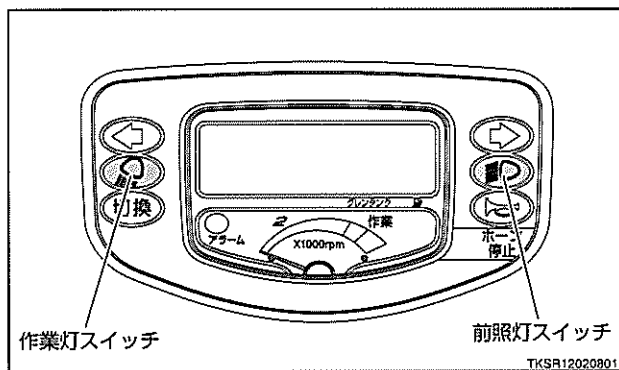
作業終了後、バッテリー上がり防止のため、ルームランプの消灯を確認してください。

12.2.8 作業灯

メインスイッチ「入」位置で、コンビネーションメータを操作すると、次の図の示すように点灯、消灯します。

	コンビネーションメータ	前照灯	作業灯	キャビン上部作業灯	キャビン上部右後作業灯
操作無し	○	—	—	—	—
前照灯スイッチ	○	○	—	—	—
作業灯スイッチ	○	○	○	○	○

○：点灯 —：消灯



《重要》

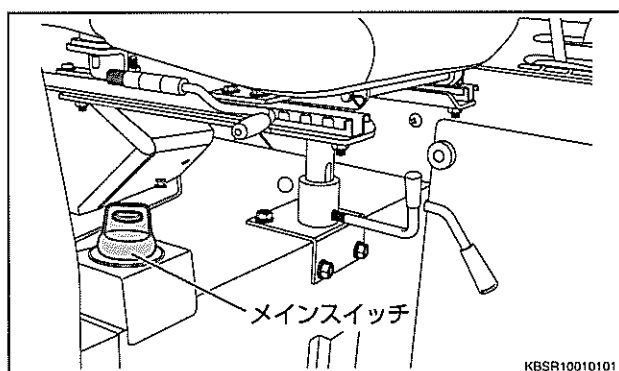
作業終了後、バッテリー上がり防止のため、前照灯および、作業灯の消灯を確認してください。

12.2.9 ワイパ・ウォッシャ

▲ 注意

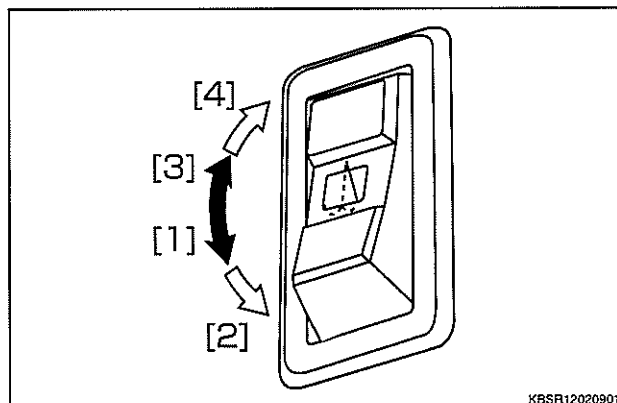
- エンジンを停止したまま、ワイパを長時間使用しないでください。
※ 守らないと、バッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。
- ウォッシャタンクにウォッシャ液が入っていない状態で使用しないでください。
※ 守らないと、ウォッシャモータの故障の原因になります。
- ワイパはウォッシャ液を噴出させてから使用してください。
※ 守らないと、カラふきとなりガラスに傷をつけます。
- 寒冷時、ワイパブレードが凍結した場合、そのままワイパを作業させないでください。
※ 守らないと、故障の原因になります。

(1) ワイパ・ウォッシャを使用するときは、メインスイッチを「入」位置にしてください。



(2) ワイパ・ウォッシャのスイッチ操作のしかたについては、次の通りです。

- [1] ……ワイパ・ウォッシャスイッチを1段階下側に押すと、ワイパが作動します。
- [2] ……[1]の位置からさらに、ワイパ・ウォッシャスイッチを1段階下側に押すと、ワイパが作動しながら、ウォッシャ液が噴出します。
- [3] ……1段階上側に押すと、ワイパ・ウォッシャの作動が停止します。
- [4] ……[3]の位置からさらに、ワイパ・ウォッシャスイッチを1段階上側に押すと、ウォッシャ液が噴出します。



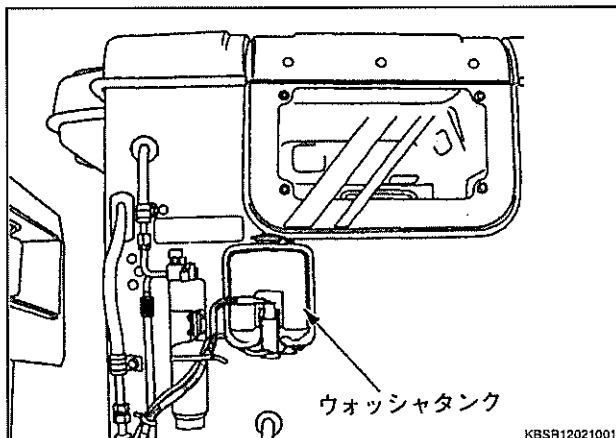
12.2.10 ウォッシャタンク

▲ 注意

- ウォッシャ液の点検・補充をするときは、必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いて行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ウォッシャタンクは、キャビンフレーム後面にあります。



12. キャビンについて

12.2.11 CD ラジオ

▲ 注意

- 本機に機体カバーなどをかけるときは、アンテナを縮めキャビン側に倒してください。

※ 守らないと、アンテナの破損の原因となります。

- CD を使用しないときは、CD を抜き取ってください。

※ そのまま放置すると、野外に日中放置しているときなどにキャビン内が高温になり、CD が変形するなどし故障の原因になります。

CD ラジオの操作方法は、添付の CD ラジオの取扱説明書を参照してください。

■故障・修理の問い合わせ

このラジオが故障した場合、下記メーカーにもご相談いただけます。

(株)日立オートパーツ&サービス

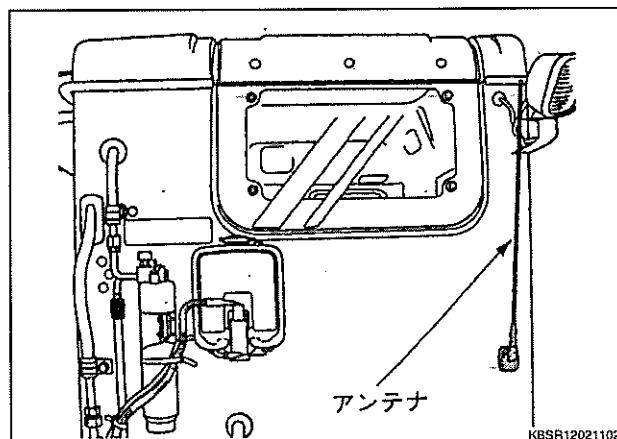
総合サービスセンター

〒963-0725

福島県郡山市田村町金屋字下夕川原 50

TEL.024-944-1305 FAX.024-944-1202

ラジオの受信感度が悪い場合は、アンテナを伸ばして使用してください。

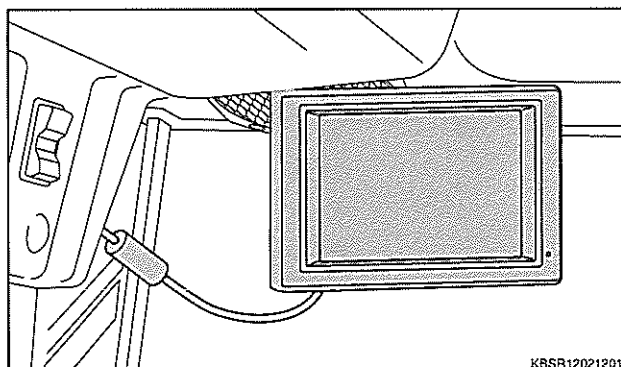


12.2.12 バックガイドモニター

！ 警告

- 機械の周囲に人がいないことを必ず確認し、「ホーン」を鳴らして合図してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 後進するときは、後方の状況に十分注意をはらい、低速で後進してください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれ傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- バックガイドモニターを見ながら後退するときは、次のことに十分注意してください。
 - ・ 映像だけを見ながら後退することは絶対にしないでください。
映像と実際の状況は異なっていることがあり、映像だけを見て後退すると本機をぶつかけたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 外気温が低いときは、映像が暗くなったり、薄れることがあります。
特に動いているものの映像が歪む、または見えなくなることがありますので、必ず周囲の安全を、直接目視で確認してから、運転してください。
※ 守らないと、本機をぶつかけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

(1) バックガイドモニターは、キャビン前方にあります。



(2) エンジンの始動手順に従ってメインスイッチを「入」位置にすると、バックガイドモニターに本機後方の映像が表示されます。

《 重要 》

後退するときは、必ず目視やバックミラーなどで、後方や周囲の安全を直接確認してください。

12.3 エアコン

▲ 警告

- 万一、エアコンが故障した場合は、エアコンスイッチを「OFF」にして「お買い上げ先」で点検整備を受けてください。
- エアコンの回路内には高圧のガスが充填されていますので、配管部分やコンプレッサ部分を緩めると、ガスが噴出して危険です。冷媒（ガス）の補充、その他の作業には特殊な工具と計器類が必要です。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

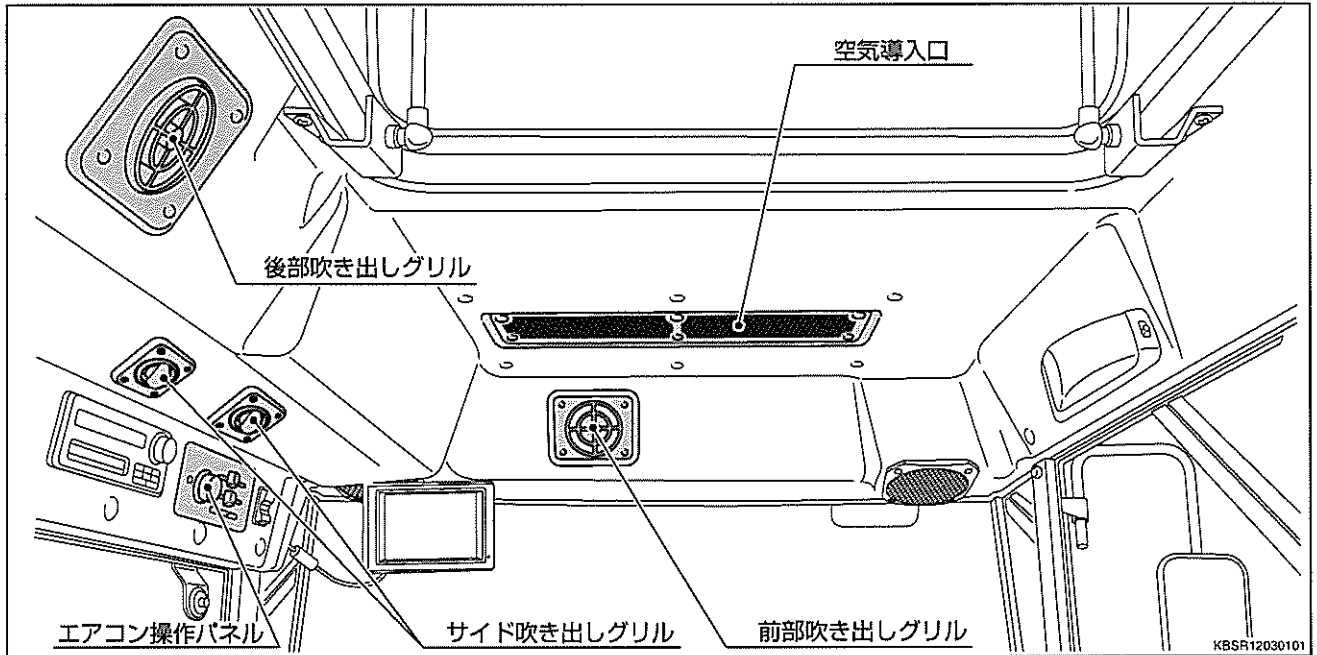
▲ 注意

- ヒーターホースに異常に認めたときは速やかに「お買い上げ先」で点検整備を受けてください。
- ヒーターホースの異常とは、
 - ・ ヒーターホースの傷付き、ひび、ふくらみ
 - ・ ヒーターホース接続部からの水漏れ
- ヒーターホースには直接ふれないでください。
- 機械を長期間使用せず保管される場合は、エアコンのコンプレッサのオイル切れを防ぐため 1 ヶ月に 1 度、エンジン回転をアイドリングにてエアコンスイッチを入れて 5 分以上運転させてください。

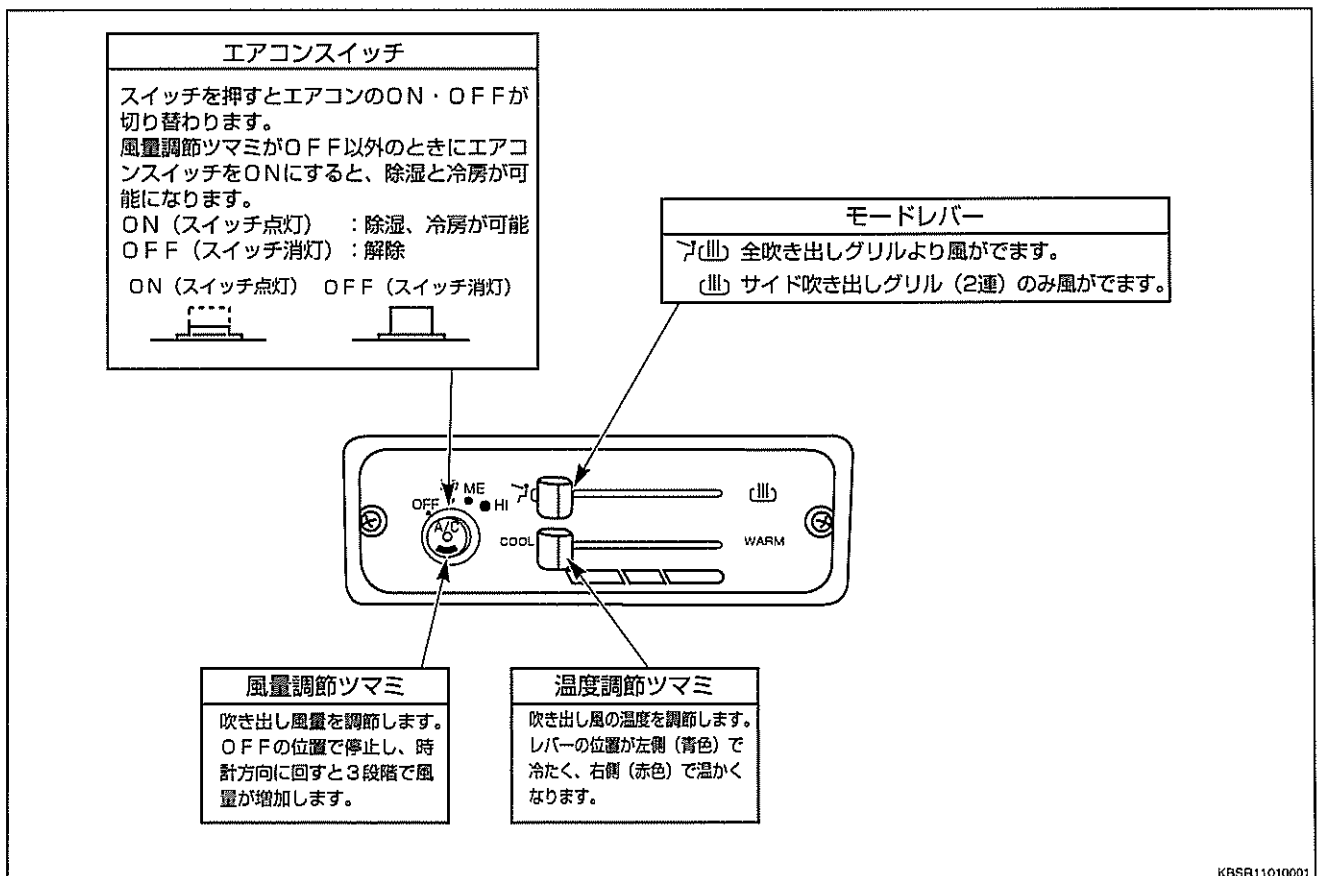
※ 守らないと、エアコン部品が破損するおそれがあります。

12.3.1 各部の名称

◆ 各操作部の説明



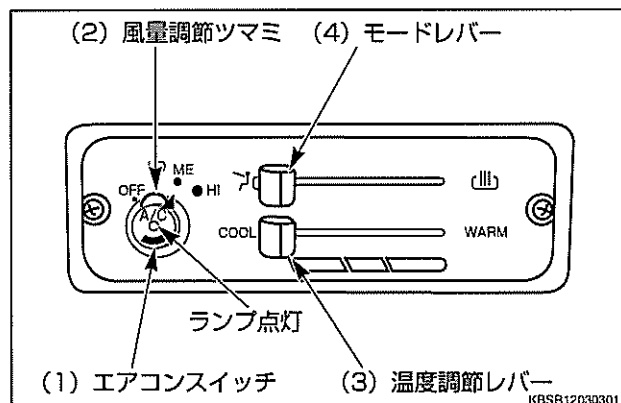
12.3.2 エアコン操作パネル



12.3.3 エアコンの使いかた

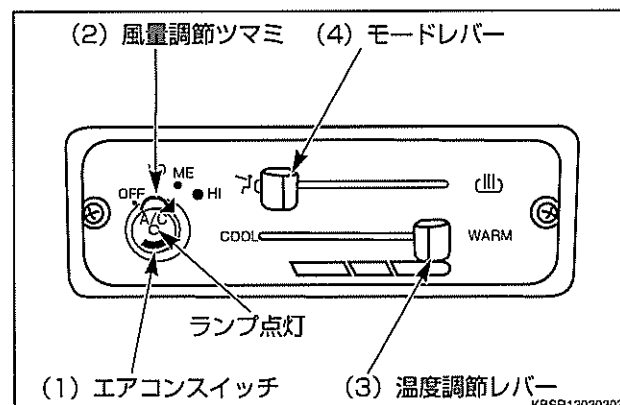
◆ 冷房および除湿

- (1) エアコンスイッチを押して「ON」(ランプ点灯)にしてください。
- (2) 風量調節ツマミを右側へ回し、ファンを作動させてください。
- (3) 温度調節レバーを「COOL」側で調節してください。
- (4) モードレバーを「除湿」位置にしてください。



◆ 暖房・除湿暖房

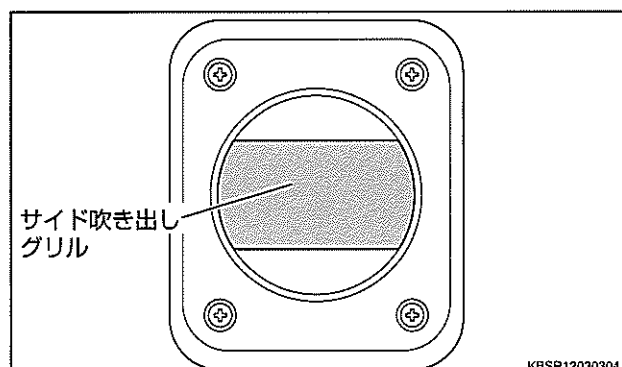
- (1) エアコンスイッチを押して「OFF」(ランプ消灯)にしてください。
- (2) 風量調節ツマミを右側へ回し、ファンを作動させてください。
- (3) 温度調節レバーを「WARM」側で調節してください。
- (4) モードレバーを「暖房」または「除湿」位置にしてください。



◆ デフロスト（曇り除去）

フロントガラスの曇りを除去するときは

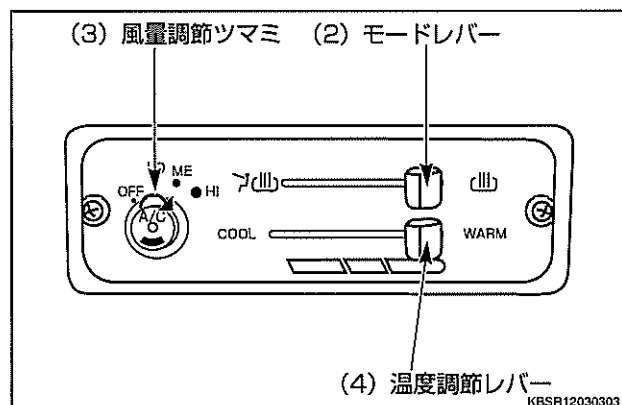
- (1) サイド吹き出しグリルを、フロントガラスの方向に向けてください。



- (2) モードレバーを「」位置にしてください。

- (3) 風量調節ツマミを右側へ回し、「HI」位置にしてください。

- (4) 温度調節レバーを「WARM」側にしてください。



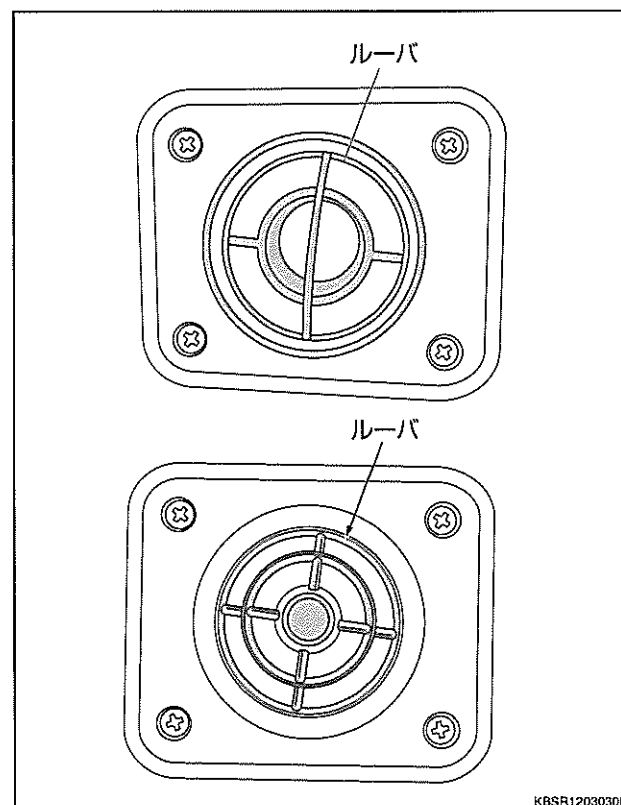
《参考》

外気温が極端に低いとき、エアコンが作動しない場合がありますが、故障ではありません。

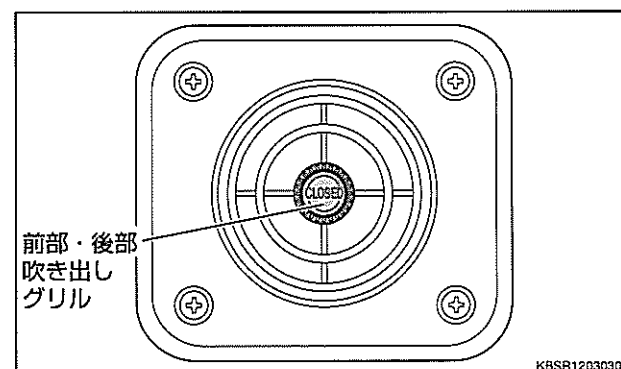
◆ 風向調節

- (1) 風の向きは、吹き出しグリルのルーバの向きによって、自由に調節できます。

また、他の吹き出しグリルの風量を増やしたいときは、グリルを閉じることもできます。



- (2) 前部・後部吹き出しグリルは、ルーバを横向き、他の吹き出しグリルは、中央のツマミを回すことで「閉」位置にできます。



13. 点検整備

⚠ 危険

- 閉め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

※ 守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 警告

- 点検・整備・掃除するときは自走ロールベアを平たんな場所に置いて、駐車ブレーキをかけエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いて各部の回転が止まってから行ってください。

※ 守らないと、巻き込まれ、挟まれ等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- エンジン周辺で作業する時は、エンジンが十分冷えてから行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- ピックアップ部を上げて作業する時は、必ず刈取ロックノブを「ロック」位置に回し、さらにピックアップ部の下にスタンド等の台を置き、ピックアップ部が下がらないようにしてください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 拾い上げ作業は、取り外したカバー類を必ずすべて取り付けてから行ってください。

※ 守らないと、衣服等が巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 運転中および停止直後は、絶対にラジエータキャップを開かないでください。

※ 守らないと、熱湯がふき出して火傷等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

13.1 定期点検一覧表

※機械の使用状況やほ場の状態により、交換時期などは変化します。以下の表は、点検・交換の目安時間です。

運転・作業中に異常を感じた場合は、すみやかに点検を実施し、「お買い上げ先」に相談してください。

○：点検・補給・調整・清掃 ●：交換

点検項目			点検時間	アワーメータ表示時間					参照ページ
			シーズン前	50	100	200	300		
オイル	エンジンオイル	点検・交換	○	●	●	●	●	145	
	延長フランジオイル	交換		●			●	146	
	走行メインギヤケースオイル	点検・交換	○	●		●		147	
	油圧オイル	点検・交換	○	●			●	148	
	逆転ミッションオイル	点検・交換	○	●			●	149	
	チェンオイル	点検・補給	作業前					150	
グリース	HST テンションアーム	グリースアップ	○	○	○	○	○	152	
	転輪関係	グリースアップ	格納時グリース注入					152	
	車体水平および平行制御装置軸受	グリースアップ	○	格納時または 50 時間ごと					153
	ピックアップ部	グリースアップ				○	○	154	
						以降 50 時間ごと			
	チャンバー部	グリースアップ				○	○	155	
						以降 50 時間ごと			
ベルト	エンジン出力ベルト	点検・交換	○		○	○	○	157	
	HST ベルト	点検・交換	○		○	○	●	158	
	作業ベルト	点検・交換	○		○	○	●	159	
	ネット用ベルト	点検・交換	○	○	○	○	○	161	
	クーラベルト	点検・交換	○		○	○	○	162	
チェン	ベアラ駆動チェン	点検・調整	○	○	○	○	○	165	
	中間チェン	点検・調整	○	○	○	○	○	165	
	タイトチェン	点検・調整	○	○	○	○	○	166	
	かき込み駆動チェン	点検・調整	○	○	○	○	○	167	
ワイヤ	アクセルワイヤ	点検・調整	○	○	○	○	●	168	
エアコン	コンプレッサ（マグネットクラッチ）	点検	○	○		○		162	
	冷媒配管（高低圧ホース）	点検	○					—	
	ブロアモータ	点検・交換	○	8 年ごとに交換					—
	エアフィルタ	清掃	作業前					187	
	コンデンサ	清掃	作業前					188	
	レシーバドライヤ	交換	8 年ごとに交換					186	
	サイトグラス	点検	○					—	
	ヒータホース	点検	8 年ごとに交換					—	

点検項目		点検時間	アワーメータ表示時間					参照ページ
			シーズン前	50	100	200	300	
その他	ホイルシャフトオイルシール	交換					○ 600時間で交換	—
	ホイルスプロケット	点検・交換		○	○	○	左右入替	—
	ホイルシャフトＯリング・パッキン	交換					●	—
	アイドルローラオイルシール	交換					●	—
	トラックローラオイルシール	交換					●	—
	燃料フィルタ	清掃	○	○	○	○	○ 400時間で交換	171
	エンジンオイルフィルタ	交換		●		●		172
	油圧オイルフィルタ	交換		●			●	172
	エアクリーナ（エレメント）	清掃・交換	○	○	○	○	● 以降 50 時間ごとに清掃	173
	プレクリーナ	清掃	作業前					173
	燃料ホース	点検・交換	○	以降 2 年ごとに交換				—
	ラジエータ	清掃	○	作業前、詰まり時				177
	ラジエータホース	点検・交換	○	以降 2 年ごとに交換				—
	バッテリー	点検	○					175
	電気配線・ヒューズ関係	点検・交換	○	○		○	○	179
	クローラ	点検・調整	○	30 時間	○	○	○	183
	冷却水	点検・交換	○	格納時交換				184
	ネット切断ナイフ	点検	○		○	○	○	191
	シェアボルト	点検・交換	○	切断時				192

《重要》

- エンジンオイル量・冷却水の量は、作業前に毎回、点検してください。
- 廃棄物をみだりに廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により、処罰されることがあります。
- 自走ロールベアラから廃液を抜く場合は、必ず容器で受けてください。
- オイル等の地面へのたれ流しや、河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
法令により、処罰されることがあります。
- 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄または焼却するときは、「お買い上げ先」または「産業廃棄物処理業者」等に相談して、所定の規則に従って、処理してください。
- ベルト・チェン・ワイヤは、作業時間が約 20 時間程度で、調整してください。
- エアクリーナは、50 時間毎に清掃してください。

13.2 燃料給油

⚠ 危険

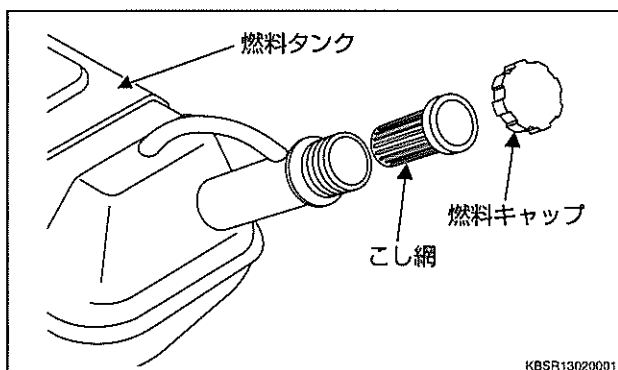
- 燃料補給は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。

※ 守らないと、燃料に引火し、やけどや火災の原因になります。

燃料は、ディーゼル軽油 JIS2 号（寒冷時 JIS3 号）を使用してください。

《重要》

- 燃料タンク内に、水・ゴミ等が入らないよう給油時は、こし網を取らないでください。
- 給油後は、燃料キャップが確実に閉まっていることを確認してください。



13.3 オイル交換のしかた

▲ 注意

- オイル交換による廃油を、下水や土壤に捨てたり、焼却しないでください。
環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
「お買い上げ先」または「産業廃棄物処理業者」等に相談して、所定の規則に従って処
理してください。
 ※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

13.3.1 給油一覧表

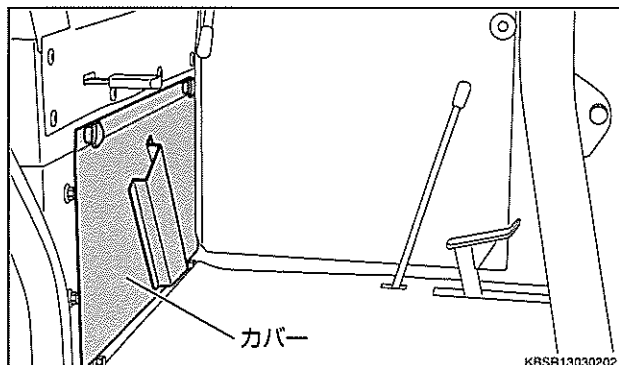
給油箇所	規定量 (リットル)	出荷時のオイルの種類	参照ページ
エンジンオイル	上限 5.0 下限 2.5	中セキスーパーマルチエンジンオイル 10W-30 (CF 級以上)	145
延長フランジオイル	0.15	ギアオイル # 90	146
走行メインギヤケースオイル	6	エクソンモービル モービループ GX80-90	147
油圧オイル	13	中セキハイドロリックオイル HL (VG68) モービル DTE25 (VG46)	148
逆転ミッションオイル	0.8	ギアオイル # 90	149
チェンオイル	5	シェルテラスオイル (VG32)	150

13.3.2 エンジンオイル

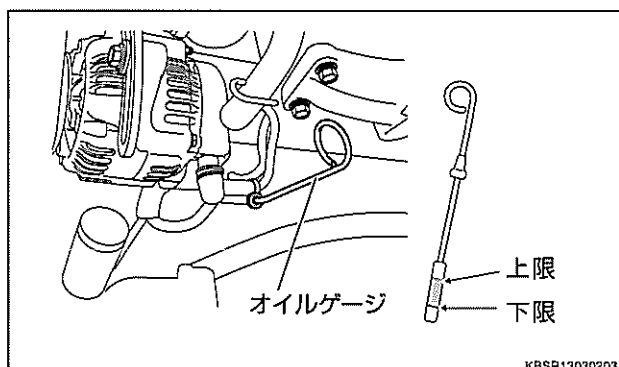
◆ 点検のしかた

(1) 機体を水平にしてください。(86 ページ)

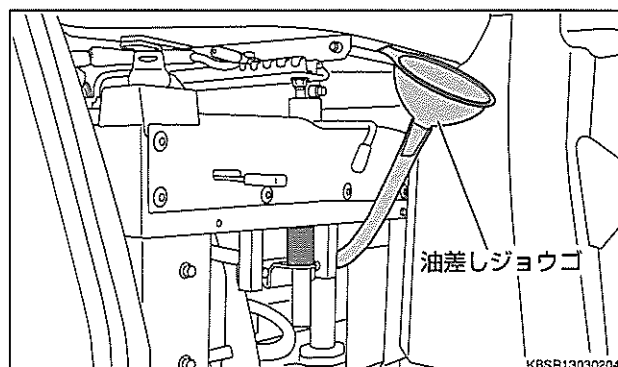
(2) カバーを取り外してください。



(3) オイルゲージを抜いて、先端をきれいに拭き、改めてオイルゲージ差し込んでから再び抜き、オイル量が、オイルゲージの「上限」と「下限」の間にオイルがあるかを、点検してください。



(4) オイルゲージの「下限」以下の場合は、給油キャップを外し、付属品の油差しジョウゴを給油口に差し込み、油差しジョウゴからオイルを「上限」まで補給してください。



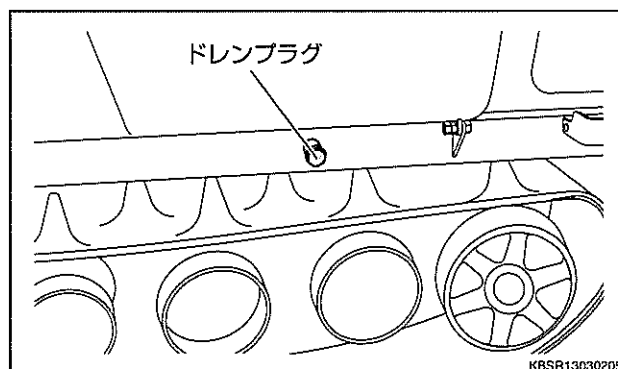
《重要》

- オイルゲージは、ゴムの部分まで完全に差し込んで、検油してください。
- オイルは、オイルゲージ「上限」以上に、給油をしないでください。
- 使用するエンジンオイルは、必ず「キセキ純正オイル」を使用してください。

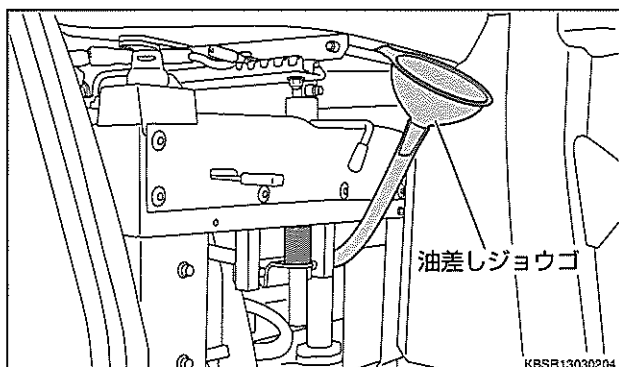
◆ 交換のしかた

(1) ドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。

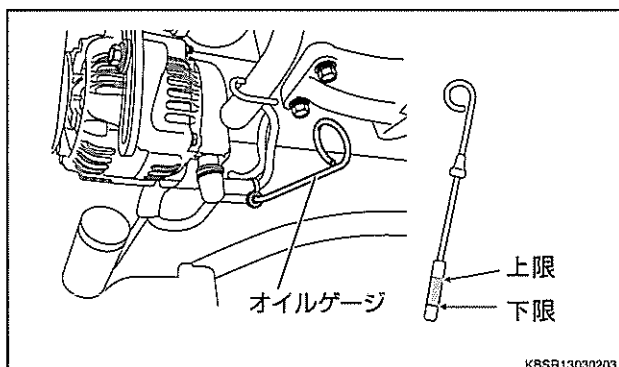
(2) 給油口のふたを外した状態で、ドレンプラグを外し、エンジンオイルを排出してください。



- (3) エンジンオイル排出後、ドレンプラグを締め付け、給油口に付属品の油差しジョウゴを差し込み、油差しジョウゴからエンジンオイルを、規定量入れてください。

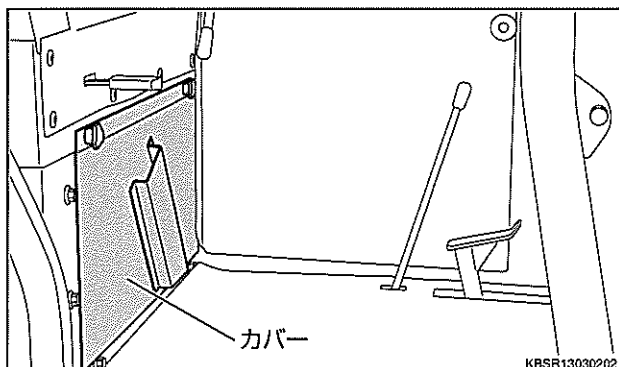


- (4) オイル交換から約 3 分間後に、オイルゲージで、オイル量を点検します。
オイル量が、「上限」と「下限」の間にあることを確認してください。



- (5) 給油口のふたを取り付けてください。

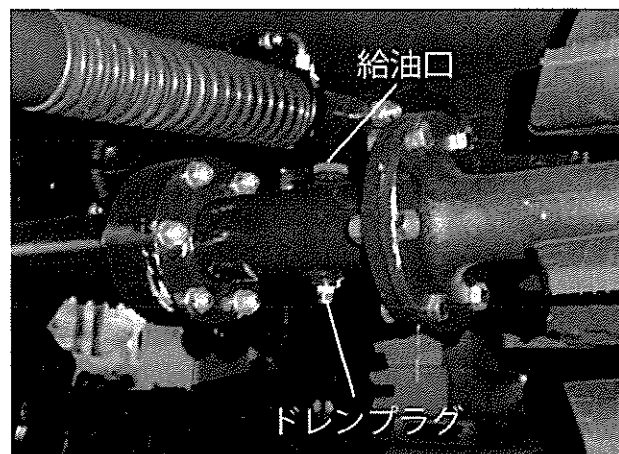
- (6) カバーを取り付けてください。



13.3.3 延長フランジオイル

◆ 交換のしかた

- (1) 機体を水平にしてください。(86 ページ)
- (2) ピックアップ部を上げ、ロック装置を「ロック」位置にしてください。さらにピックアップ部の下に木片、ブロック等のしっかりした台を敷いて固定してください。
- (3) ドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。
- (4) 給油口のふたを外した状態で、ドレンプラグを外し、オイルを排出してください。
- (5) オイル排出後、ドレンプラグを締め付け、給油口から、規定量 (0.15 ℓ) オイルを補給してください。



《 重要 》

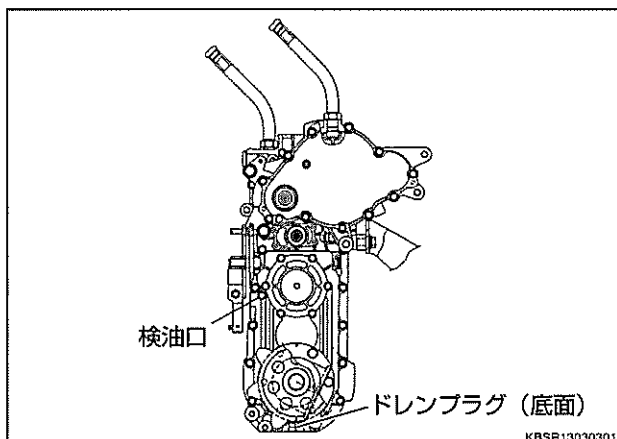
作業前に、給油口の周辺のコロリを、完全に取り除いてください。

- (6) 給油口のふたを取り付けてください。
- (7) 作業後は、ロック装置を「解除」位置にしてください。

13.3.4 走行メインギヤケースオイル

◆ 点検のしかた

- (1) 機体を水平にしてください。(86 ページ)
- (2) キャビンカバーを取り外してください。
(122 ページ)
- (3) 検油口のボルトを外し、油面が検油口に達しているか確認してください。(油量は、検油口よりオイルが流れ始めれば、適量です。)



- (4) 油面が検油口以下の場合は、給油口から、ギヤオイルが油面が検油口に達するまで、補給してください。(交換のしかた参照)

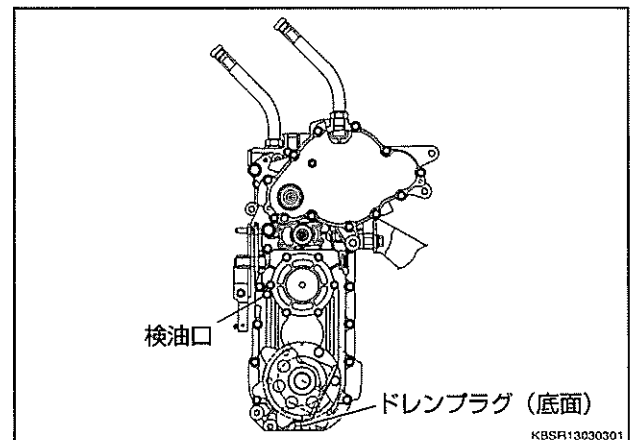
《重要》

ギヤオイルは、検油口以上に入れないでください。

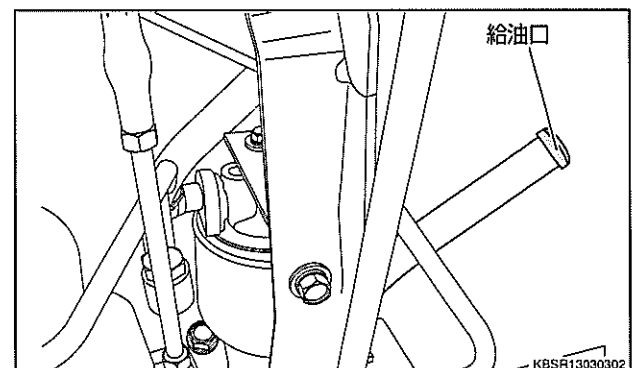
- (5) 検油口のボルトを締め付けてください。

◆ 交換のしかた

- (1) ドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。
- (2) 検油口のボルトと、ドレンプラグを外し、ギヤオイルを排出します。



- (3) オイル排出後、ドレンプラグを締め付け、給油口のふたを外してから、ギヤオイルが油面が検油口に達するまで、補給してください。



《重要》

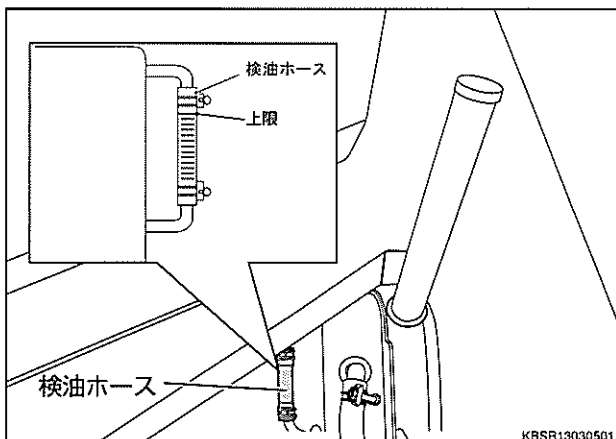
使用するギヤオイルは、必ず「キセキ純正オイル」を使用してください。

- (4) 給油口のふたを取り付けてください。
- (5) キャビンカバーを取り付けてください。
(122 ページ)

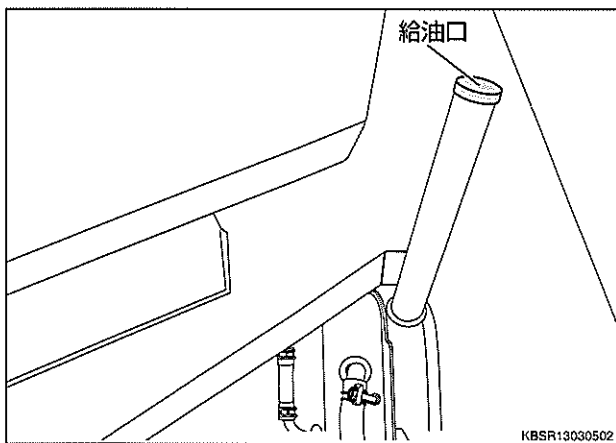
13.3.5 油圧オイル

◆ 点検のしかた

- (1) 機体を水平にしてください。(86 ページ)
- (2) ベルトカバーを取り外してください。(119 ページ)
- (3) 油圧オイルタンク横の検油ホースの上限近くまで、オイルが達しているか、確認してください。



- (4) 検油ホース上限以下の場合は、給油口のふたを外し、給油口よりオイルを規定量、補給してください。

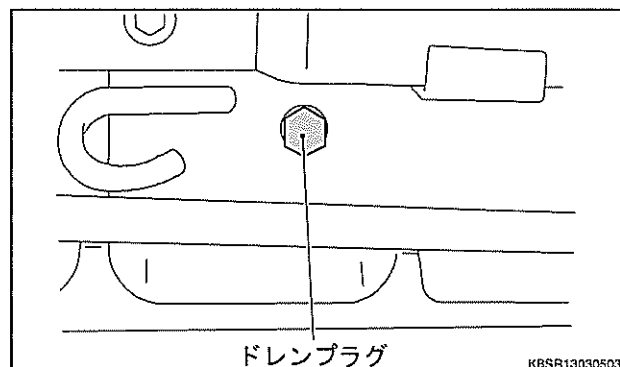


《重要》

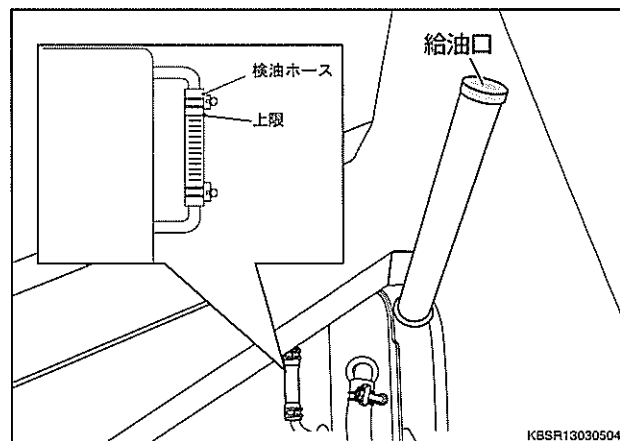
補給する時は、給油口周辺のコロリを、完全に取除いてください。

◆ 交換のしかた

- (1) ドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。
- (2) 給油口のふたを外した状態で、ドレンプラグを外し、オイルを排出してください。



- (3) オイル排出後、ドレンプラグを締め付け、給油口から、規定量に達するまでオイルを補給してください。



《重要》

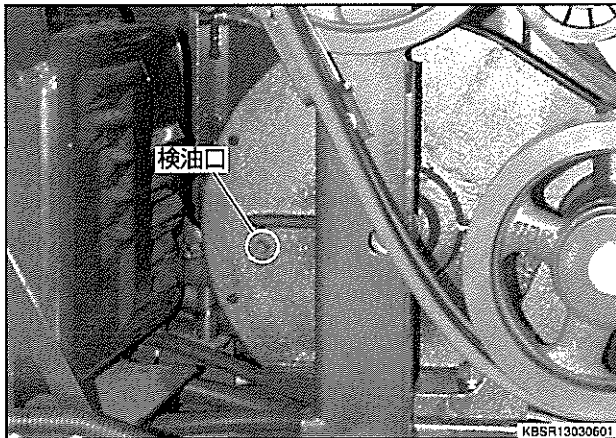
作業前に、給油口の周辺のコロリを、完全に取除いてください。

- (4) 給油口のふたを取り付けてください。
- (5) ベルトカバーを取り付けてください。(119 ページ)

13.3.6 逆転ミッションオイル

◆ 点検のしかた

- (1) 機体を水平にしてください。(86 ページ)
- (2) ベルトカバーを取り外してください。(119 ページ)
- (3) 検油口のボルトを外し、油面が検油口に達しているか確認してください。(油量は、検油口よりオイルが流れ始めれば、適量です。)



- (4) 油面が検油口以下の場合は、給油口のふたを外し、給油口からギヤオイルが、検油口に達するまで、補給してください。(交換のしかた参照)

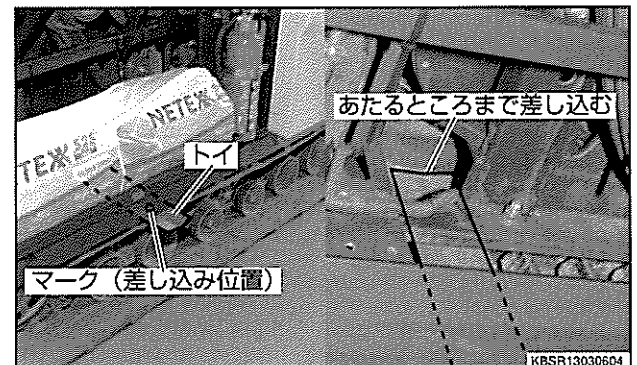
《 重要 》

ギヤオイルは、検油口以上に入れないでください。

- (5) 検油口のボルトを締め付けてください。

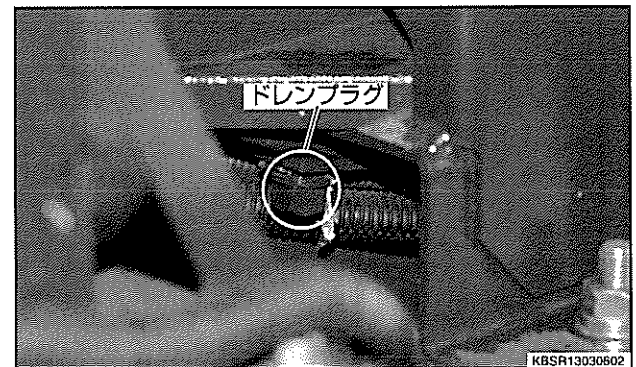
◆ 交換のしかた

- (1) 次のマーク位置に、トイを差し込んでください。

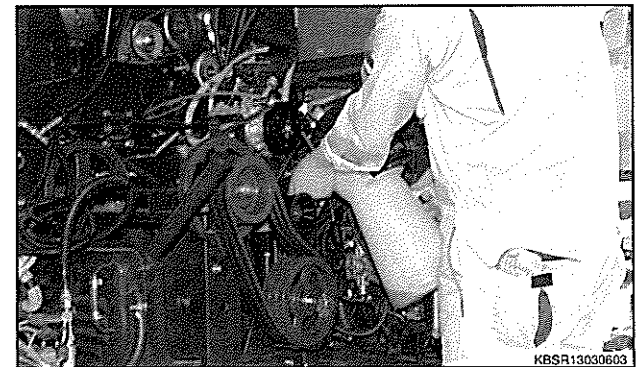


- (2) トイの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。

- (3) 給油口のふたを外した状態で、ドレンプラグを外し、オイルを排出してください。



- (4) オイル排出後、ドレンプラグを締め付け、給油口より規定量に達するまで、オイルを入れてください。



- (5) 給油口のふたを取り付けてください。

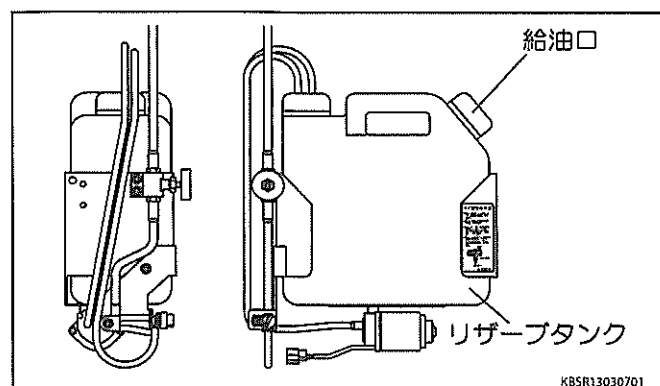
- (6) ベルトカバーを取り付けてください。(119 ページ)

13.3.7 チェンオイル

◆ 点検のしかた

(1) 左サイドカバーを開けてください。(118 ページ)

(2) リザーブタンクに、チェンオイルが入っているかを確認してください。リザーブタンクのオイルが少ない場合は、リザーブタンクの給油口を開け、規定量のオイルを補給してください。



◆ リザーブタンクへの給油のしかた

リザーブタンクの給油口を開け、チェンオイルを規定量、補給してください。

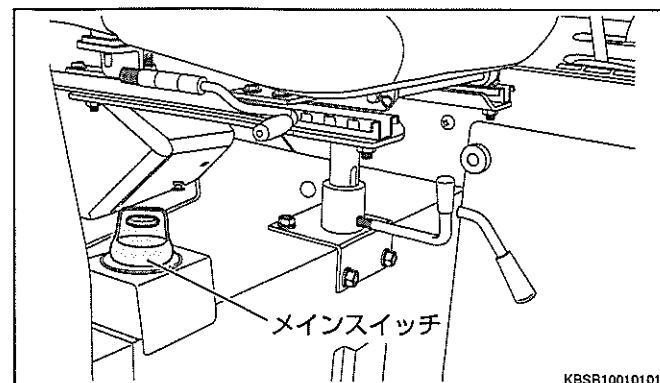
《 参考 》

リザーブタンク内のオイルが、完全に無くなっていた場合は、エア抜きを行う必要があります。

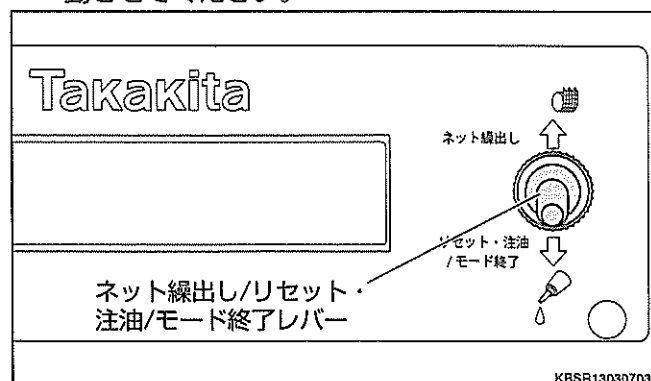
(3) 左サイドカバーを閉じてください。(118 ページ)

◆ チェンへの注油のしかた

(1) メインスイッチを「入」位置にしてください。



(2) コントローラーのネット繰出し / リセット・注油 / モード終了レバーを「リセット・注油 / モード終了」側に押して、リザーブタンクのモータを作動させてください。

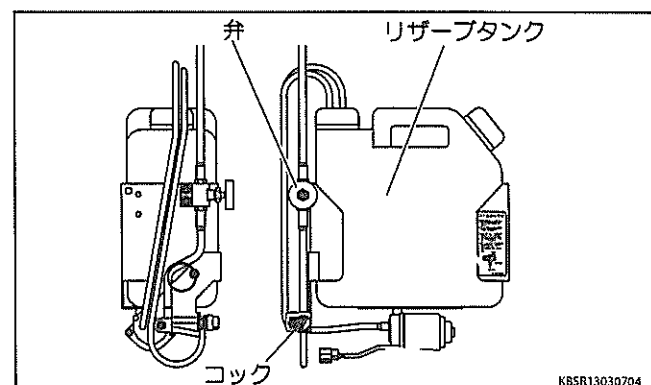


◆ エア抜きのしかた

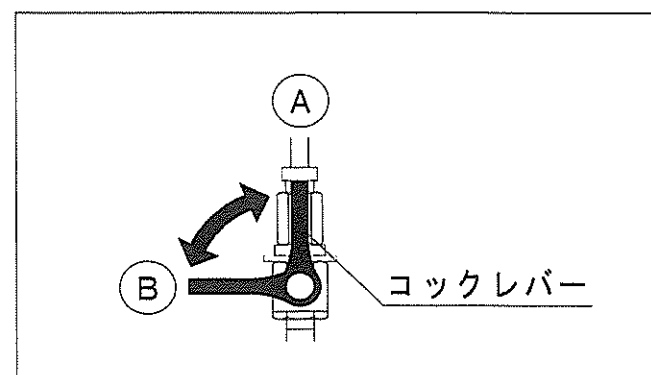
(1) メインスイッチを「入」位置にしてください。

左サイドカバーを開けてください。(118 ページ)

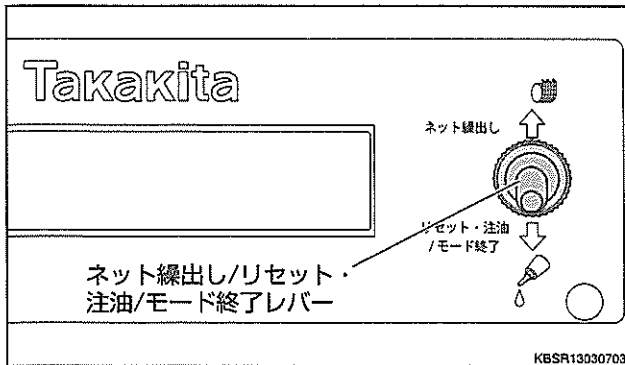
(2) リザーブタンクに、チェンオイルが入っているかを確認してください。



(3) コックレバーをA方向にしてください。



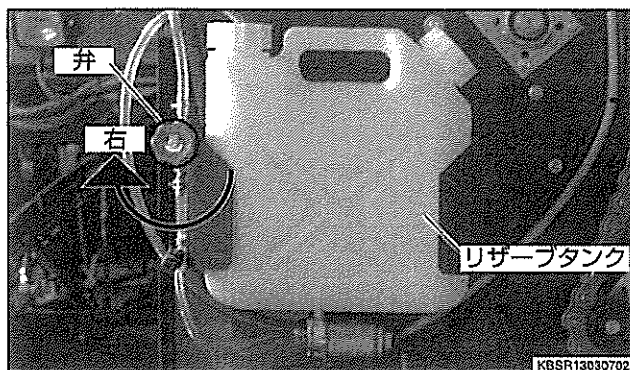
- (4) 赤のホースをタンクより抜き、コントローラーのネット繰出し/リセット・注油/モード終了レバーを「リセット・注油/モード終了」側に押して、リザーブタンクのモータを作動させてください。



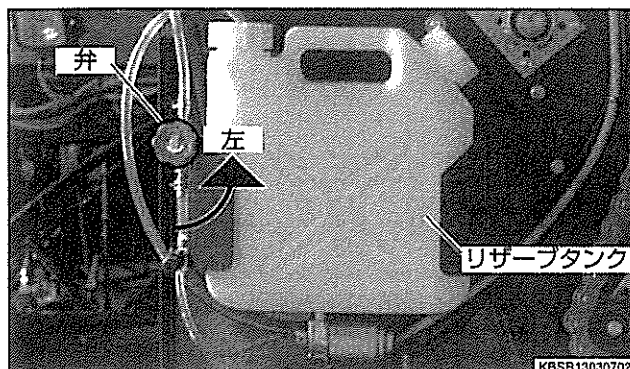
- (5) オイルが出ている事が確認できたら、ホースを元に戻し、コックレバーをB方向にしてください。
 (6) 左サイドカバーを閉じてください。(118 ページ)

◆ チェンへの注油量の調整方法

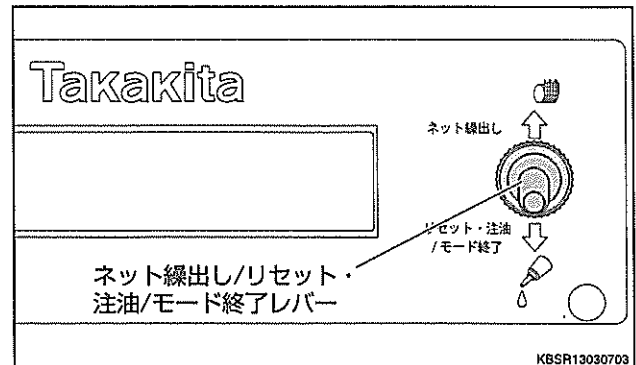
- (1) リザーブタンク横の弁を、「右」方向に締め切ってください。



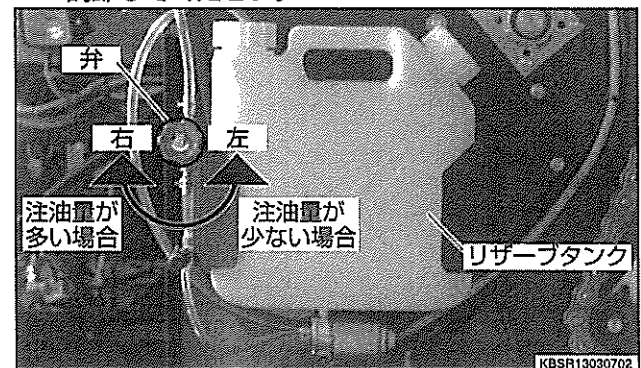
- (2) リザーブタンク横の弁を、「左」方向に約 1/4 回転戻してください。



- (3) コントローラーのネット繰出し/リセット・注油/モード終了レバーを「リセット・注油/モード終了」側に押して、リザーブタンクのモータを作動させてください。



- (4) 注油量を見て、多ければ「右」方向に弁を動かし、少なければ「左」方向に弁を動かして、注油量を調節してください。



《 参考 》

定期的にノズルの清掃を行ってください。

注油ノズルには草やワラが付着しやすく、そのまま使用されると、チェンへの注油がされていないことがありますので、定期的にノズル先端部に付着した草やワラを清掃してください。

13.4 グリース注入のしかた

⚠ 警告

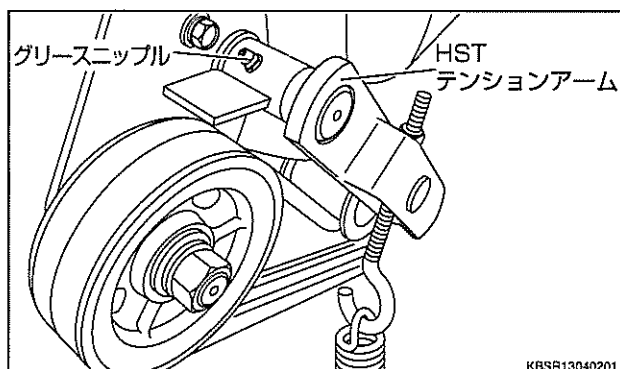
- 必ず駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 取り外したカバー類は必ずすべて取り付けてください。
※ 守らないと、衣服等が巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

13.4.1 使用グリース一覧表

給油箇所	規定量	出荷時のグリースの種類	参照ページ
HST テンションアームボス部	適量	シトラックス No.2	152、205
転輪関係	適量	シトラックス No.2	152、205
車体水平および平行制御装置軸受	適量	シトラックス No.2	153、205
ピックアップ部	適量	サンライトグリス No.2	154、205
チャンバー部	適量	サンライトグリス No.2	155、205

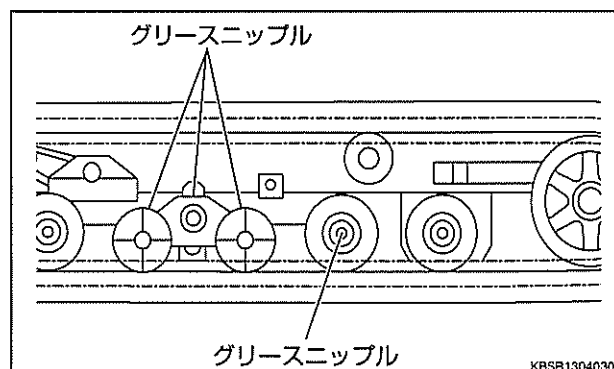
13.4.2 HST テンションアームのグリースアップ

HST テンションアームのボスの両サイドから、グリースがわき出るまで、封入してください。



13.4.3 転輪関係のグリースアップ

キャップを外して、転輪の裏側のオイルシールから、グリースがわき出るまで、封入してください。



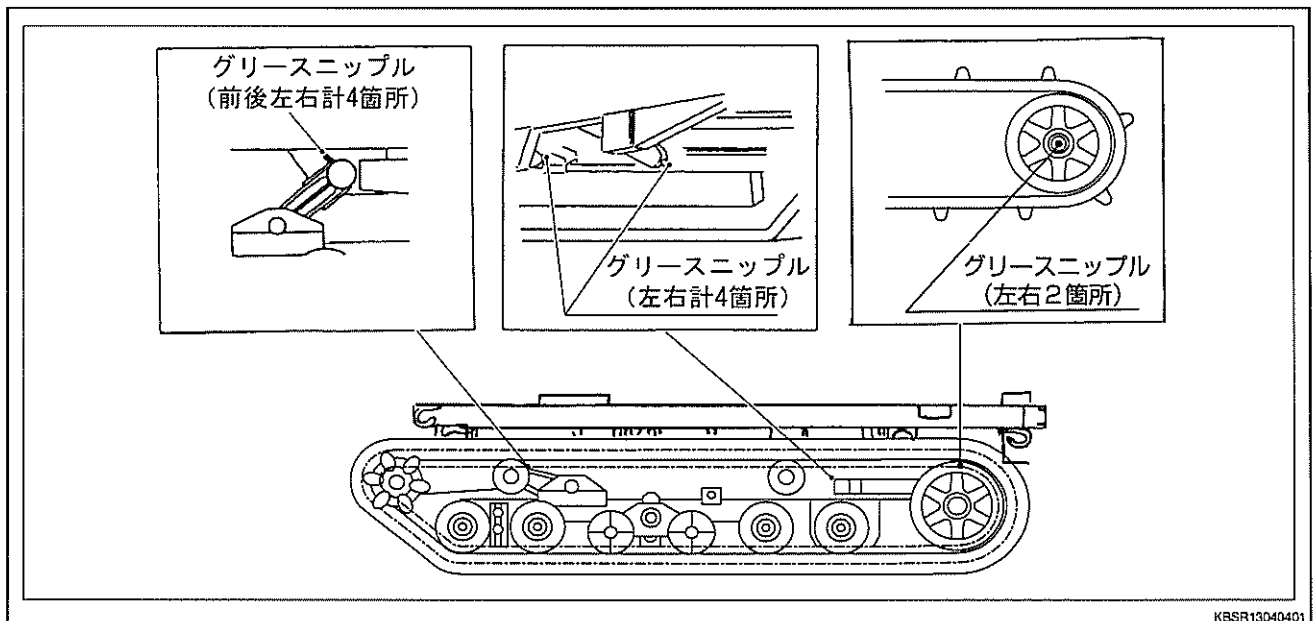
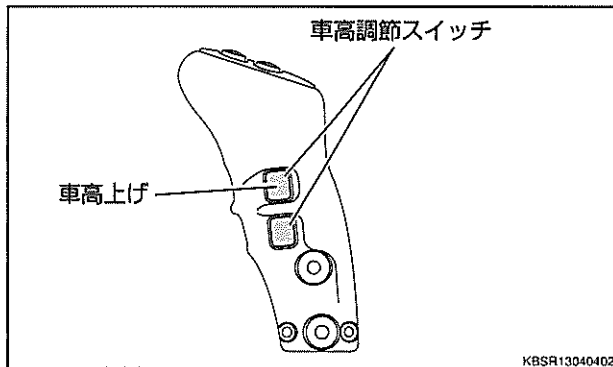
《 重要 》

転輪が、泥水につかる作業をした場合も、グリースアップをしてください。

13.4.4 車体水平および平行制御装置軸受のグリースアップ

長期格納前または、50 時間ごとに、下記の部位にグリースアップしてください。

- (1) グリースアップ箇所は、グリースニップルのキャップに黄色で、表示しています。
- (2) グリースアップを効率的に行うために、車高調整スイッチを操作し、車高を上げてください。

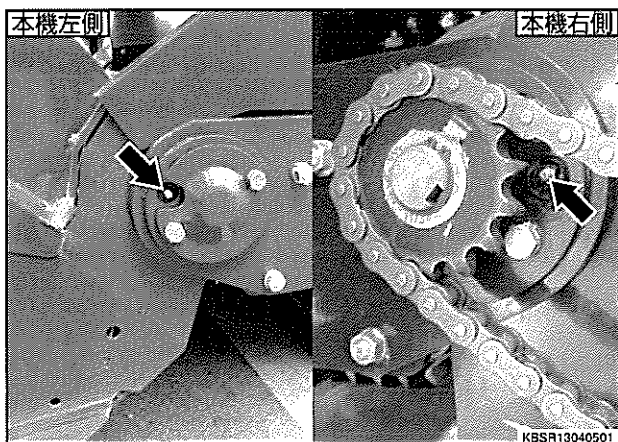


13.4.5 ピックアップ部のグリースアップ

長期格納前または、50 時間ごとに、次の部位にグリースアップしてください。

(1) 本機右側のピックチェーンカバーを取り外してください。(123 ページ)

(2) 次の箇所に、グリースアップしてください。

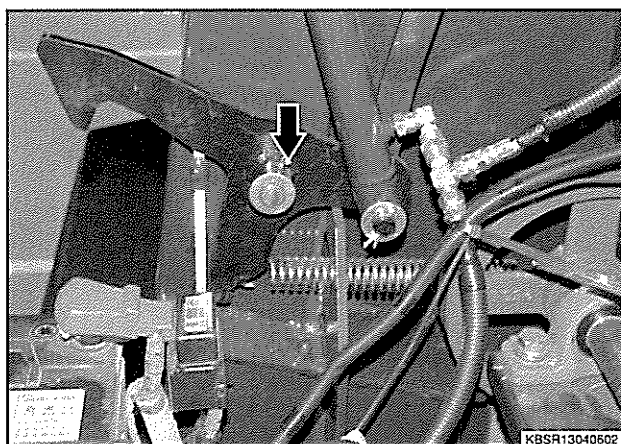
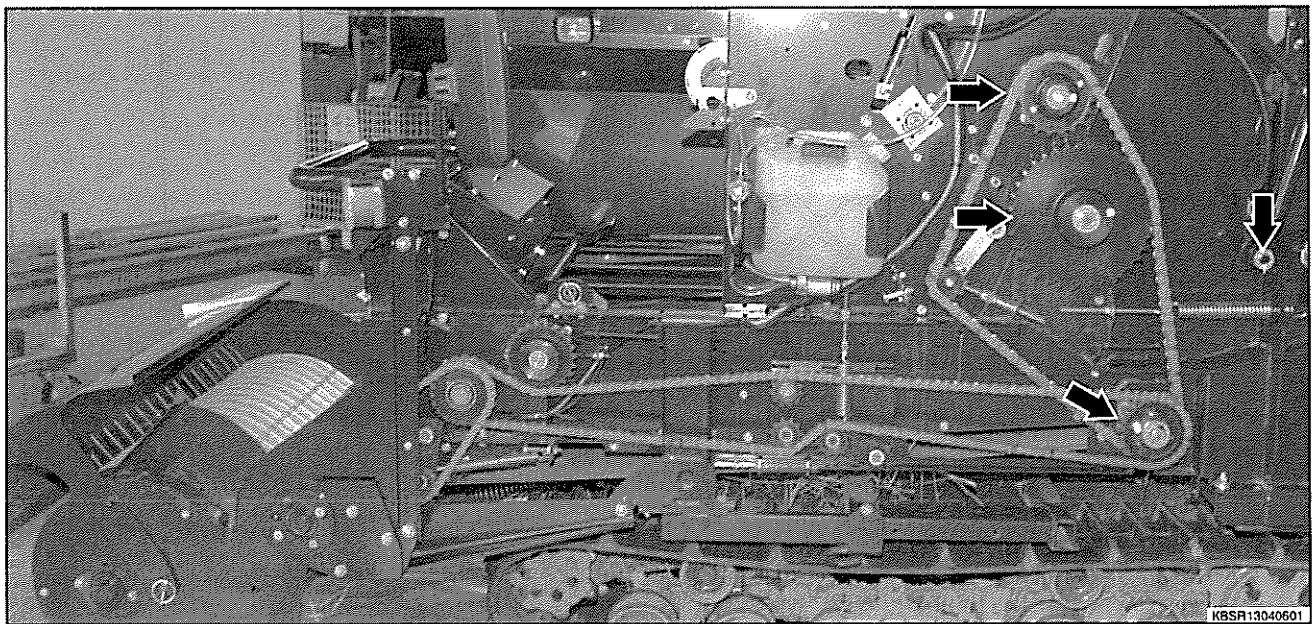


(3) 本機右側のピックチェーンカバーを取り付けてください。(123 ページ)

13.4.6 チャンバー部のグリースアップ

長期格納前または、50 時間ごとに、次の部位にグリースアップしてください。

- (1) チェンカバーを開いてください。(117 ページ)
- (2) 左サイドカバーを開いてください。(118 ページ)
- (3) 次の箇所に、グリースアップしてください。



- (4) チェンカバーを閉じてください。(117 ページ)
- (5) 左サイドカバーを閉じてください。(118 ページ)

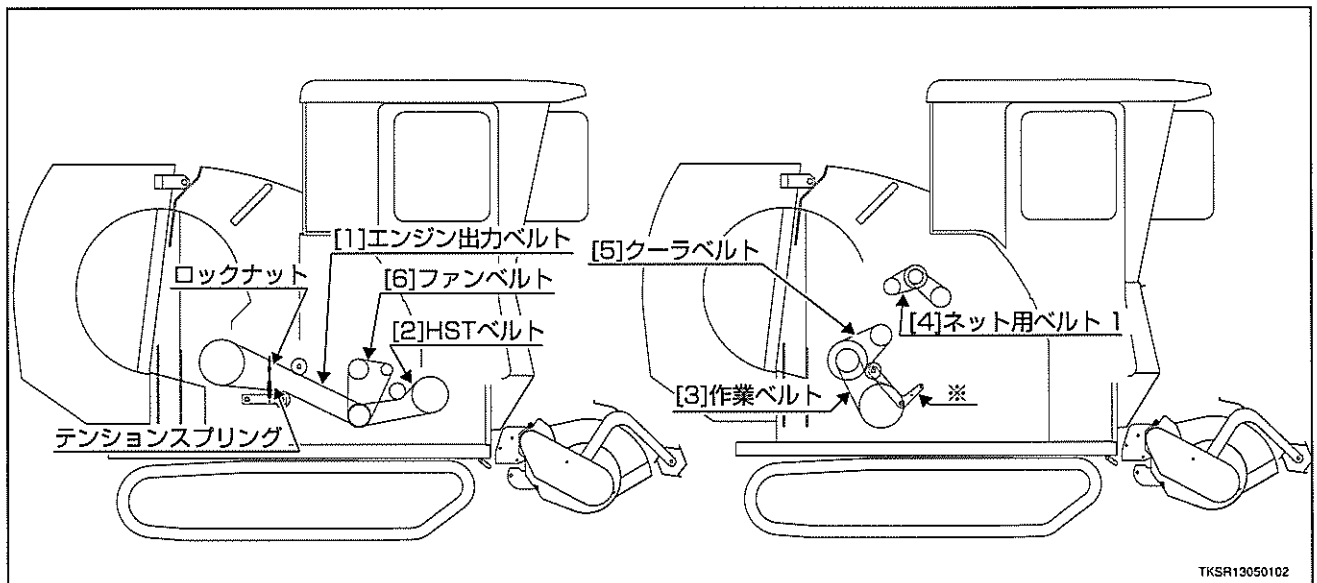
13.5 ベルトの点検と調整のしかた

⚠ 警告

- 必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 取り外したカバー類は必ずすべて取り付けてください。
※ 守らないと、衣服等が巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

13.5.1 ベルトの点検と調整一覧表

◆ ベルト配置



No.	ベルト名	点検・調整		参照ページ
		点検のしかた	規定量 (mm)	
[1]	エンジン出力ベルト	テンションスプリングのすき間	1.0 ~ 1.2	157
[2]	HST ベルト	テンションスプリングのすき間	0.8 ~ 1.0	158
[3]	作業ベルト ※ (作業クラッチを入れた状態で調整します)	テンションスプリングのすき間	1.0 ~ 1.2	159
[4]	ネット用ベルト 1	指で押したときのたわみ量 (10kgf)	5 ~ 10	161
[5]	クーラベルト	指で押したときのたわみ量 (10kgf)	5 ~ 10	162
[6]	ファンベルト	指で押したときのたわみ量	5.0	

《 参考 》

- 各ベルトは、シーズン前および、100 時間ごとに点検してください。
- 新しいベルトは、初期のびがあります。作業時間が約 20 時間程度で、調整してください。

13.5.2 エンジン出力ベルト

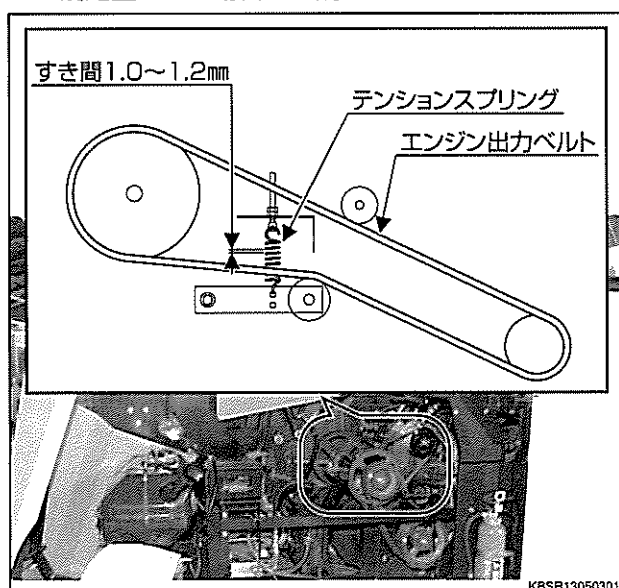
▲ 注意

- エンジン出力ベルト点検・調整は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

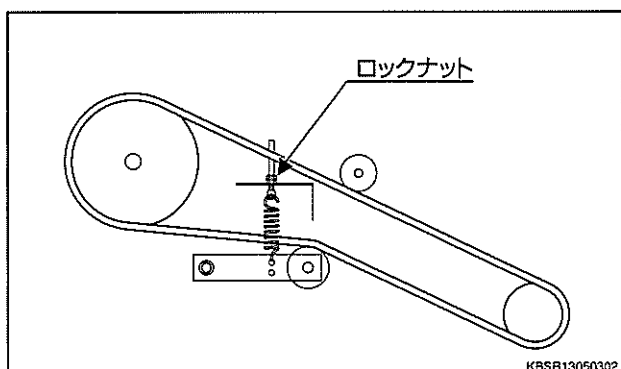
◆ 点検のしかた

- (1) ベルトカバーを取り外してください。(119 ページ)
- (2) 右駆動力バーを開いてください。(120 ページ)
- (3) テンションスプリングのすき間が 1.0 ～ 1.2mm の間にあるか、点検します。
規定量でない場合は、調整してください。

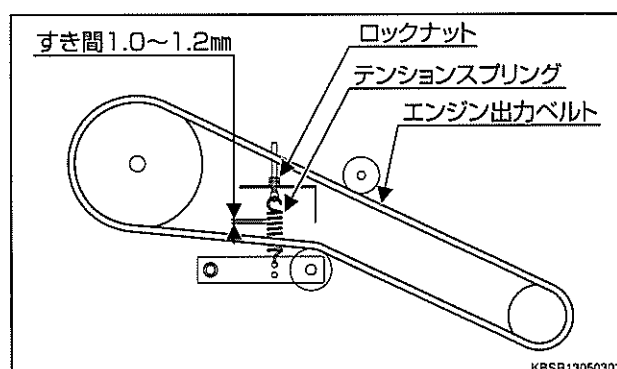


◆ 調整のしかた

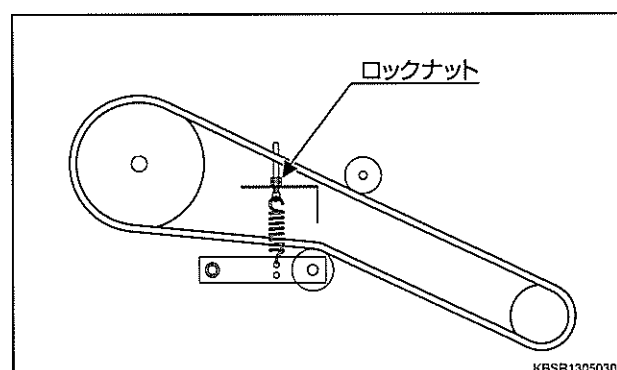
- (1) ロックナットをゆるめてください。



- (2) テンションスプリングのすき間を 1.0 ～ 1.2mm の間にくるように、ロックナットを調整してください。



- (3) ロックナットを確実に、締め付けてください。



- (4) ベルトカバーを取り付けてください。(119 ページ)
- (5) 右駆動力バーを閉じてください。(120 ページ)

13.5.3 HST ベルト

▲ 注意

- エンジン出力ベルト点検・調整は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

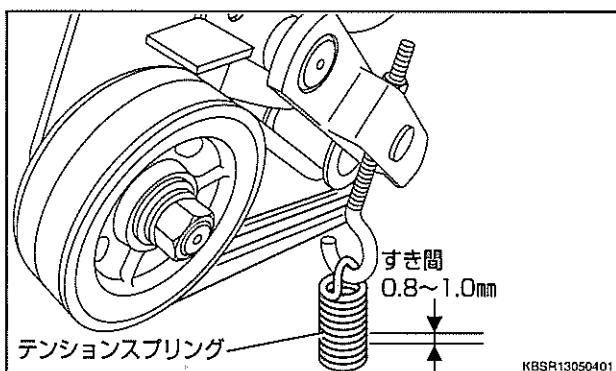
※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ 点検のしかた

(1) キャビンカバー取り外してください。(122 ページ)

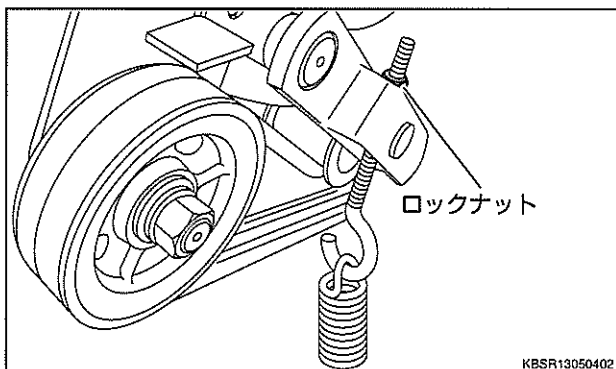
(2) 操作席左側にある、HST ベルト下のテンションスプリングのすき間が、0.8 ～ 1.0mmの間にあるか、点検します。

規定量でない場合は、調整してください。

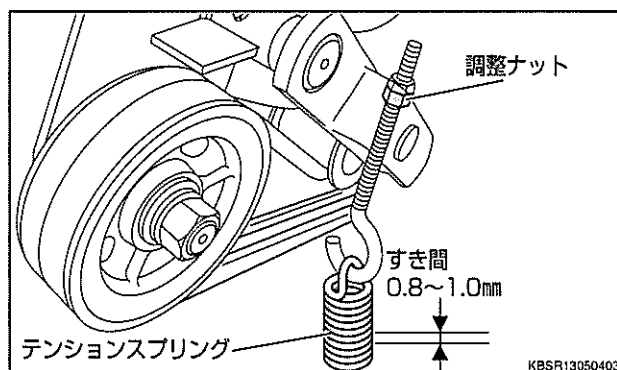


◆ 調整のしかた

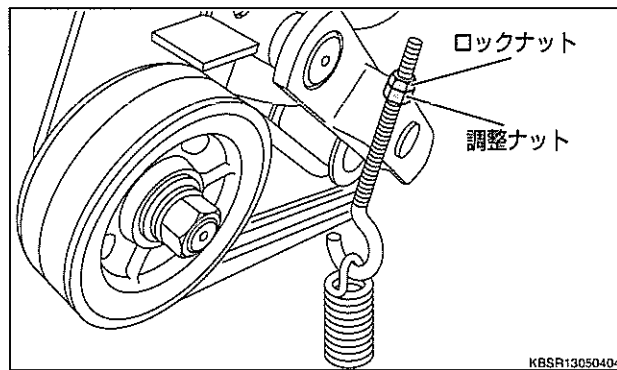
(1) ロックナットをゆるめてください。



(2) テンションスプリングのすき間を、0.8 ～ 1.0mmの間になるように、調整ナットを回して調整してください。



(3) 調整ナットを固定し、ロックナットを確実に締め付けてください。



(4) キャビンカバー取り付けてください。(122 ページ)

13.5.4 作業ベルト

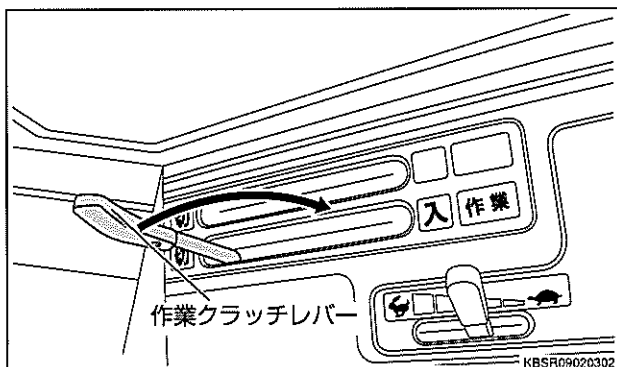
▲ 注意

- エンジン出力ベルト点検・調整は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

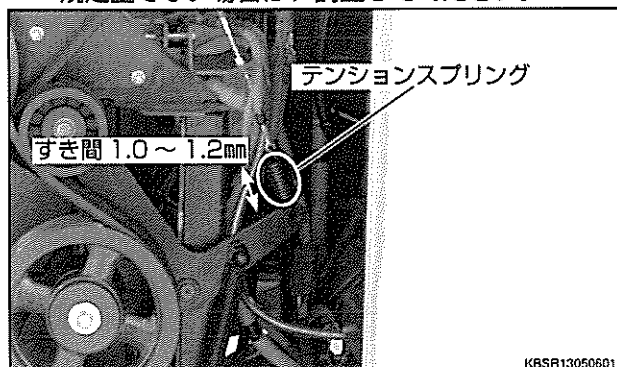
◆ 点検のしかた

- (1) 作業クラッチレバーを「入」位置にしてください。



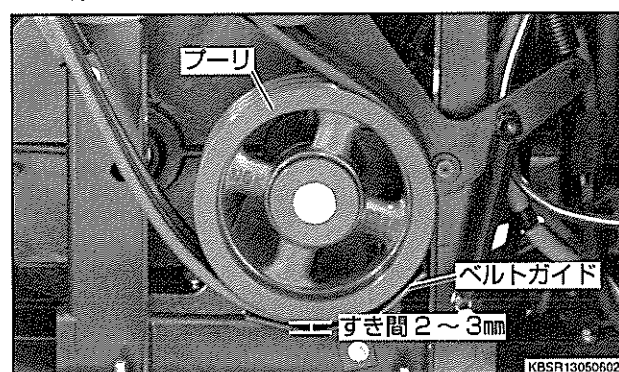
- (2) ベルトカバーを取り外してください。(119 ページ)

- (3) 作業クラッチワイヤーのテンションスプリングのすき間が 1.0 ～ 1.2mm の間にあるか、点検します。規定量でない場合は、調整してください。



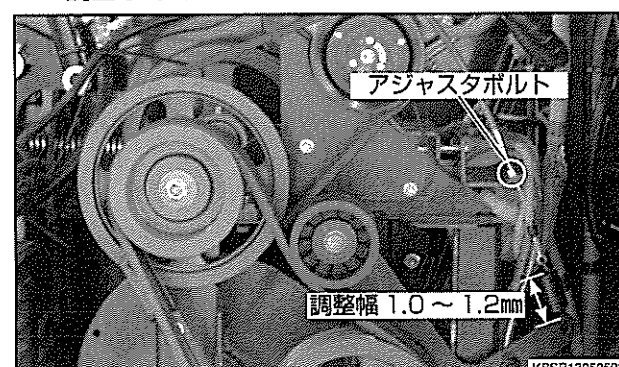
- (4) プーリとベルトガイドのすき間が 2 ～ 3mm の間にあるか、点検します。

規定量でない場合は、調整してください。

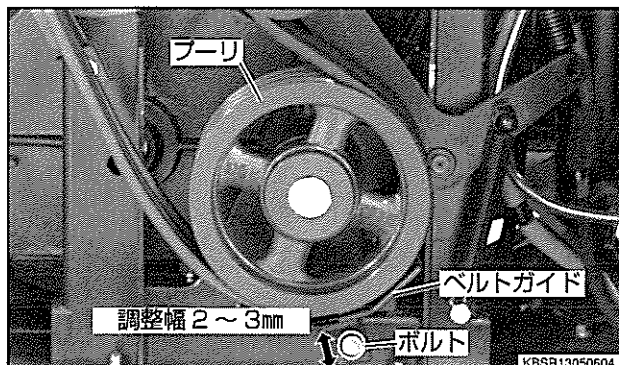


◆ 調整のしかた

- (1) アジャスタボルトを調整して、テンションスプリングのすき間を 1.0 ～ 1.2mm の間になるように、調整してください。



- (2) ボルトをゆるめ、矢印方向へのスライドさせ、プーリとベルトガイドのすき間が2～3mmの間になるように、調整してください。



- (3) ボルトを確実に、締め付けてください。
- (4) ベルトカバーを取り付けてください。(119 ページ)

13.5.5 ネット用ベルト

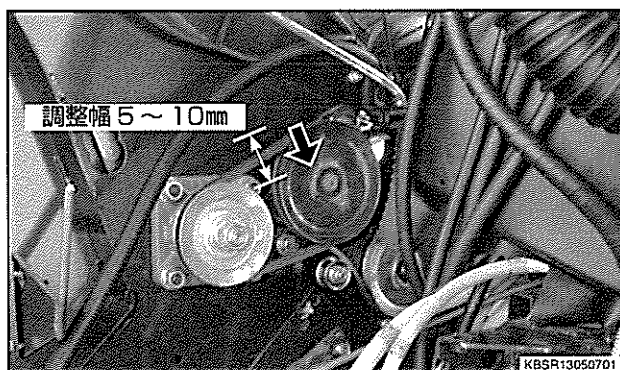
▲ 注意

- エンジン出力ベルト点検・調整は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

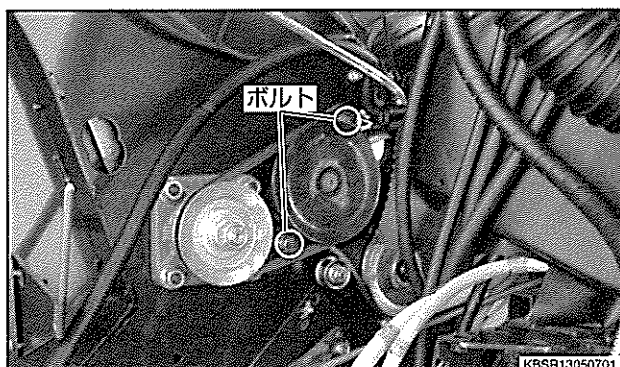
◆ 点検のしかた

- (1) 右駆動カバーを開けてください。(120 ページ)
- (2) ネット駆動カバーを開けてください。(121 ページ)
- (3) ベルトを矢印の方向に指で押したときのたわみ量が、5～10mmの間にあるか、点検します。
規定量でない場合は、調整してください。

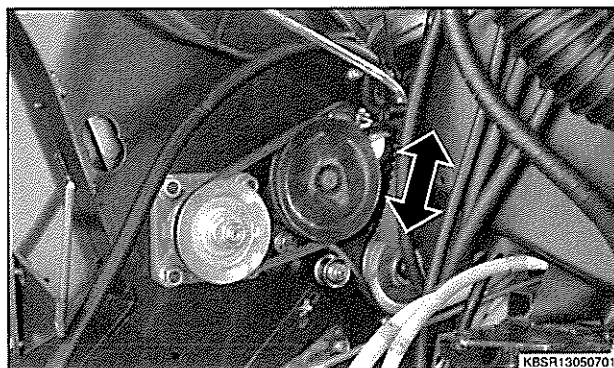


◆ 調整のしかた

- (1) ボルトをゆるめてください。



- (2) テンションプーリを、矢印方向へのスライドさせ、ベルトの張りを調整してください。



- (3) ボルトを確実に、締め付けてください。
- (4) ネット駆動カバーを閉じてください。(121 ページ)
- (5) 右駆動カバーを閉じてください。(120 ページ)

13.5.6 クーラベルト

▲ 注意

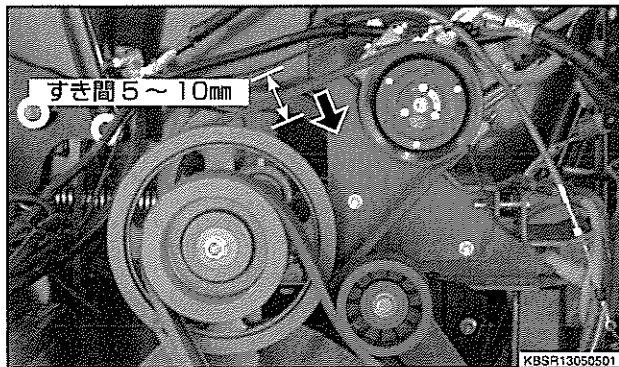
- エンジン出力ベルト点検・調整は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ 点検のしかた

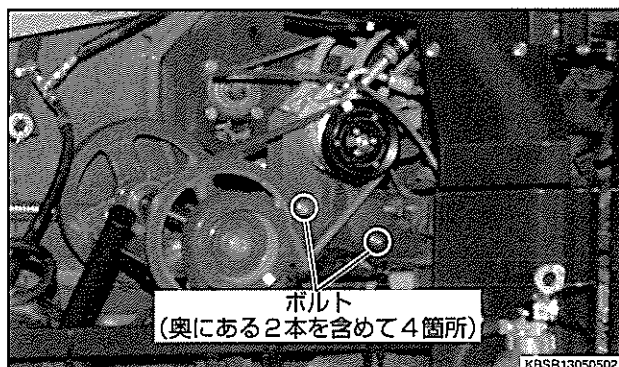
(1) ベルトカバーを取り外してください。(119 ページ)

(2) クーラベルトを、矢印の方向に指で押したときのたわみ量が、5～10mmの間にあるか、点検します。
規定量でない場合は、調整してください。

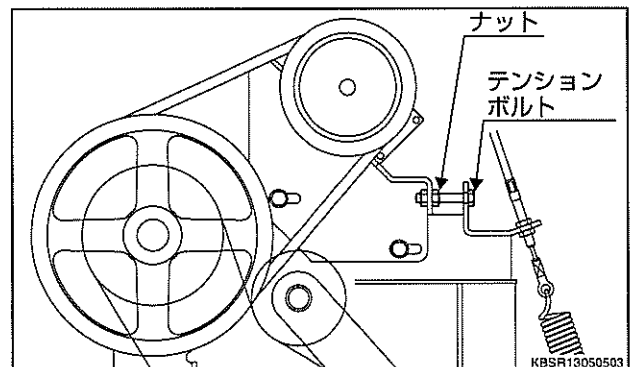


◆ 調整のしかた

(1) ボルト 4 箇所をゆるめてください。

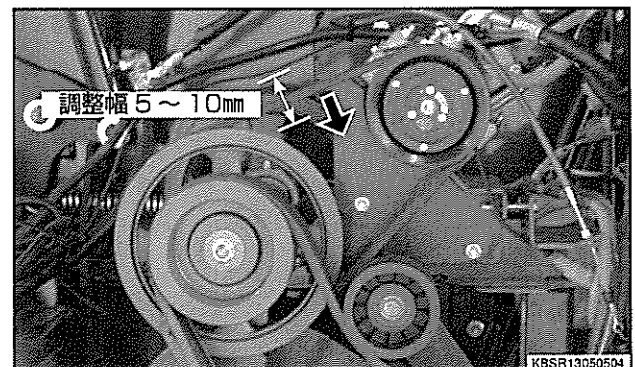


(2) ナットを緩め、テンションボルトを締めて、コンプレッサーを矢印方向へスライドさせ、ベルトの張りを調整してください。



(3) ボルト (4 箇所) を締め付けてください。

(4) ベルトを矢印の方向に指で押したときのたわみ量が、5～10mmの間にあることを、確認します。
規定量でない場合は、再度調整してください。



(5) ベルトカバーを取り付けてください。(119 ページ)

13.5.7 ファンベルト

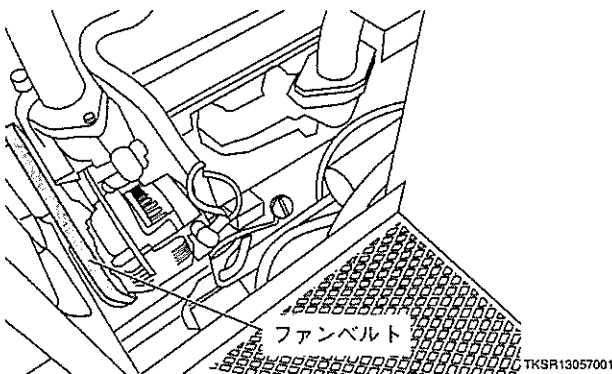
▲ 注意

- マフラーにはエンジン停止直後にふれないでください。十分に冷えてから点検を行ってください。

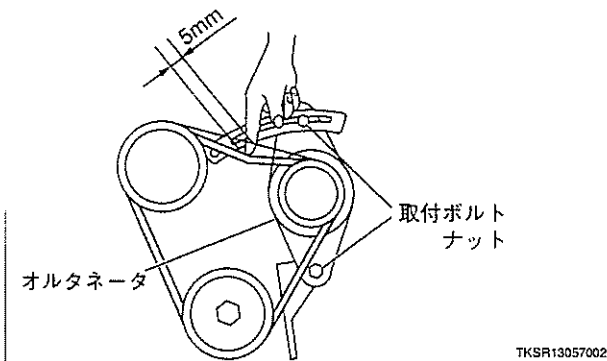
※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ 点検のしかた

- (1) エンジンカバーを開き、ゼネレータ上のゴムカバーをはずします。(114 ページ)



- (2) ベルトの中央部を指で押して 5mm 程度たわむか点検します。規定量でない場合は、調整します。



- (3) オルタネータ取付ボルトとナットをゆるめます。
- (4) オルタネータを動かし、ベルトの張りが 5mm 程度たわむように調整します。
- (5) 調整後は、ボルトとナットを確実に締め付けます。

- (6) ゴムカバーを取り付け、エンジンカバーを閉じます。

《 参考 》

ベルトの張りがゆるいと、オーバーヒートや充電不足の原因となります。

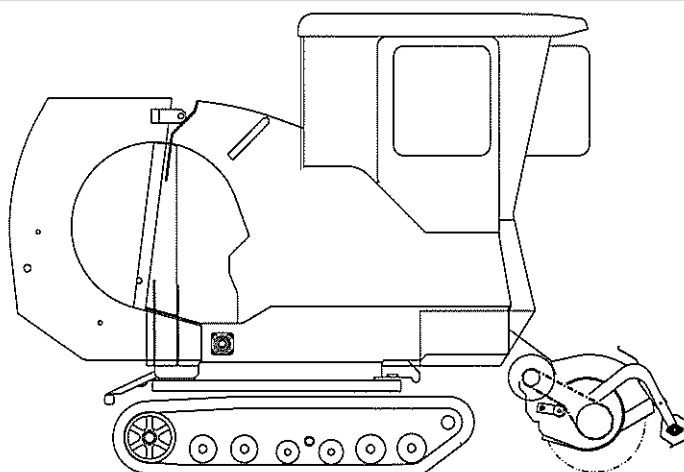
13.6 チェンの点検と調節のしかた

⚠ 警告

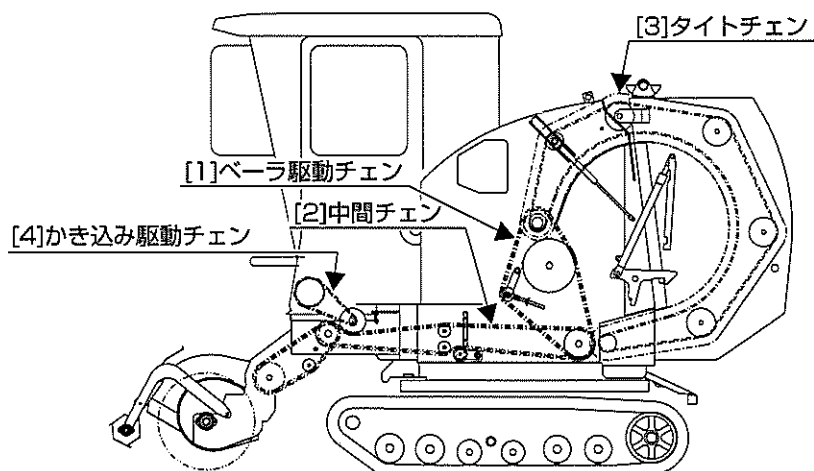
- 必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 取り外したカバー類は、必ずすべて取り付けてください。
※ 守らないと、衣服等が巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

13.6.1 チェンの点検と調整一覧表

本機右側



本機左側



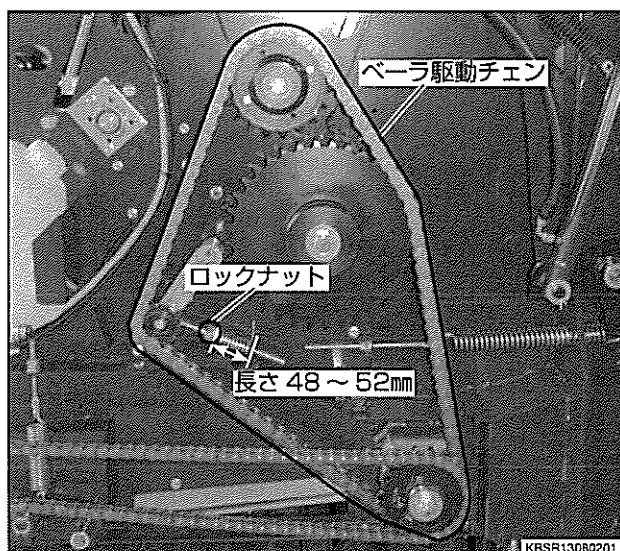
TKSR13080101

No.	ベルト名	調整		参照ページ
		点検のしかた	規定量 (mm)	
[1]	ベアラ駆動チェーン	テンションスプリングの長さ	48 ~ 52	165
[2]	中間チェーン	テンションスプリングの幅	170 ~ 175	165
[3]	タイトチェーン	テンションカナグのすき間	90 ~ 100	166
[4]	かき込み駆動チェーン	指で押したときのたわみ量 (10kgf)	5 ~ 10	167

13.6.2 ベーラ駆動チェン

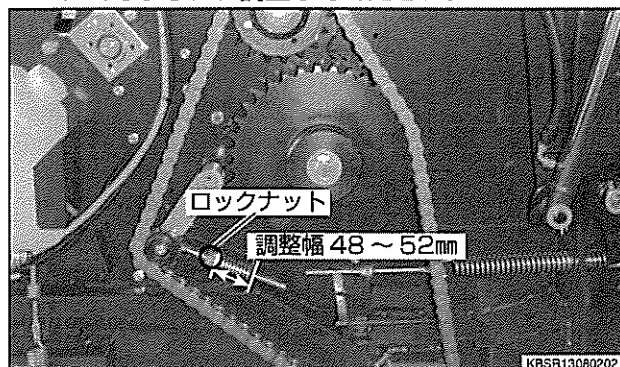
◆ 点検のしかた

- (1) チェンカバーを開いてください。(117 ページ)
- (2) 左サイドカバーを開いてください。(118 ページ)
- (3) ベーラ駆動チェンのロックナットとテンションスプリングの長さが、48～52mmの間にあるか、点検します。
規定量でない場合は、調整してください。



◆ 調整のしかた

- (1) ベーラ駆動チェンのロックナットを調節して、テンションスプリングの長さを、48～52mmの間になるように、調整してください。

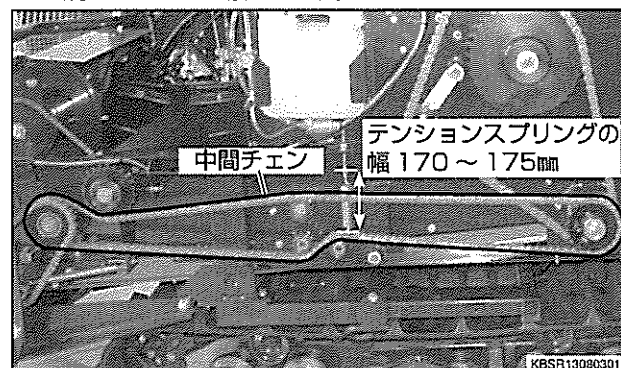


- (2) チェンカバーを閉じてください。(117 ページ)
- (3) 左サイドカバーを閉じてください。(118 ページ)

13.6.3 中間チェン

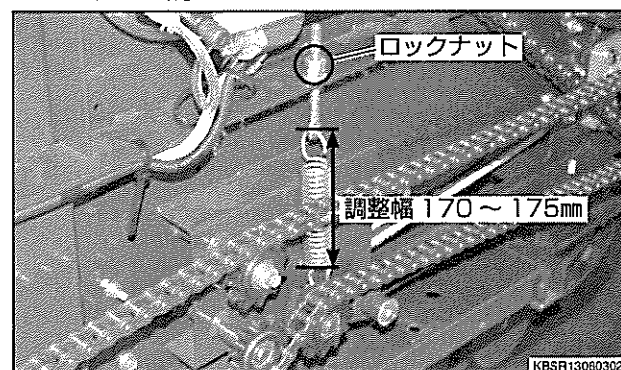
◆ 点検のしかた

- (1) チェンカバーを開いてください。(119 ページ)
- (2) 左サイドカバーを開いてください。(118 ページ)
- (3) 中間チェンの、テンションスプリングの幅が 170～175mmの間にあるか点検します。
規定量でない場合は、調整してください。



◆ 調整のしかた

- (1) 中間チェンのロックナットを調節して、テンションスプリングの幅を、170～175mmの間になるように、調整してください。

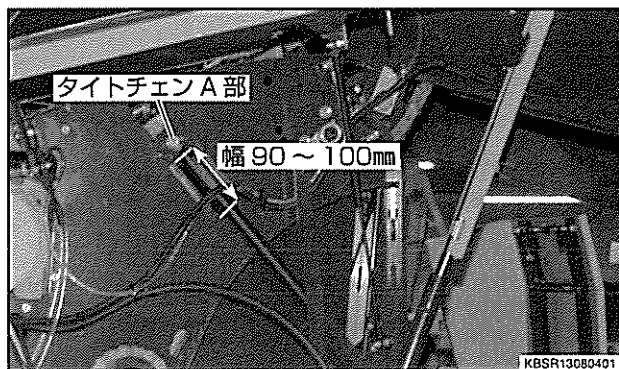


- (2) チェンカバーを閉じてください。(117 ページ)
- (3) 左サイドカバーを閉じてください。(118 ページ)

13.6.4 タイトチェーン

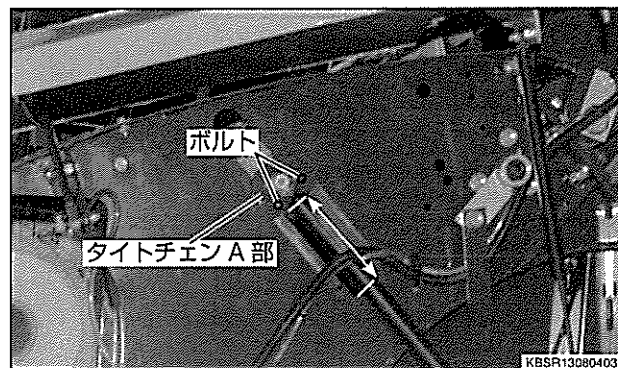
◆ 点検のしかた

- (1) 左サイドカバーを開いてください。(118 ページ)
- (2) 右駆動カバーを開けてください。(120 ページ)
- (3) ネット駆動カバーを開けてください。(121 ページ)
- (4) 本機両側にある、タイトチェーン A 部の幅が 90 ~ 100mm の間にあるか点検します。
規定量でない場合は、調整してください。

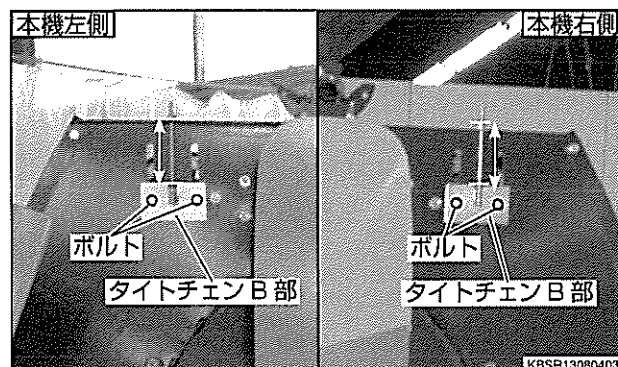


◆ 調整のしかた

- (1) タイトチェーン A 部のボルトを調節して、幅を、90 ~ 100mm の間にくるように、調整してください。



- (2) 本機両側にある、タイトチェーン B 部のロックナットとボルトを調節して、タイトチェーン A 部のすき間が 90 ~ 100mm の間にくるように、調整してください。



- (3) ネット駆動カバーを閉じてください。(121 ページ)
- (4) 右駆動カバーを閉じてください。(120 ページ)
- (5) 左サイドカバーを閉じてください。(118 ページ)

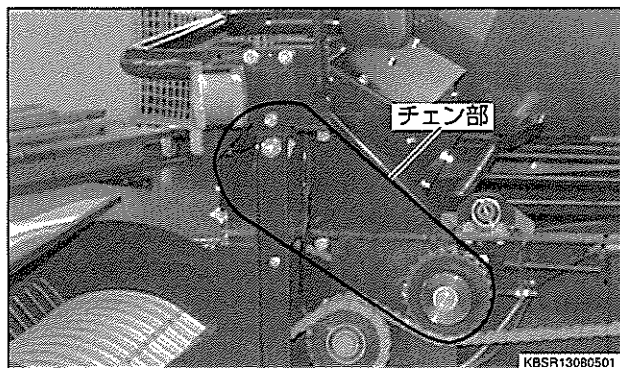
13.6.5 かき込み駆動チェーン

◆ 点検のしかた

(1) チェンカバーを開いてください。(117 ページ)

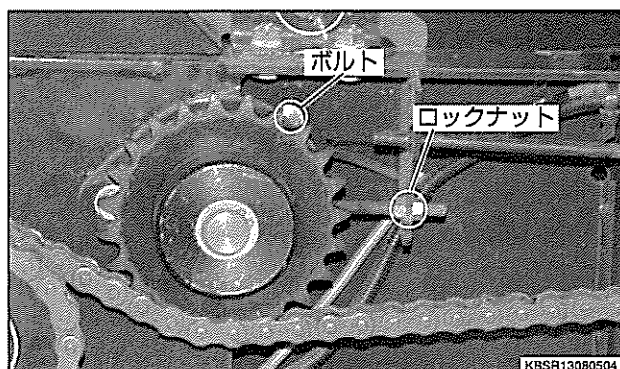
(2) かき込み駆動チェーンのたるみが、指で押したとき
5 ～ 10mm以内にあるか点検します。

規定量でない場合は、調整してください。



◆ 調整のしかた

(1) かき込み駆動チェーンのロックナットとボルトを調節して、チェーンを指で押したときのたわみ量が、
5 ～ 10mmの間にくるように、調整してください。



(2) チェンカバーを閉じてください。(117 ページ)

13.7 ワイヤの点検と調整のしかた

⚠ 危険

- 閉め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。
※ 守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 警告

- 必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 取り外したカバー類は必ずすべて取り付けてください。
※ 守らないと、衣服類等が巻き込まれ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

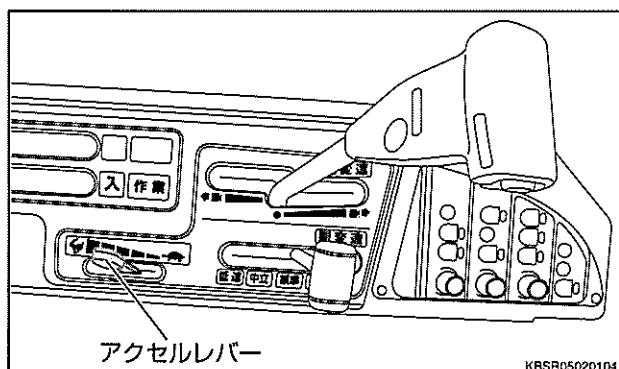
13.7.1 アクセルワイヤ

《重要》

各ワイヤは、シーズン前に点検してください。

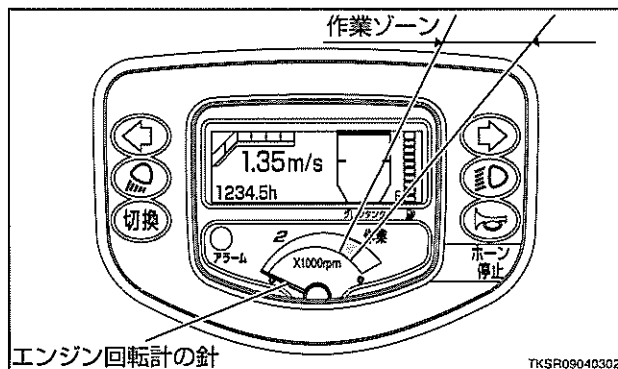
◆ 点検のしかた

- (1) エンジンを始動してください。(56 ページ)
- (2) アクセルレバーを、手前にいっぱいまで、引いてください。



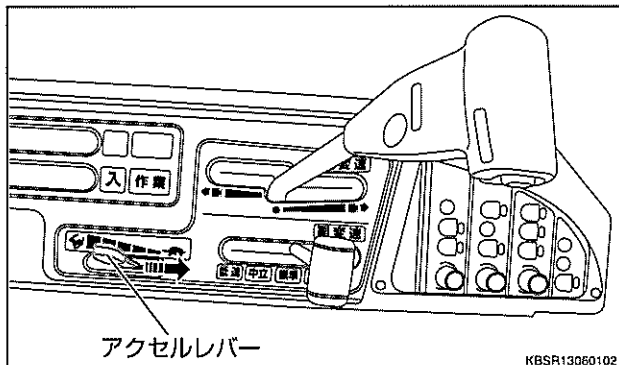
- (3) エンジン回転計の針が、「作業ゾーン」の上限以上に上がるか、点検します。

規定量でない場合は、調整してください。



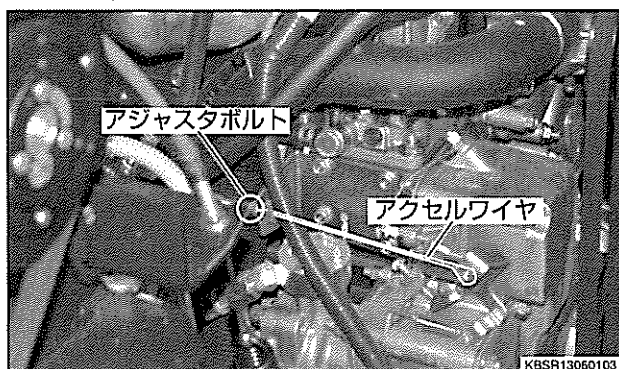
◆ 調整のしかた

- (1) アクセルレバーをいっぱいまで戻し、エンジンは必ず、停止させてください。



- (2) ベルトカバーを取り外してください。(119 ページ)

- (3) アジャスタボルトを回して、アクセルワイヤのたるみを取り、アクセルアームが、動きはじめる位置に調整してください。



- (4) ベルトカバーを取り付けてください。(119 ページ)

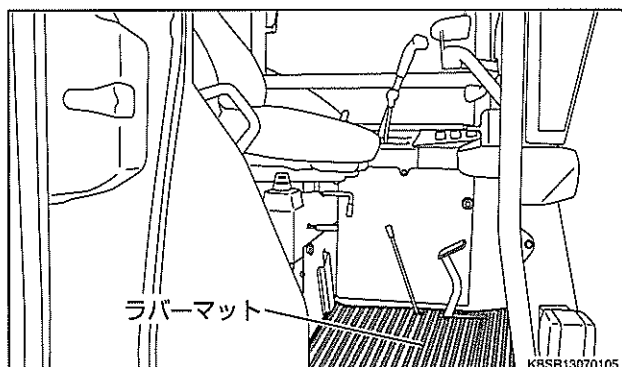
- (5) エンジンを停止してください。(57 ページ)

13.8 その他の点検と調整について

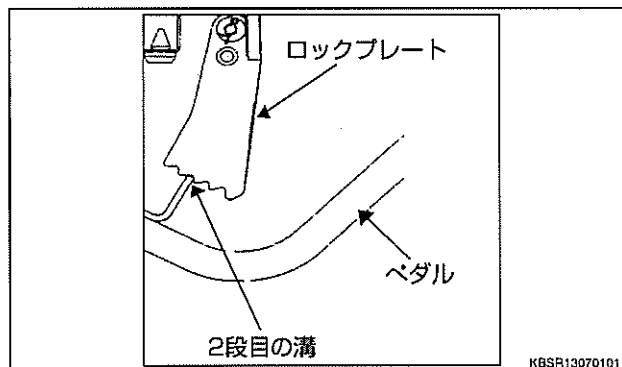
13.8.1 駐車ブレーキの調整

◆ 点検のしかた

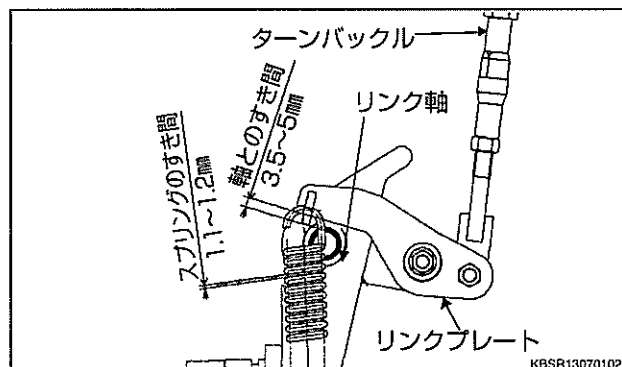
- (1) ラバーマットをめくり、カバーを取り外してください。



- (2) 駐車ブレーキペダルを踏み込み、ロックプレートの2段目の溝で、駐車ブレーキペダルをロックしてください。

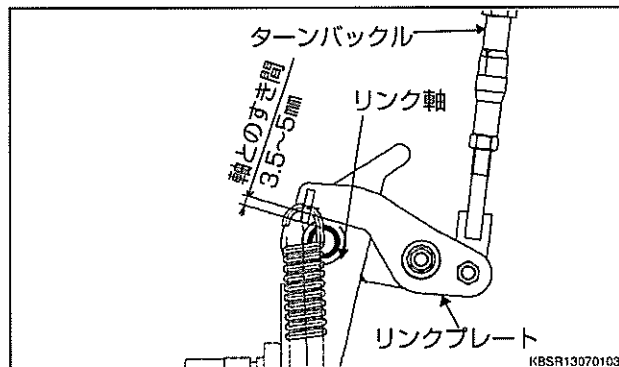


- (3) リンクプレートとリンク軸とのすき間が、3.5～5mmのとき、スプリングのすき間が、1.1～1.2mmの間にあるかを、点検します。規定量でない場合は、調整してください。

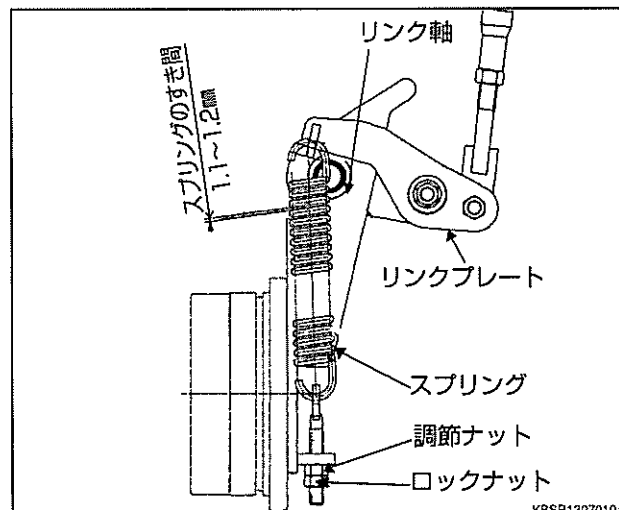


◆ 調整のしかた

- (1) リンクプレートとリンク軸とのすき間が、3.5～5mmの間になるように、ターンバックルを調整してください。



- (2) リンクプレートとリンク軸とのすき間を調整後、スプリングのすき間が1.1～1.2mmの間になるように、調節ナットで調節してください。



- (3) 調節後に、ロックナットを確実に、締め付けてください。

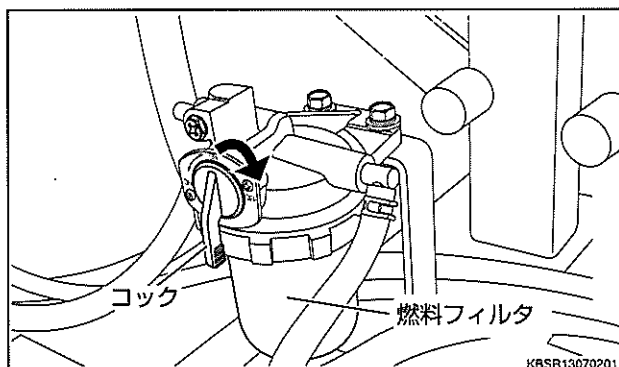
- (4) カバーを取り付けてください。

13.8.2 燃料フィルタの清掃と交換

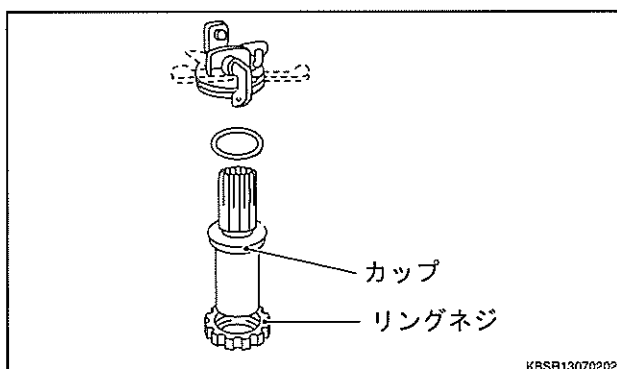
《重要》

燃料フィルタは100時間ごとに清掃し、400時間ごとに交換してください。

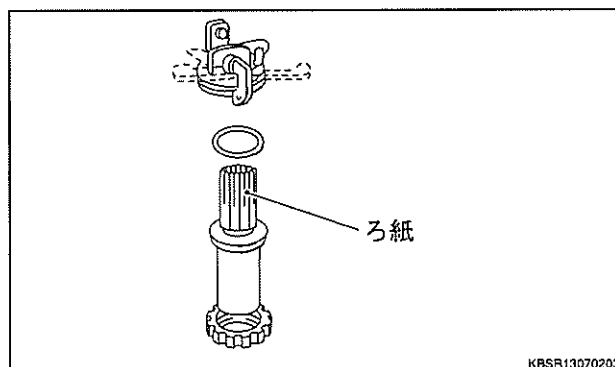
- (1) ベルトカバーを取り外してください。(119 ページ)
- (2) 右駆動カバーを開けてください。(120 ページ)
- (3) 燃料フィルタのコックを「OFF」の位置にしてください。



- (4) カップ上部のリングネジをゆるめ、カップを外し、内部を軽油で洗浄してください。



- (5) ろ紙を取り出して軽油につけ、ろ紙についたゴミを洗い落としてください。
ろ紙の汚れがひどい場合は、ろ紙を交換してください。



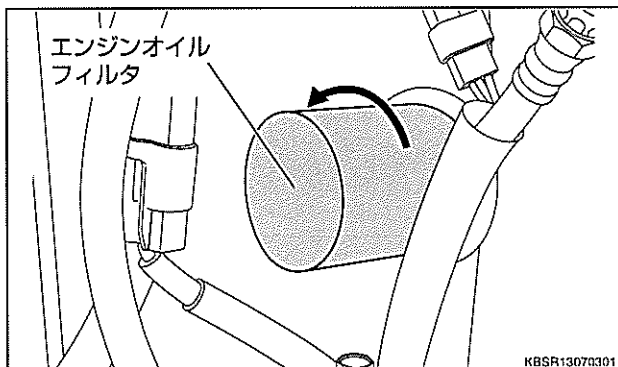
- (6) 洗浄が終われば、チリやホコリがつかないようにして、逆の手順で組み付けてください。
- (7) ベルトカバーを取り付けてください。(119 ページ)
- (8) 右駆動カバーを閉じてください。(120 ページ)
- (9) エアー抜きをします。(60 ページ)

13.8.3 エンジンオイルフィルタの交換

《重要》

エンジンオイルフィルタは、1 回目 50 時間、2 回目からは 200 時間ごとに、交換してください。

- (1) ベルトカバーを取り外してください。(119 ページ)
- (2) エンジンオイルフィルタを矢印の方向に回して、フィルタレンチで外してください。



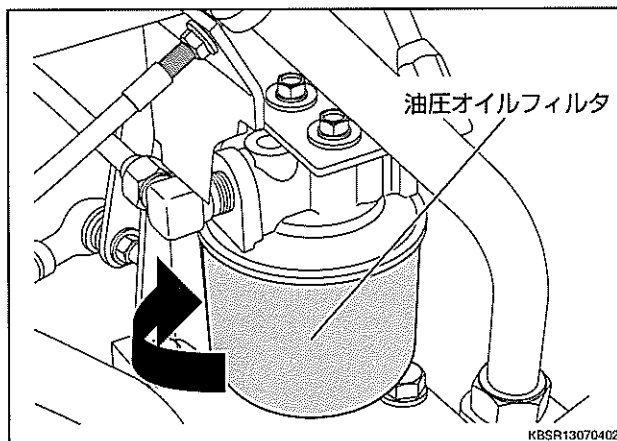
- (3) 新しいフィルタのゴムシール部に、オイルを薄くぬり、元のように締め付けてください。
- (4) ガasketが取付面に当たってから、約 3/4 回転ほど、手で回してください。
- (5) ベルトカバーを取り付けてください。(119 ページ)

13.8.4 油圧オイルフィルタの交換

《重要》

油圧オイルフィルタは、1 回目 50 時間、2 回目からは 300 時間ごとに、交換してください。

- (1) キャビンカバー前を取り外してください。(122 ページ)
- (2) 油圧オイルフィルタを、矢印の方向に回して外してください。



- (3) 新しいフィルタのゴムシール部に、オイルを薄くぬり、元のように締め付けてください。

《重要》

- 油圧オイルフィルタ交換後エンジンを回すと、オイルフィルタに入っていた量だけ、油圧オイルが減ります。
規定量まで、油圧オイルを補給してください。
- オイルの種類、検油のしかた等については、144 ページを参照してください。

- (4) キャビンカバー前を取り付けてください。(122 ページ)

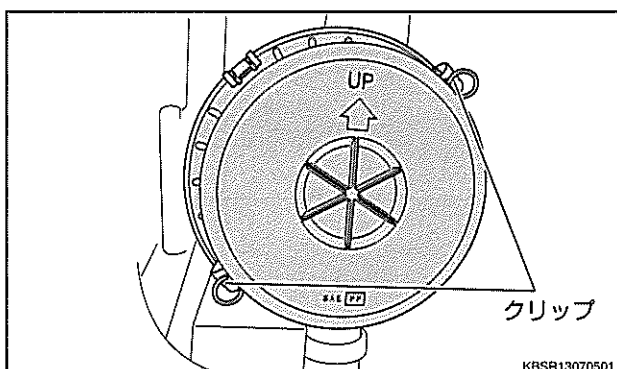
13.8.5 エアクリーナとプレクリーナの清掃

《重要》

エアクリーナは、50 時間ごとに清掃し、エアクリーナエレメントは、300 時間ごとに交換してください。

◆ エアクリーナの清掃

- (1) エンジンカバーを開いてください。(114 ページ)
- (2) クリップ 2 箇所を外し、エレメントを取り出してください。



- (3) カバーとケースの内側を清掃してください。

- (4) エレメントの清掃は、次の要領で行います。

- [1] 乾いたほこりがついている場合は、エレメントの内側から空気を吹き付けるか、または手で軽くたたいて、ゴミを取り除いてください。
- [2] 湿ったほこりや油分などで汚れている場合は、家庭用中性洗剤を水でうすめて、エレメントを約 30 分浸し、その後、軽くすすぎ洗いをし、自然乾燥させてください。
- [3] 汚れがひどい場合は、エレメントを交換してください。

《参考》

エレメントのほこり溜まりは、エンジン馬力低下の原因となります。ほこりが多い刈取作業時には、こまめに清掃してください。

- (5) 清掃後、エレメントを確実に組み付け、カバーの「UP」側を上に向けて、クリップで取り付けてください。

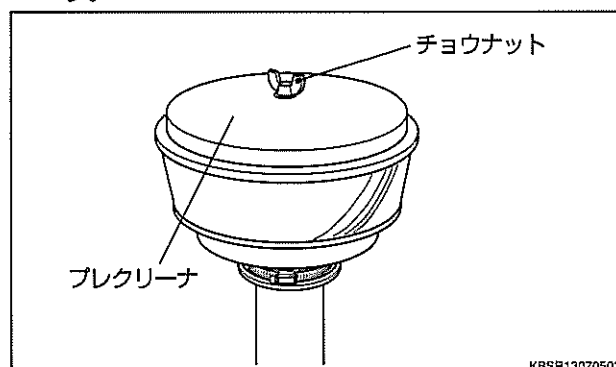
- (6) ゆっくりエンジンカバーを閉めてください。

◆ プレクリーナの清掃

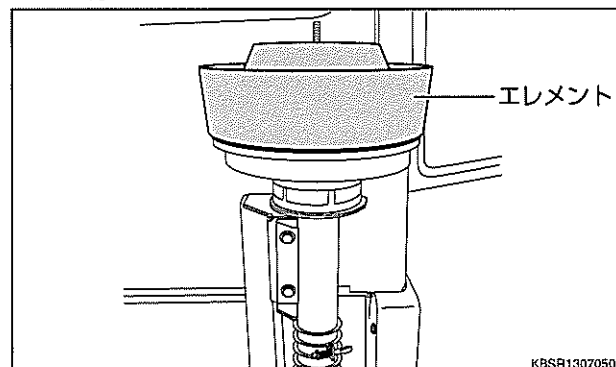
《重要》

プレクリーナは、作業前に毎日清掃してください。

- (1) プレクリーナ上部のチョウナットを取り外します。



- (2) プレクリーナ内にある、エレメントのホコリを取り除いてください。



- (3) 清掃後、エレメントをプレクリーナ内へ戻し、チョウナットを確実に締め付けてください。

13.8.6 ホース類の点検と交換

▲ 危険

- シーズン前には必ず締付バンドのゆるみ、ホースの損傷を点検し、2年ごとに「お買い上げ先」で交換してください。
- 燃料ホース、ラジエータホース等のゴムホースは使わなくても劣化します。
 - ※ 燃料ホースが破損していると燃料漏れを起こし、火災の原因になります。
 - ※ 運転中にラジエータホースが破損すると、熱湯が噴き出し、やけどの原因になります。

▲ 注意

- 燃料ホースを交換する場合は、ホース内を軽油で洗ってから組み付けてください。
 - ※ 守らないと、故障の原因になります。

◆ ホース類の点検

作業前に、ホースの老化や傷みによる、漏れがないかを点検してください。

◆ ホース類の交換

ホースの老化や傷みによる、漏れがある場合は、「お買い上げ先」に連絡してください。

13.8.7 バッテリーの点検

▲ 危険

- バッテリー液を身体や衣服に付けないでください。
- バッテリー液は希硫酸（劇物）です。万一体や服に付いた場合は、すぐ大量の水で洗ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。
- 充電や作業は通風のよいところで行い、火気を近づけないでください。
※ 守らないと、引火爆発の原因になります。
- バッテリーを乾いた布などで清掃しないでください。
※ 守らないと、静電気により引火爆発の原因になります。
- ハイドロメータの色が透明のとき、補充電をしてエンジンを始動させないでください。
※ 守らないと、エンジン始動時にバッテリー内に火花が出て、バッテリー容器内のガスに引火し、破裂（爆発）の原因になります。

▲ 注意

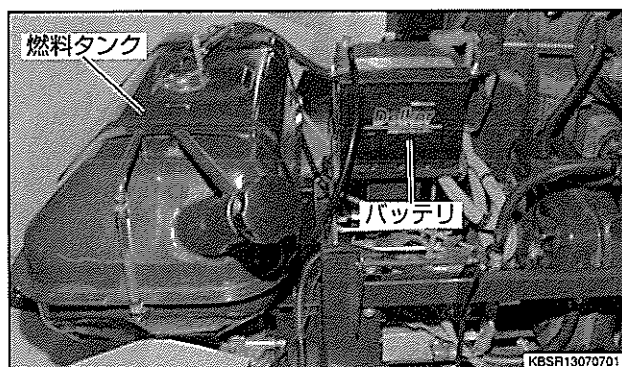
- バッテリーを取り外すときは必ず⊖コードから取り外してください。
※ 守らないと、ショートして、火災の原因になります。
- バッテリーを取り付けるときは、⊕コード、⊖コードを確認して、必ず⊕コードから取り付けてください。
※ 守らないと、ショートして、火災の原因になります。
- バッテリーを河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。廃棄するときは、「お買いあげ先」または、「産業廃棄物処理業者」等に相談して、所定の規則に従って処理してください。
※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

(1) バッテリーは、シーズン前に、必ず点検してください。

新品のバッテリーと交換する場合は、必ず指定した型式のバッテリーを使用してください。

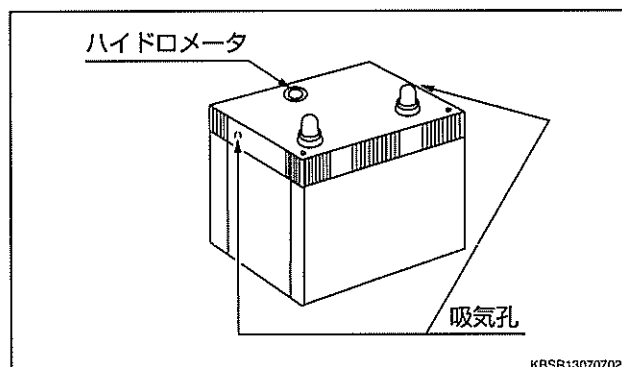
バッテリー型式：65D23R

(2) バッテリーの取り付け位置は、本機右後方にあります。



◆ 点検のしかた

バッテリーの状態を、ハイドロメータの色で点検してください。



ハイドロメータの色	充電状態	必要処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電が必要
透明	液減り	寿命ですのでバッテリーを交換してください。

《参考》

- ハイドロメータを見るときは、機体が水平になる場所で、真上から見てください。
- ハイドロメータの色が、透明または、薄い緑のときは、念のため軽くたたいて、気泡がついていないことを確かめてから、再度確認してください。

◆ バッテリーの取り扱い

《参考》

- 本機に使用しているバッテリーは、補水の必要のないバッテリーです。
(密閉型で、寿命まで補水不要)
- 気温が低下すると、バッテリーの性能も低下します。
冬期は特に、バッテリーをこまめに点検してください。
- バッテリーは使用しなくても自己放電するので、ハイドロメータの色が黒のときは、補充電を行ってください。
- 自走ロールベアラを長期格納する場合は、バッテリーを取り外し、日光の当たらない乾燥した場所に保存してください。
自走ロールベアラに取り付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側 (⊖側) 端子を取り外してください。

◆ 補充電について

《参考》

- エンジンが始動しにくくなったり、ライトが暗くなってきた時には、補充電をしてください。
- 急速充電は、しないでください。
- 長期運転しない場合は、夏期2ヵ月、冬期3ヵ月ごとに、補充電をしてください。

13.8.8 ラジエータの清掃

⚠ 危険

- 必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 守らないと、回転部に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

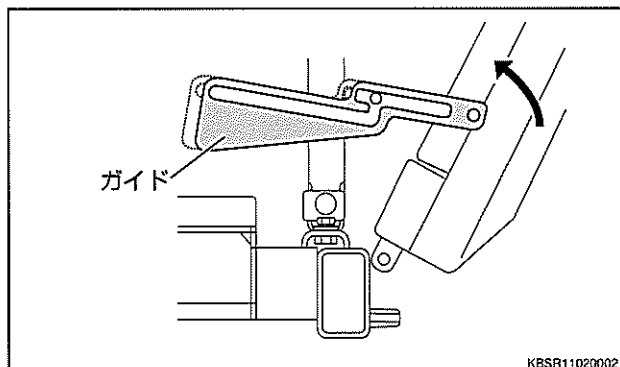
⚠ 注意

- 強い圧力水をかけないでください。
※ 守らないと、フィンが変形して故障の原因になります。
- エンジンまわりの電気配線・電装品には水をかけないでください。
※ 守らないと、電気部品の故障の原因になります。

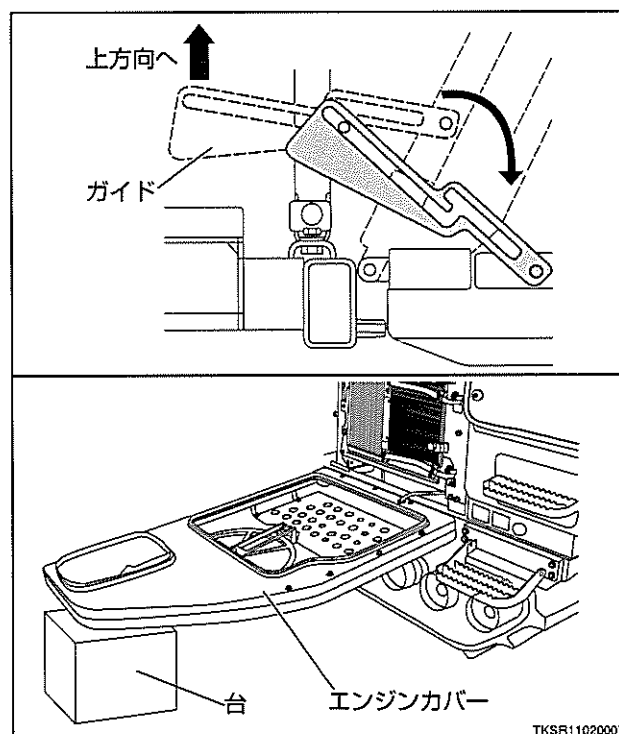
《重要》

ラジエータは、毎回作業前に、清掃してください。

- (1) エンジンカバーを2段目(90°)まで開きます。
(114ページ)
- (2) 右手でエンジンカバーを持ち、ガイドの位置が図の位置に来るように、エンジンカバーを持ち上げてください。



- (3) 左手でガイドを持ち、ガイドを上方向に上げ、エンジンカバーをゆっくりと90°開いてください。

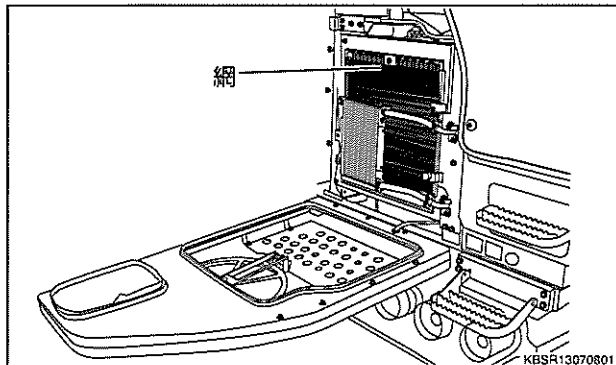


《重要》

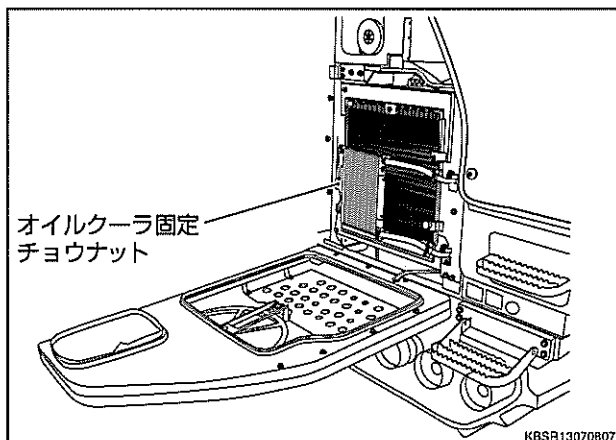
上記の作業を行なわなければ、エンジンカバーが破損するおそれがあります。

13. 点検整備

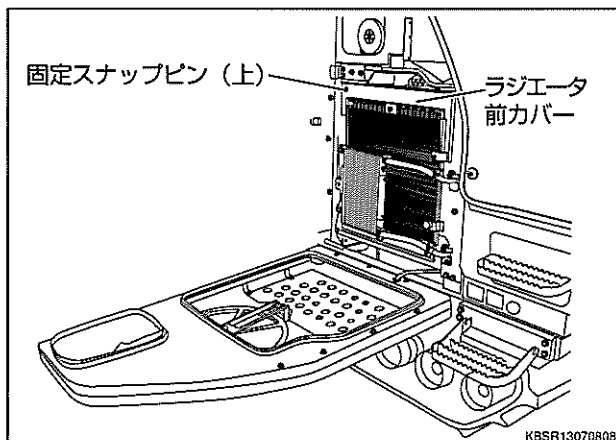
- (4) 網を取りはずし、網に付着したゴミを取り除きます。



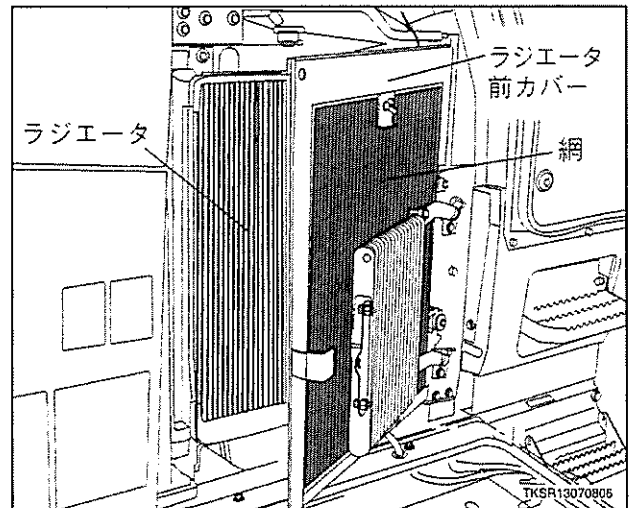
- (5) オイルクーラのフィンの前のゴミを取り除いて、オイルクーラ固定チョウナットを取り外し、オイルクーラを開いてください。



- (6) ラジエータ前カバー固定スナップピンを取り外し、ラジエータ前カバーを開けてください。



- (7) ラジエータのフィンの前のゴミを、十分に取除いた後、ラジエータのフィンの間のゴミを、水道水で洗い流してください。



《重要》

- ラジエータのフィンの間の詰まりは、オーバーヒートの原因となります。
- ほこりが多い刈取作業時には、こまめに網、ラジエータの清掃をしてください。

- (8) ゆっくりエンジンカバーを閉めてください。

13.8.9 配線・ヒューズの点検と交換

▲ 危険

- ヒューズを交換する場合は、必ずメインスイッチを「切」位置にしてください。
※ 守らないと、部品の損傷や火災の原因になります。
- ヒューズを交換してもすぐ切れる場合は他のもので代用せず、「お買いあげ先」で点検、修理をしてください。
※ 守らないと、部品の損傷や火災の原因になります。
- 傷んだ配線は、ただちに交換してください。
※ 守らないと、部品の損傷や火災の原因になります。
- 配線の端子やバッテリーコードの接続部のゆるみは、ただちに修理してください。
※ 守らないと、部品の損傷や火災の原因になります。
- バッテリー、配線およびマフラーやエンジン周辺部のワラくず・ゴミなどはきれいに取り除いてください。
※ 守らないと、火災の原因になります。
- 1年に1回、「お買いあげ先」での定期点検を受けてください。
※ 守らないと、部品の損傷や火災の原因になります。

▲ 警告

- 点検・整備・清掃するときは、平たんな場所に自走ロールベアラに止めて、駐車ブレーキをかけエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

▲ 注意

- メータパネル、バッテリー、エンジンまわりの配線・電装品および電子油圧操作部には、圧力水をかけないでください。
※ 守らないと、電気部品の故障の原因になります。

13. 点検整備

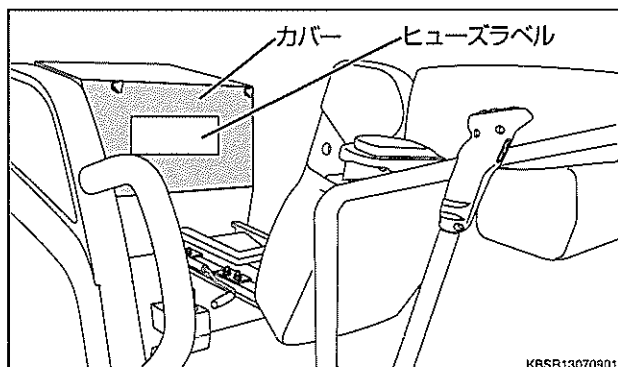
◆ 配線の点検のしかた

- (1) 配線類やバッテリーコードに損傷がないか、配線のクランプのゆるみがないか、点検してください。
- (2) 配線が、クランプよりはずれている場合は、所定のクランプで、配線を固定してください。
- (3) ターミナル、ブロック（ソケット）の接続部のゆるみがないか、点検してください。

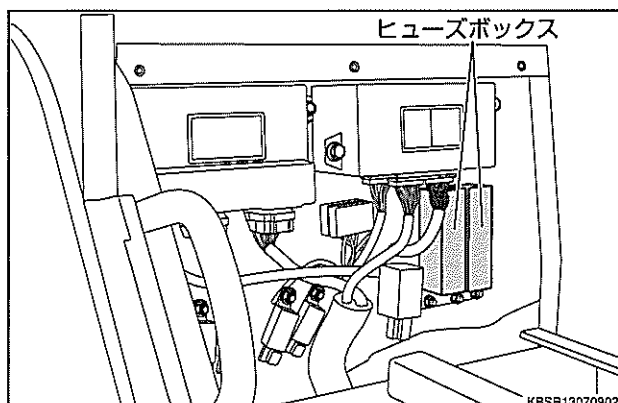
◆ ヒューズ（ヒューズボックス内）の点検のしかた

《重要》

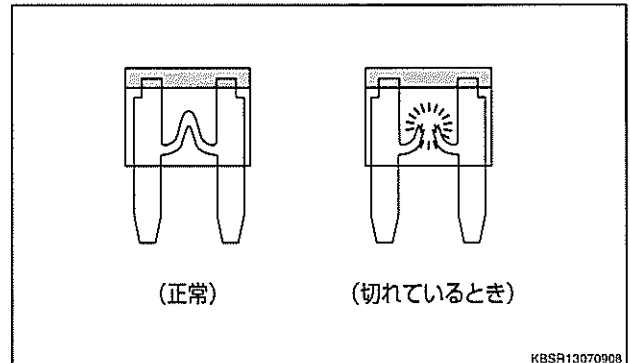
ヒューズはシーズン前に点検してください。
シート後方のカバーに、ヒューズラベルを貼付しています。



- (1) シートを前に倒してください。
- (2) シート後方のカバーを取り外してください。
- (3) ヒューズボックスのフタを、取り外してください。



- (4) 各ヒューズが切れていないか、点検してください。



◆ ヒューズ（ヒューズボックス内）の交換のしかた

- (1) ヒューズが切れている場合は、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。

空		空		空	ジャンパ グレンタンク 装備有無	空	ジャンパ チャージ
空		空		10A	ジャンパ 吸塵ファン 装備有無	空	
空		空		5A	ジャンパ 車体感度	空	
10A	清掃ブロー リレー	10A	エンジン 始動牽制	空		空	
10A	ウインカ	10A	スタータ リレー	20A	ロータリー バルブ モータ	20A	IQアクセル モータ
10A	エンジン停止 ソレノイド	10A	油圧/自動 制御電源2	30A	オーガ旋回 モータ	10A	吸塵ファン
10A	燃料ポンプ	10A	バックランプ ブレーキランプ	20A	リール前後 モータ	20A	防塵モータ
10A	油圧/自動 制御電源	15A	油圧/自動 制御電源1	20A	排出クラッチ モータ	15A	ロールベア バックモニタ
空		10A	パネル電源	空		20A	作業灯
空		20A	油圧/自動 電源	空		20A	前照灯

- (2) ヒューズボックスのフタを、取り付けてください。
- (3) シート後方のカバーを取り付けてください。
- (4) シートを元にもどしてください。

◆ スローブローヒューズの点検のしかた

《参考》

- ・スローブローヒューズは、シーズン前に必ず点検してください。
- ・エンジンハーネスとバッテリーケーブルに、スローブローヒューズが設置されています。
- ・スローブローヒューズは、ヒューズの種類で、過大電流が流れたり、ショートしたときに溶断して配線の損傷を防ぎます。

● エンジンハーネス側

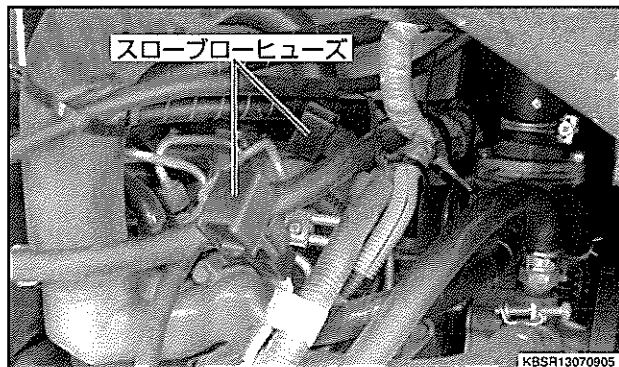
(1) 右駆動カバーを開けてください。(120 ページ)

スローブローヒューズ (スタータ)

キースイッチを回しても、電源が入らない場合や、スタータモータが回らない場合は、スローブローヒューズ (50 A : 赤) を点検し、溶断している場合は、交換してください。

スローブローヒューズ (充電)

バッテリーが充電されなくなり、バッテリー上がりを起こす場合は、スローブローヒューズ (60 A : 黄) を点検し、溶断している場合は、交換してください。



● バッテリーケーブル側

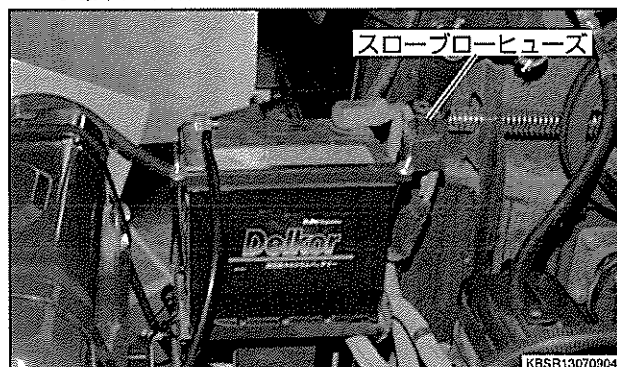
(1) 右駆動カバーを開けてください。(120 ページ)

スローブローヒューズ (ライトモータ)

ライトモータが作動しない場合は、スローブローヒューズ (40 A : 緑) を点検し、溶断している場合は交換してください。

スローブローヒューズ (自動制御)

モニタ表示をしない場合は、スローブローヒューズ (60 A : 黄) を点検し、溶断している場合は、交換してください。



◆ スローブローヒューズの点検と交換のしかた

● エンジンハーネス側

(1) スローブローヒューズ (スタータ)

爪部分を外して、スローブローヒューズのカバーを外し、スローブローヒューズ (50 A : 赤) を交換してください。

(2) スローブローヒューズ (充電)

ローブローヒューズ (充電) 爪部分を外して、スローブローヒューズのカバーを外し、スローブローヒューズ (60 A : 黄) を交換してください。

(3) スローブローヒューズ (スタータ) (充電) のカバーを取り付けてください。

(4) 右駆動カバーを閉めてください。(120 ページ)

● バッテリーケーブル側

(1) スローブローヒューズ (ライトモータ)

スローブローヒューズのカバーを外し、スローブローヒューズ (40 A : 緑) を交換してください。

(2) スローブローヒューズ (自動制御)

スローブローヒューズのカバーを外し、スローブローヒューズ (60 A : 黄) を交換してください。

(3) スローブローヒューズのカバーを取り付けてください。

(4) 右駆動カバーを閉めてください。(120 ページ)

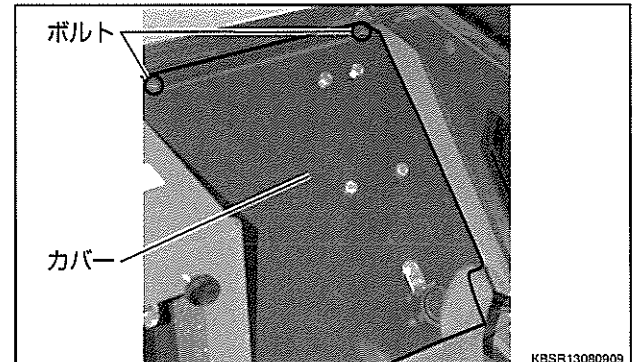
《 重要 》

- ・スローブローヒューズ (自動制御) は、ボルト締めになっています。
- ・交換時は、ボルトを外して交換し、確実に締め付けてください。

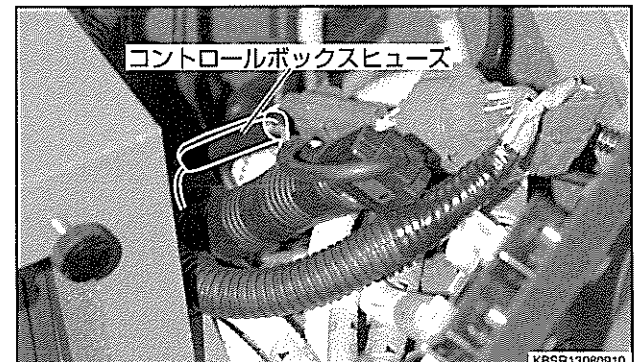
◆ コントロールボックスヒューズの点検と交換のしかた

(1) シートを前に倒してください。

(2) シート横のカバーを取り外してください。



(3) カバーの中から、コントロールボックスヒューズを取り出して、コントロールボックスヒューズのカバーを開けてください。



(4) コントロールボックスヒューズに断線があるかを確認し、断線があれば、ヒューズを交換してください。



(5) コントロールボックスヒューズをカバーの中へ戻し、カバーを取り付けてください。

13.8.10 クローラの点検と調整

警告

- クローラの張りを点検・調整するときは、
 - (1) 平坦で地面の硬い場所で、
 - (2) 揚力 1.5t 以上のジャッキを使用して、
 - (3) 自走ロールベアラのサイドフレームに滑らないようにジャッキをかけ、
 - (4) 自走ロールベアラの下にもぐりこまないようにしてください。

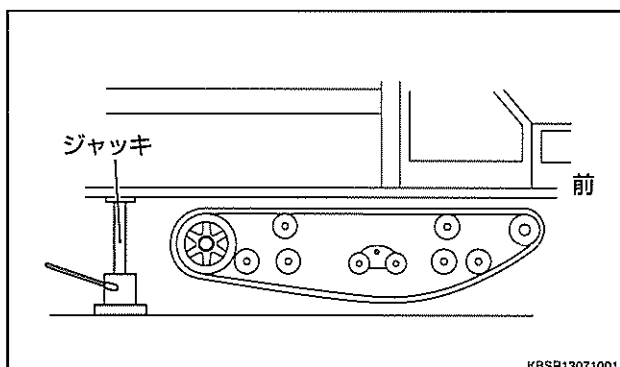
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

《重要》

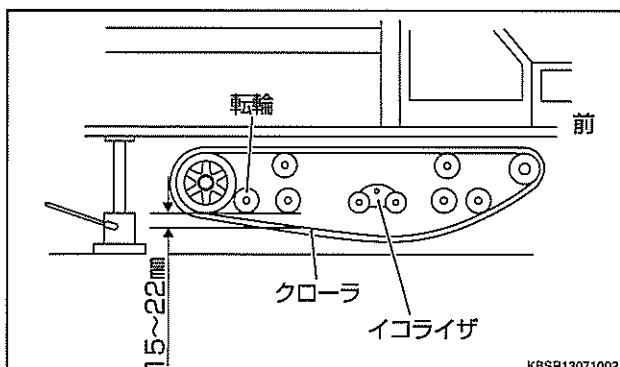
クローラの張りは、初期 30 時間程度、以後 100 時間毎に行い、シーズン前には必ず、点検・調整してください。

◆ クローラの点検のしかた

- (1) 点検する側のサイドフレームの前後を、ゆっくりとジャッキで持ち上げてください。

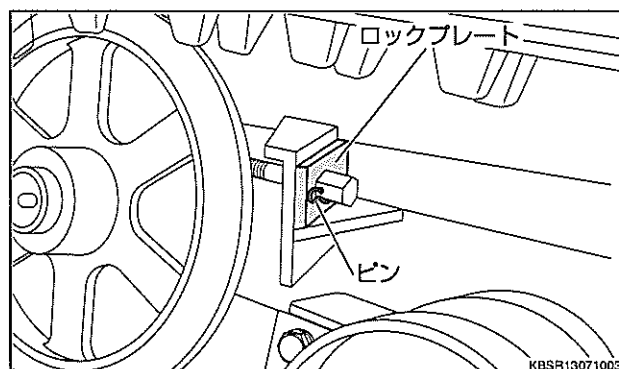


- (2) イコライザの後の固定転輪で、転輪とクローラのすき間が 15 ~ 22mm の間にあるか、点検します。規定量でない場合は、調整してください。

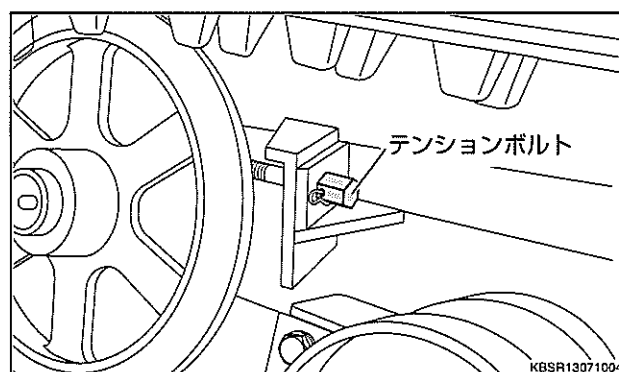


◆ クローラの調整のしかた

- (1) ピンとロックプレートを取り外してください。



- (2) テンションボルトを回し、転輪とクローラのすき間を、15 ~ 22mm の間になるように調整してください。



- (3) テンションボルトの位相を調整して、ロックプレートを元の位置に組み付け、ピンで固定してください。

- (4) ゆっくりとジャッキをゆるめて、機体を下げてください。

13.8.11 冷却水の点検と交換

▲ 警告

- ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止後に十分冷えるまで開かないでください。

※ 守らないと、熱湯が噴出してやけど等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

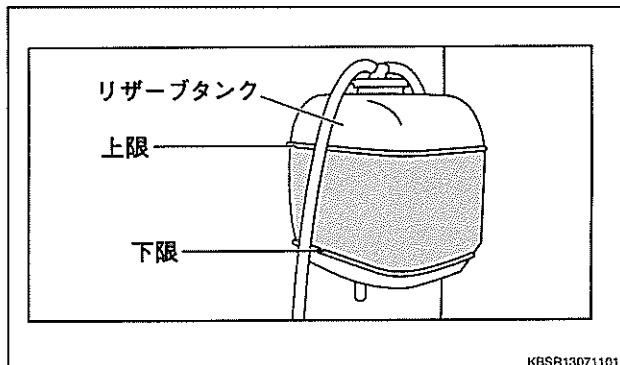
▲ 注意

- 交換した冷却水（不凍液）は、地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。環境汚染につながります。廃棄する場合は、「お買いあげ先」または、「産業廃棄物処理業者」等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

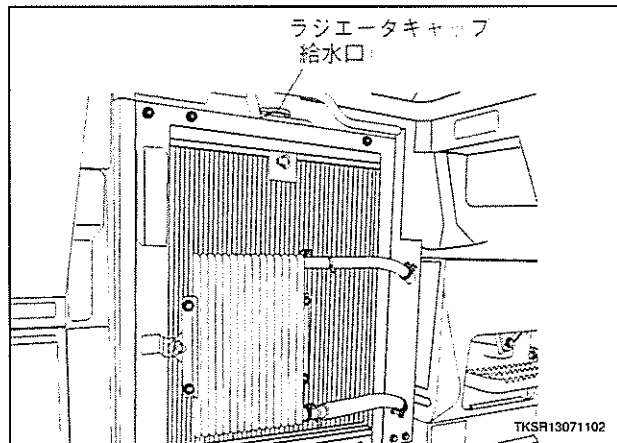
◆ 冷却水の点検のしかた

- (1) リザーブタンクから、冷却水が水漏れしていないことを確認したのち、リザーブタンク内の冷却水が、上限と下限の間にあるか、点検します。規定量でない場合は、冷却水を補給してください。

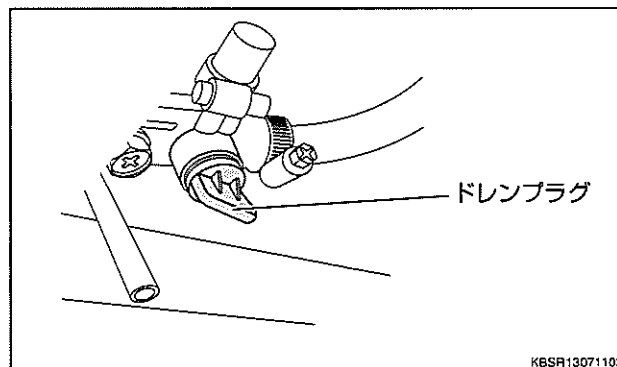


◆ 冷却水の交換のしかた

- (1) ラジエータ前カバーを開けてください。
(115 ページ)
- (2) ラジエータキャップを取り外してください。

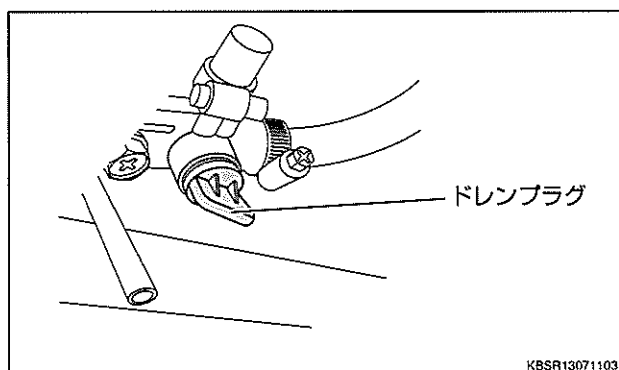


- (3) ドレンプラグをゆるめて、冷却水を抜いてください。



(4) 冷却水を完全に抜いた後、水道水を吸水口より入れ、ゴミやサビがでなくなるまで、ラジエータ内部をよく洗浄してください。

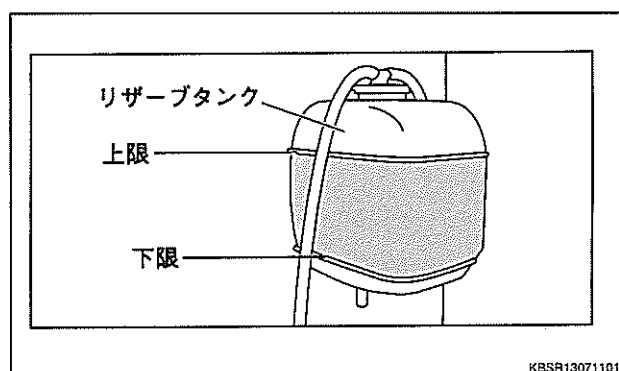
(5) ドレンプラグを締め、冷却水を注入し、ラジエータキャップを、確実に締め付けてください。



(6) ラジエータ前カバーを閉めてください。
(115 ページ)

(7) リザーブタンク上限まで、冷却水を注入します。
冷却水量………8.0L

(8) エンジンを始動し、約5分間アイドリング運転をして、再度冷却水の量を確認し、不足していれば、冷却水を補給してください。



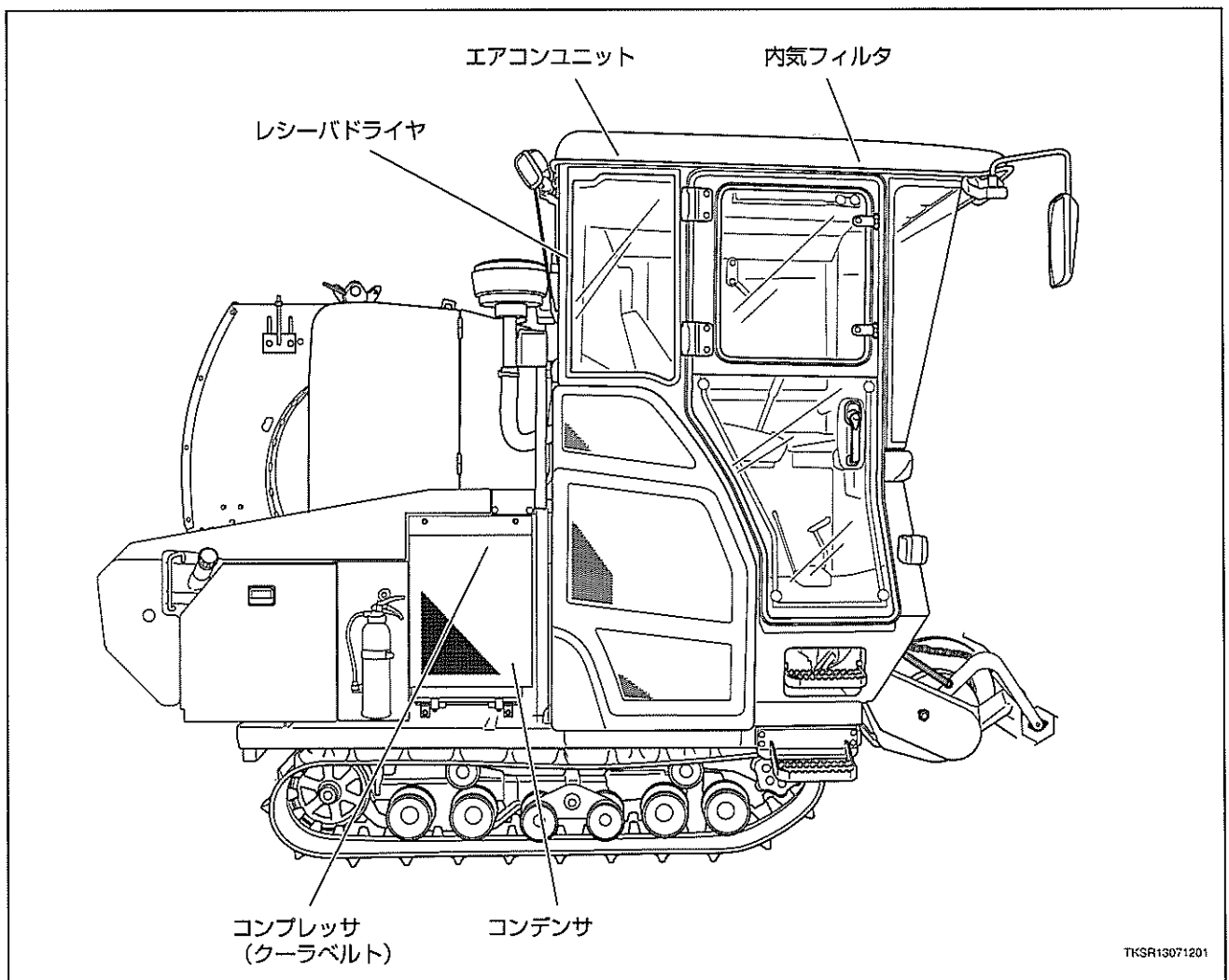
◆ 不凍液について

(1) 工場出荷時には、不凍液 (LLC) を注入してありますので、そのまま作業してください。

(2) 冷却水交換時には、新たに不凍液を入れてください。

(3) 不凍液の混合比は、気温や不凍液メーカーにより異なりますので、不凍液メーカーの説明書に従ってください。

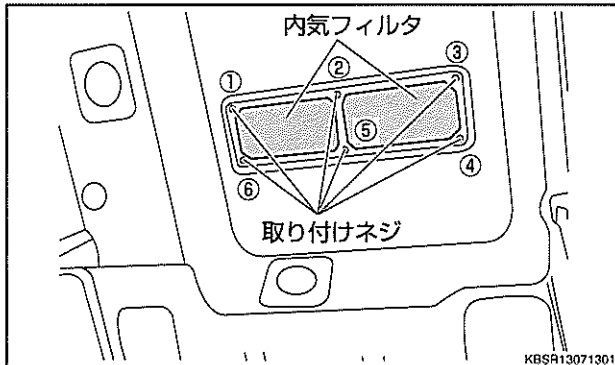
13.8.12 エアコン部品の配置



13.8.13 エアフィルタの清掃

◆ 内気フィルタ

- (1) 6箇所の取り付けネジをゆるめて、フィルタを取り外し、圧縮空気で洗浄してください。



- (2) フィルタの汚れや詰まりが著しい場合は、家庭用中性洗剤を溶かしぬるま湯で洗浄し、水でよくすすいだ後、完全に自然乾燥してください。

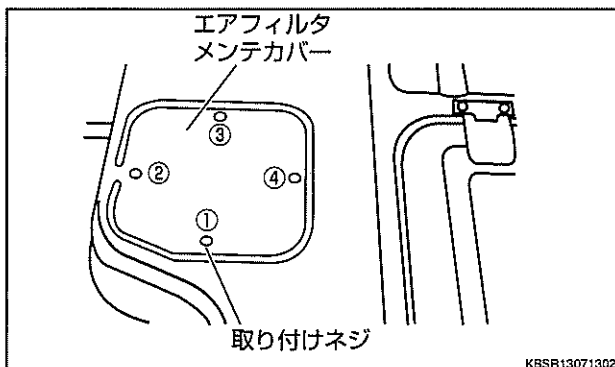
- (3) フィルタを取り付け、取り付けネジで固定してください。

◆ エアフィルタ

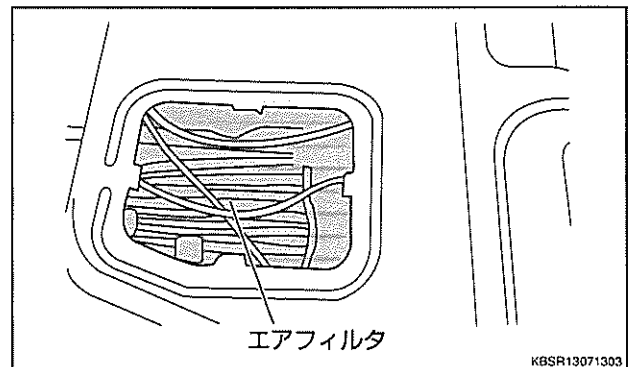
《 参考 》

エアコンの吹き出し風量が、極端に少なくなった場合、エアフィルタの詰まりが考えられますので、点検してください。

- (1) ルーフ左後部のエアフィルタメンテカバー取り付けネジ4箇所を、取り外してください。

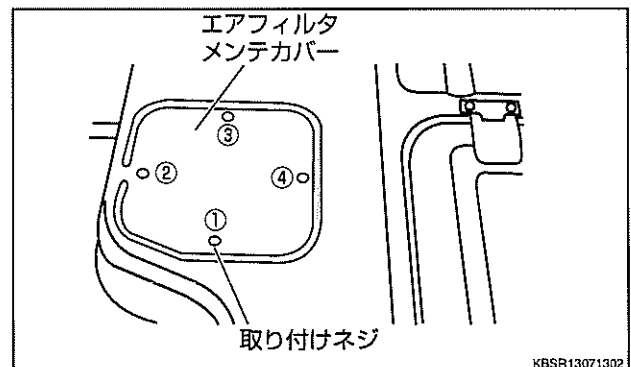


- (2) エアフィルタを抜き出し、圧縮空気で洗浄します。エアフィルタの汚れや、詰まりの激しいものは、交換してください。



- (3) エアフィルタを、すき間ができないように取り付けてください。

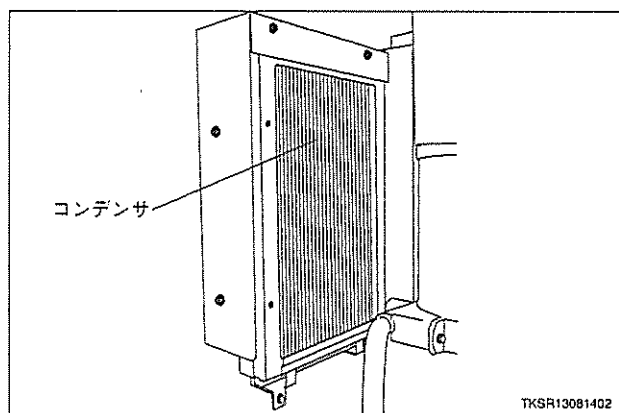
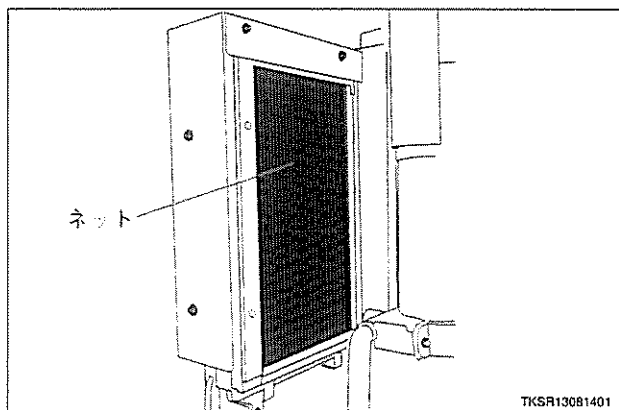
- (4) エアフィルタメンテカバー取り付けネジ4箇所を取り付けてください。



13.8.14 コンデンサの点検と清掃

◆ コンデンサの点検のしかた

- (1) ネットやコンデンサのフィンに、汚れや詰まりがないかを点検してください。



◆ コンデンサの清掃のしかた

- (1) ネットを取りはずし、ネットに付着したゴミを取り除きます。

《 参考 》

作業中、ネットに付いたわらくず等が、多くなったら取り除いてください。

- (2) コンデンサのフィンをつぶさないように圧縮空気で汚れを落とします。

《 参考 》

コンデンサのフィンがつぶれた場合は、元に戻してください。

13.8.15 冷媒量の点検

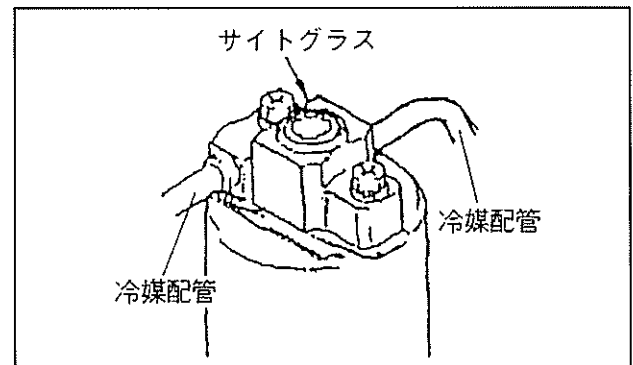
▲ 注意

- 長時間放置（2時間以上）後、実施する場合は、事前にアイドリング回転にて下記操作（2、3項）をし、ならし運転を5分以上行ってください。
※ 守らないと、エアコン部品の損傷の原因となります。
- シーズンオフなど長期間保管する場合は、冷媒が漏れていないか点検してください。漏れた状態で放置しないでください。
※ 守らないと、エアコン部品の内部にサビが発生する原因になります。

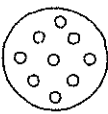
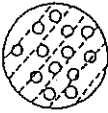
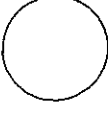
リヤハッチを開けてキャビン背面左のレシーバドライヤのサイドグラス（点検窓）から冷媒の気泡の流れを見て、冷媒量の点検をしてください。

◆ 準備作業

- (1) エンジンを始動し、定格回転にします。
- (2) エアコンスイッチ「ON」風量調節ツマミを「HI」にします。
- (3) 温度調節レバーCOOLを「左」側いっぱいに動かします。



◆ 冷媒量チェック表

冷 媒 量	サイトグラスの状態	
適正		ほとんど透明、泡の流れが見えてもエンジン回転を上げたり下げたりすると透明になる。
不足		いつもの気泡の流れが見える。 透明または白泡のときもある。
なし、または殆どなし		何も見えない。 または、霧のようなものが流れているのがわずかに見える。

13.8.16 リレー・ヒューズの点検

⚠ 警告

●点検・交換時には、必ずバッテリーの⊖側を外してから行ってください。

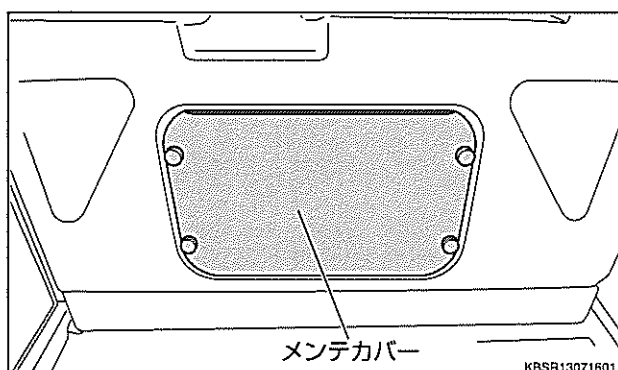
※守らないと、スパーク（火花がとぶ）・感電し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

《参考》

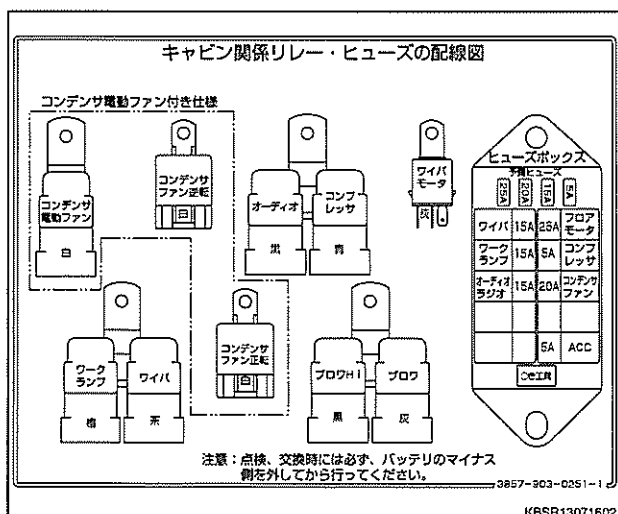
キャビン関係のリレーおよびヒューズは、シート後部リヤカバー内にあります。

(1) シートを前方へ倒してください。

(2) メンテカバーを取り外してください。



(3) メンテカバー裏に、下記のラベルが添付されていますので、ラベルと対比して点検してください。



(4) 点検のあと、メンテカバーは、確実に取り付けてください。

13.8.17 ネット切断ナイフの点検

▲ 警告

- ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

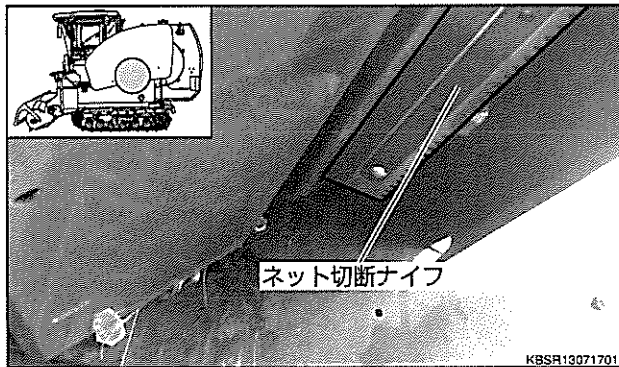
◆ ネット切断ナイフの点検のしかた

(1) チャンバーを上げてください。(67 ページ)

《重要》

チャンバーを開けて作業を行うときは、必ず、シリンダーストップをセットしてください。

(2) ネット切断ナイフに摩耗や欠損がないかを確認し、異常があれば、「お買い上げ先」に連絡してください。



13.8.18 シェアボルトの点検と交換

⚠ 危険

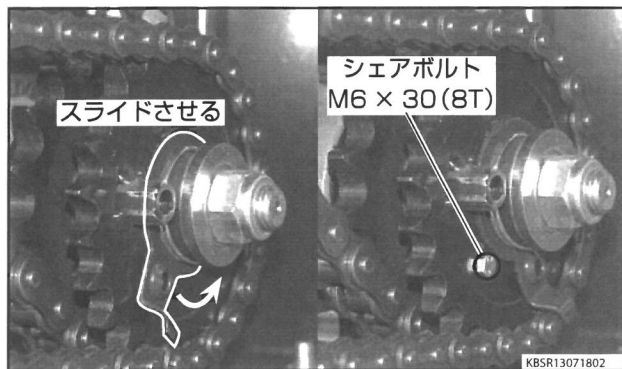
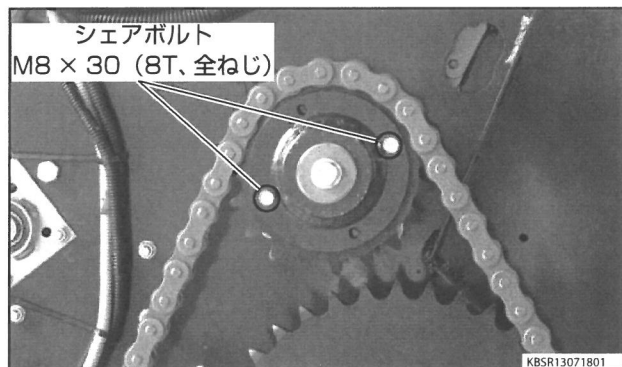
● 必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。

※ 守らないと、回転部に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

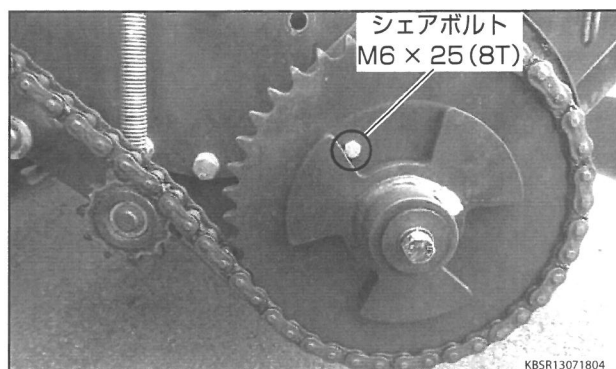
◆ シェアボルトの点検のしかた

- (1) チェンカバーを開いてください。(117 ページ)
- (2) 左サイドカバーを開いてください。(118 ページ)
- (3) シェアボルトに切損や緩みがないかを確認し、緩みのある場合は締め付け、切損の場合は、シェアボルトを交換してください。

チャンバー側



ピックアップ側



◆ シェアボルトの交換のしかた

- (1) 付属品で梱包されている、シェアボルトを使用して、各部位を締め付けてください。

《 重要 》

シェアボルトは、指定以外のボルトを使用しないでください。

- (2) チェンカバーを閉じてください。(117 ページ)
- (3) 左サイドカバーを閉じてください。(118 ページ)

14. 格納時の手入れ

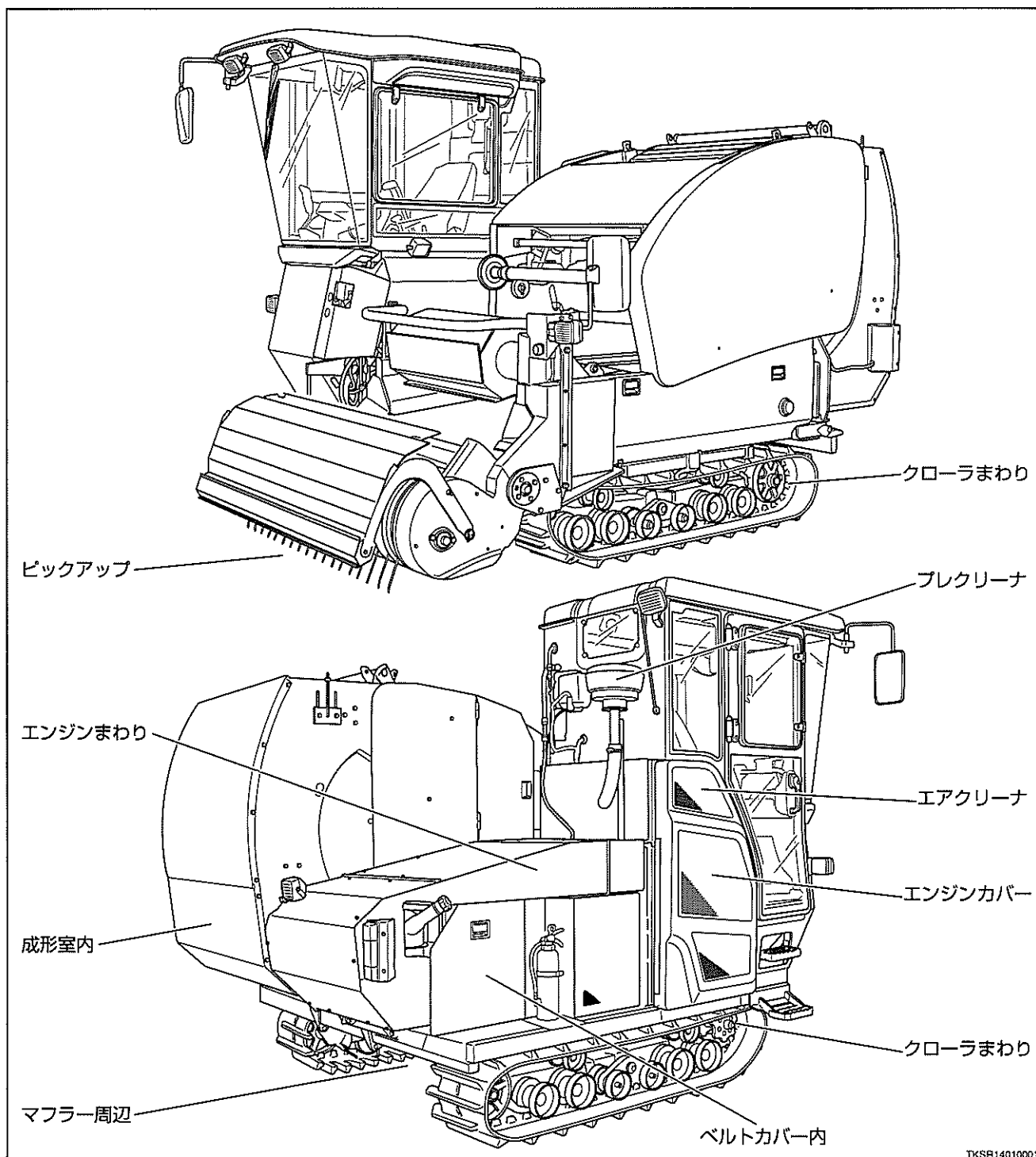
▲ 警告

- 清掃する時は、必ず駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 守らないと、回転部に挟まれる等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 平坦な場所を選び、自走ロールベアラが動かないように車止めをしてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 各部脱着、開閉を行うときは、本機を路面等水平な場所に止めて行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 取り外した各部のカバー類は、忘れずに取り付けてください。
※ 守らないと、巻き込まれ、挟まれ等傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 空運転を行うときは、カバー類を取り付けてください。
※ 守らないと、巻き込まれ、挟まれ等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

14. 格納時の手入れ

14.1 清掃のしかた

14.1.1 清掃箇所



《重要》

自走ロールベアラを長持ちさせるため、必ず手入れをしてください。

14.2 その他の手入れのしかた

！ 注意

- エンジン部、電装品等には圧力水をかけないでください。

※ 守らないと、機械の破損の原因になります。

作業前に、各部についた泥やワラクズを取り除いてください。

◆ エンジン関係の手入れのしかた

- (1) 燃料タンクは、満タンにして、水の発生を防いでください。
- (2) アクセルレバーは、必ず「低」側いっぱいに戻してください。
- (3) 冬期停止時の冷却水は、抜くか、不凍液を入れてください。

◆ バッテリーの保存

- (1) バッテリーを取り外し、乾燥した日光の当たらない場所に、保存してください。
- (2) バッテリーは、夏期は2カ月、冬期は3カ月以内に、補充電をしてください。

◆ 長期格納時の注油

次の箇所に、注油してください。

- [1] ピックアップ部・チャンバー部のチェン
- [2] 各レバーの支点部
- [3] 各ベルトのテンションアームの支点部

◆ 長期格納時の手入れのしかた

各部に収穫物が残っていると、ネズミが営巣したり、配線部をかじったりして、故障の原因となりますので、きれいに掃除してください。

◆ 格納のしかた

- (1) 湿気の少ない、風通しの良い所に板を敷いて、自走ロールベアを乗せてください。
- (2) 各レバーは、「切」位置にしてください。
- (3) ピックアップ部を、最下げの位置にしてください。
- (4) メインスイッチキーを、抜き取ってください。

15. 不調時の診断と処置

▲ 注意

- 点検・整備をする時は、必ずエンジンを停止して、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 守らないと、回転部等に手や衣服が巻き込まれ傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備は、平たんで水平な場所で行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備で取り外したカバーは、必ず元のとおり取り付けてください。
※ 守らないと、巻き込まれ、挟まれ等傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備をする時は、エンジンなどの過熱部が十分冷えてから行ってください。
※ 守らないと、やけど等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

15.1 異常発生時の処置

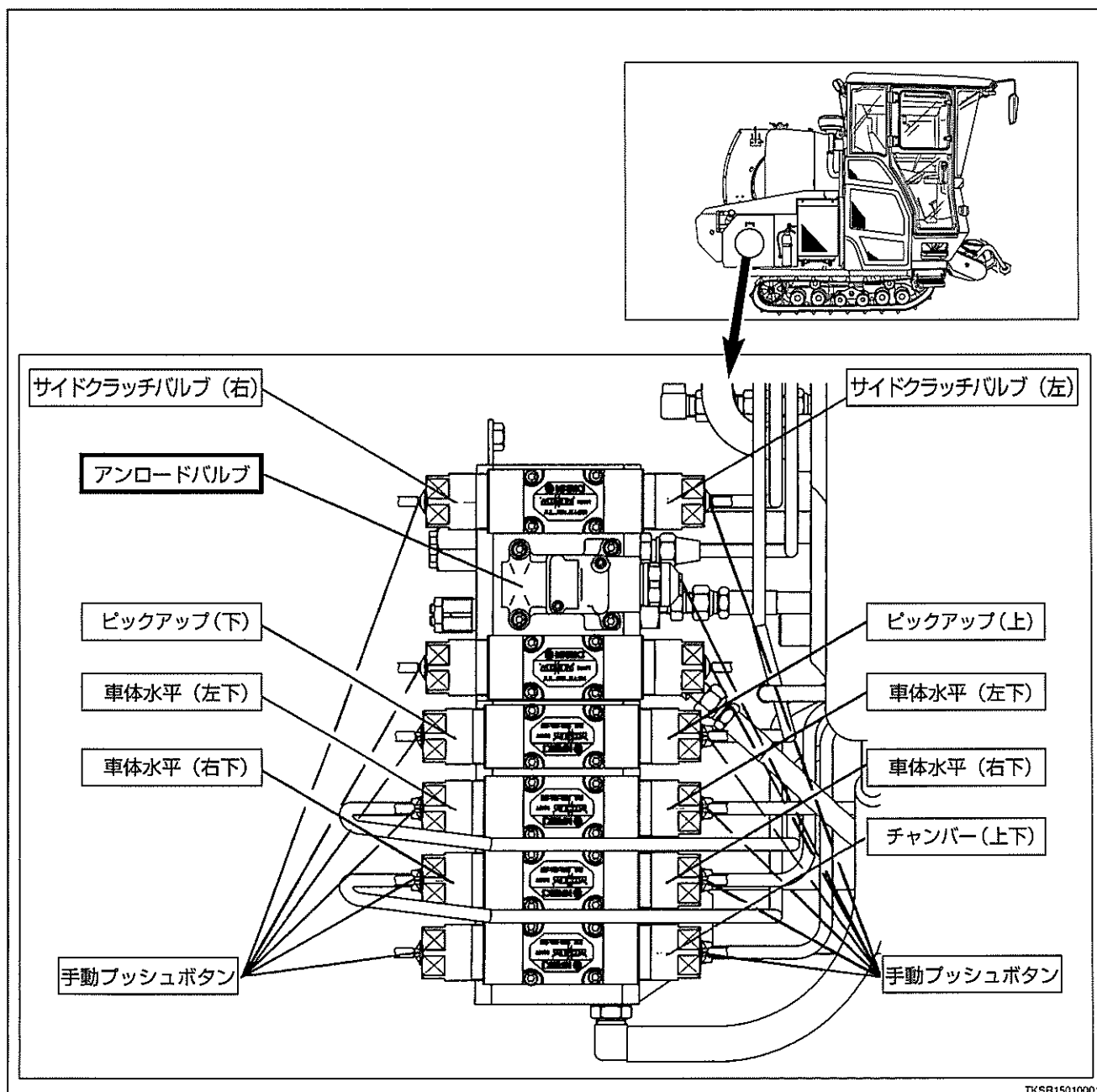
現象	原因	処置	参照ページ
エンジンが始動しない (セルモータが回らない場合)	駐車ブレーキペダルを踏み込んでいますか。	駐車ブレーキペダルを踏み込んでください。	58
	作業クラッチレバーは、「切」になっていますか。	作業クラッチレバーを、「切」にしてください。	57
	バッテリーが、放電していませんか。	補充電または、交換してください。	175
	バッテリーの端子は、ゆるんでいませんか。	端子を清掃し、締め付けてください。	179
	スローブローヒューズは、溶断していませんか。	スローブローヒューズを交換してください。	181
エンジンが始動しない (セルモータは勢い良く回るが、かからない場合)	燃料はありますか。	燃料を入れ、エア抜きをしてください。	60
作業クラッチを入れるとエンジンが停止する	非常エンジン停止ボタンが、「停止」位置になっていませんか。	非常エンジン停止ボタンを、「運転」位置にしてください。	56
草がうまく拾えない	集草していますか。	ウィンドローを作ってください。	72
	材料が、短かすぎませんか。	クロープカバーの位置を下げてください。	73
	ウィンドローが、大きすぎませんか。	クロープカバーの位置を上げてください。	73
	シェアボルトが、切断されていませんか。	シェアボルトを交換してください。	192
	ピックアップ部が、下がりきらない状態になっていませんか。	車高が、一番下がった状態になっているかを確認してください。	84

現象	原因	処置	参照ページ
作物を搬送しない	ピックアップ部で、草が引っかか っていませんか。	いったん後進して、引っかけた草 を取り除いてください。	192
	シェアボルトが、切断されていま せんか。	シェアボルトを交換してくださ い。	
	搬送ローラに草が、巻きついてい ませんか。	草の巻き付きを、取り除いてくだ さい。	
ピックアップが昇降しない	ヒューズが、切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	179
	端子が、はずれていませんか。	ハーネス、端子を点検してくださ い。	179
	刈取ロックスイッチが入っていま せんか。	刈取ロックスイッチを解除してく ださい。	198
	ソレノイドバルブに、ゴミが詰っ ていませんか。	プッシュボタンを数回押して、ゴ ミを抜いてください。	
エンジン回転がドロップする	作業速度が、速すぎませんか。	予感知のブザーが鳴ったら、作業 速度を落としてください。	75
	セッテイモードの「カンチキヨリ」 設定数値が上がった状態になって いませんか。	セッテイモードの「カンチキヨリ」 設定で、現状の数値より設定を下 げてください。	
	タイトチェンにオイルが、注油さ れていますか。	リザーブタンクのオイル量をチェ ックしてください。	150
搬送ローラに草が巻き付く	草の水分が、高くありませんか。	水分が60%以下になるように予 乾してください。	72
	集草していますか。	ウィンドローを作ってください。	
ネット巻きが緩い	ネットブレーキが、弱くありませ んか。	ブレーキバネを、現状の位置より 締める方向に、掛け変えてくださ い。	77
	ネットの巻き数が、少なくありま せんか。	セッテイモードの「ネットリョウ」 設定で、現状の数値より上げた設 定にしてください。	75
	ボールが、やわらかすぎませんか。	セッテイモードの「カンチキヨリ」 設定で、現状の数値より設定を上 げてください。	75
ネットが切れる	ネットブレーキが、強くありませ んか。	ブレーキバネを、現状の位置より 緩める方向に、掛け変えてくださ い。	77
ネットが広がらない	ネットブレーキが、弱くありませ んか。	ブレーキバネを、現状の位置より 締める方向に、掛け変えてくださ い。	77
タイトチェン部に自動注油し ない	リザーブタンクの配管に、エアー が噛んでいませんか。	エアー抜きを行なってください。	150

15. 不調時の診断と処置

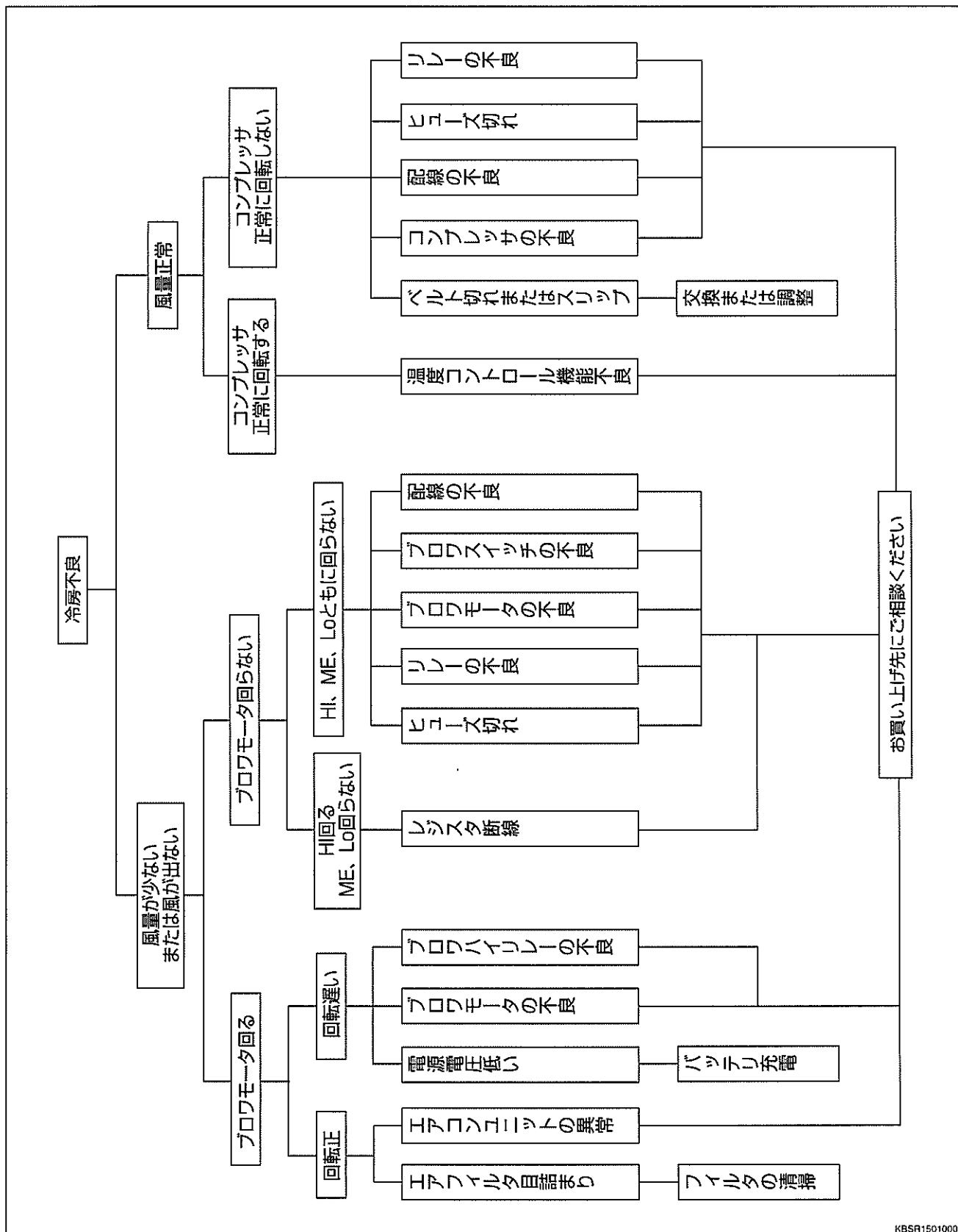
現象	原因	処置	参照ページ
チャンバーが開閉できない	ヒューズが、切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	179
	配線が、外れていませんか。	ハーネス、端子を点検してください。	179
	ソレノイドバルブに、ゴミが詰っていませんか。	手動プッシュボタンを数回押して、ゴミを抜いてください。	198
油圧が作動しない	油圧バルブに、ゴミが詰まっていますか。	手動プッシュボタンを数回押して、ゴミを抜いてください。 (詳細は下記参照ください)	198

アンロードバルブの手動プッシュボタンを押したまま、同時に不調箇所のバルブの手動プッシュボタンを、数回押します。



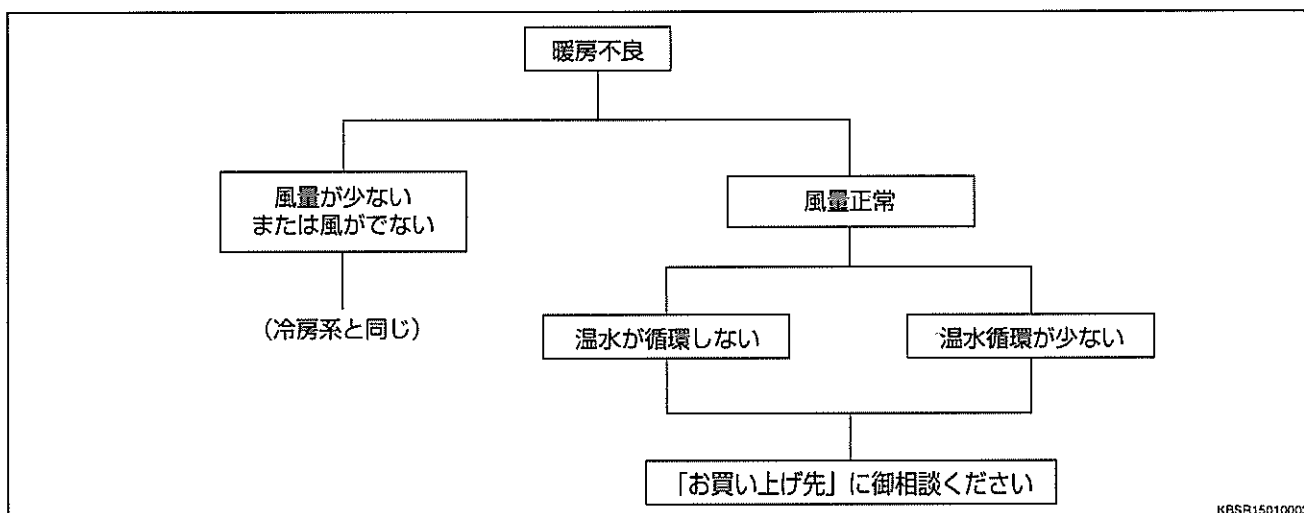
現象	原因	処置	参照ページ
ワイパが作動しない	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	179
	接触不良。	アースおよび、ターミナルの点検・清掃をしてください。	179
	スイッチの断線または、不良。	「お買い上げ先」に連絡してください。	
	リレーの不良。	「お買い上げ先」に連絡してください。	
	モータの損傷。	「お買い上げ先」に連絡してください。	
ウォッシャー液が出ない	ウォッシャー液が少ない。	ウォッシャー液を規定量まで、補給してください。	133
	接触不良。	アースおよび、ターミナルの点検・清掃をしてください。	179
	スイッチまたは、リレーの不良。	「お買い上げ先」に連絡してください。	
	モータの損傷。	「お買い上げ先」に連絡してください。	
ラジオの音が出ない	ヒューズが、切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	179
	本体損傷。	「お買い上げ先」に連絡してください。	
ラジオにノイズが入る	アース不良。	アンテナおよび、CDラジオ等のターミナルの点検・清掃をしてください。	134
	本体の不良。	「お買い上げ先」に連絡してください。	
ドア、サイドガラス、ハッチの開きが弱い	ダンパ不良。	反発力チェックをしてください。	
ドアが走行中開く	ロックとストライカの調整不良。	「お買い上げ先」に連絡してください。	
エアコンが冷えない		トラブルシューティングを参照してください。	200
エアコンがあたたまらない		トラブルシューティングを参照してください。	201

◆ 冷房関係トラブルシューティング



KBSR15010002

◆ 暖房関係トラブルシューティング



◆ 使用冷媒および充填について

冷媒ガスは、HFC-134a です。

充填量は、0.77 ～ 0.87kgです。

▲ 注意

- 冷媒ガスは、必ず HFC-134a を使用してください。

※ 守らないと、エアコン故障の原因になります。

- 冷媒ガスの補充は行わないでください。

冷媒ガスの充填は全量回収し、規定量を入れ直してください。

※ 守らないと、冷媒ガスの不足や過充填となり、エアコン故障の原因になります。

15. 不調時の診断と処置

15.2 異常表示時の処置（自動制御関係）

電子・油圧装置に異常が生じた場合、マルチアイに異常メッセージが表示されます。

この表示が出たときは		→	こう処置します
刈高さ制御	入力系の異常 パワステポジション上下 センサ信号異常 配線の断線あるいはセンサ・コントローラの異常 自動装置の使用をやめ 点検をしてください。		「お買い上げ先」に連絡してください。
	入力系の異常 刈高さセンサ 信号変化 無し 配線の断線あるいはセンサの異常		刈高さ制御のスイッチを押し、ランプを消灯させた状態で使用してください。「お買い上げ先」に連絡してください。
バックリフト制御	入力系の異常 パワステポジション上下 センサ信号異常 配線の断線あるいはセンサ・コントローラの異常 自動装置の使用をやめ 点検をしてください。		
	入力系の異常 刈高さセンサ 信号変化 無し 配線の断線あるいはセンサの異常		バックリフト制御のスイッチを押し、ランプを消灯させた状態で使用してください。「お買い上げ先」に連絡してください。
IQアクセル制御	入力系の異常 エンジン 「回転異常」 自動装置の使用をやめ 点検をしてください。		「お買い上げ先」に連絡してください。IQアクセル制御のスイッチを押し、ランプを消灯させた状態で使用してください。スロットルレバーを手動にて操作してください。
	エンジン回転計が動かない。 配線の断線あるいはセンサ・コントローラの異常		

KBSR15020001

この表示が出たときは		→	こう処置します
車体水平制御	入力系の異常 車体傾斜 センサ信号異常 自動装置の使用をやめ 点検をしてください。		「お買い上げ先」に連絡してください。車体水平制御のスイッチを押し、ランプを消灯させた状態で使用してください。
	配線の断線あるいはセンサ・コントローラの異常		

KBSR15020002

16. 付表

16.1 主要諸元

名称		自走ロールベアラ		
型式		SR1020		
区分		CRSW		
機体寸法	全長 (mm)	3600		
	全幅 (mm)	2380		
	全高 (mm)	2520		
機体質量 (重量) (kg)		2820		
エンジン	型式名		中セキ E3CG-WA03	
	種類		水冷 4 サイクル 3 気筒立形ディーゼル	
	総排気量 (L)		1.647	
	出力/ 回転速度 (kW {PS} /min ⁻¹)		29.8 {40.5} / 3000	
	使用燃料		ディーゼル軽油 JIS2 号 (寒冷時 JIS3 号)	
	燃料タンク容量 (L)		45	
走行部	始動方式		セルモータ式	
	クローラ	幅 × 接地長 (mm)	400 × 1460	
		中心距離 (mm)	1540	
		平均接地圧 (kPa {kgf/cm ² })	23.8 {0.24}	
	変速方式		油圧モータ式 (HST)	
	変速段数		副変速：前進 3 段 後進 3 段	
	走行速度 (m / sec)	前進	0 ~ 0.80 0 ~ 1.38 0 ~ 2.34	
後進		0 ~ 0.71 0 ~ 1.22 0 ~ 2.03		
ピックアップ部	作業幅 (mm)		1450	
	タイン両端幅 (mm)		1240	
	タインピッチ (mm)		72.5	
	タイン数 (個/列)		9	
	タインバー数 (本)		4	
	タイン作用直径 (mm)		530	
ベアラ部	ベール直径 (mm)		1000	
	ベール幅 (mm)		1000	
	成形方法		タイトバー/チェン	
	梱包材料		ネット	
	適応ネット幅 (mm)		980 ~ 1050	
諸装置	警報装置		マルチアイ、エンジンオイル、バッテリーチャージ、水温、タンク満杯、エンジンセンサ、作業クラッチ、ネットエラー	
	自動化装置		刈高さ定点停止	
	安全装置		車体水平、車体平行、バックリフト	
	オープン装置		エンジン始動セーフティスイッチ、チャンバーロック	
	その他の装置		エンジンカバー、左サイドカバー、右サイドカバー、右駆動カバー	
適用作物		稲わら、麦わら		
作業能率 (分/10a)		6 ~ 23		

16. 付表

16.2 付属品一覧

		品名	付属個数	備考
サービス品	1	取扱説明書	1	
	2	点検ブック（保証書付）	1	
工具	1	L型ボックススパナ（12 × 14）	1	
	2	油差しジョウゴ	1	
	3	メガネレンチ 17	1	
	4	スパナ 10 - 12	2	
	5	工具袋	1	
付属品	1	スペアキー	1	
	2	サラバネツキナット	2	
	3	消火器	1	
	4	シェアボルト M6 × 30（8T）	10	
	5	シェアボルト M8 × 30（8T、全ねじ）	5	
	6	タフロックナット M8	5	
	7	シェアボルト M6 × 25（8T）	5	
	8	ナイロンナット M6	5	
	9	トイ	1	

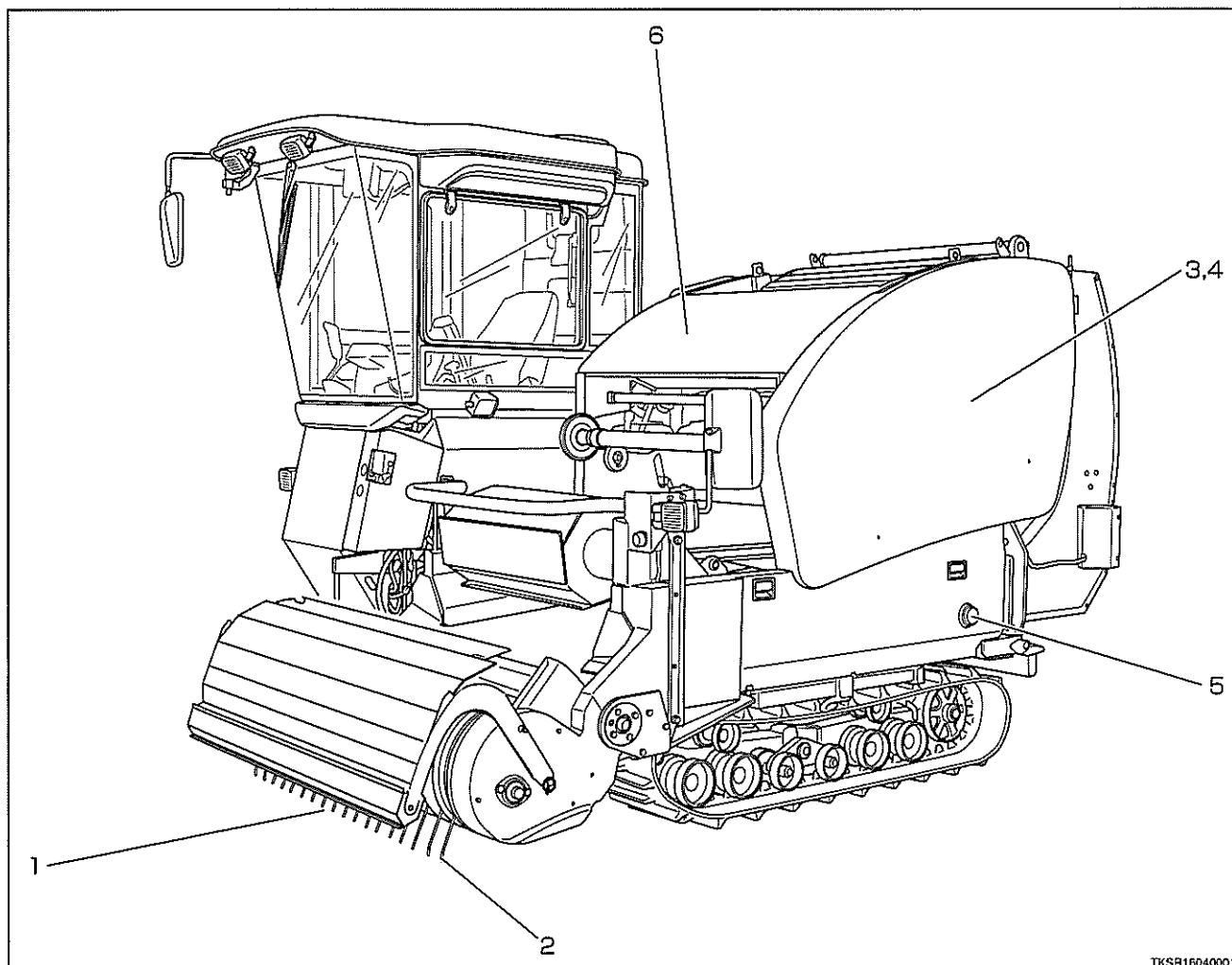
16.3 推奨潤滑油一覧表

区分		メーカー名	商品名
ディーゼル エンジンオイル		井関農機 他有名メーカーのグレードCF級以上使用	㊦セキ (10W-30 CF級) 20 缶 ……7019-009-300-00 4 缶×6 ……7019-009-400-00
油圧オイル		井関農機	㊦セキ・ハイドロリックオイル HL (VG68) 20 缶 ……7019-012-300-00 4 缶×6 ……7019-012-400-00 モービル DTE25 (VG46)
ギヤオイル	走行メイン ギヤケース	井関農機	㊦セキ・U・T・H オイル (80W) 20 缶 ……7019-019-300-00 4 缶×6 ……7019-019-400-00 ㊦セキ・ハイポイド・ギヤ・オイル (90 #) 20 缶 ……7019-002-300-00 4 缶×6 ……7019-002-400-00 ㊦セキマルチデラックスオイル (80 #) 20 缶 ……7019-004-300-00 4 缶×6 ……7019-004-400-00
	ギヤケース	井関農機	㊦セキ・ハイポイド・ギヤ・オイル (90 #) 20 缶 ……7019-002-300-00 4 缶×6 ……7019-002-400-00 ㊦セキマルチデラックスオイル (80 #) 20 缶 ……7019-004-300-00 4 缶×6 ……7019-004-400-00
	延長 フランジ	有名メーカー品を使用	ギアオイル #90
	逆転 ミッション	有名メーカー品を使用	ギアオイル #90
一般グリース		協同油脂 他有名メーカーのリチウム系一般グリース	ユニルーフ No.2
燃料		有名メーカー品	ディーゼル軽油 JIS2 号～3 号 (3 号は厳寒時)
不凍液		モービル石油 昭和シェル石油 (株) 他有名メーカー品を使用	モービルロングライフクーラント (L.L.C.) アンチフリーズ
チェーン		昭和シェル石油 (株)	テラスオイル #32

16. 付表

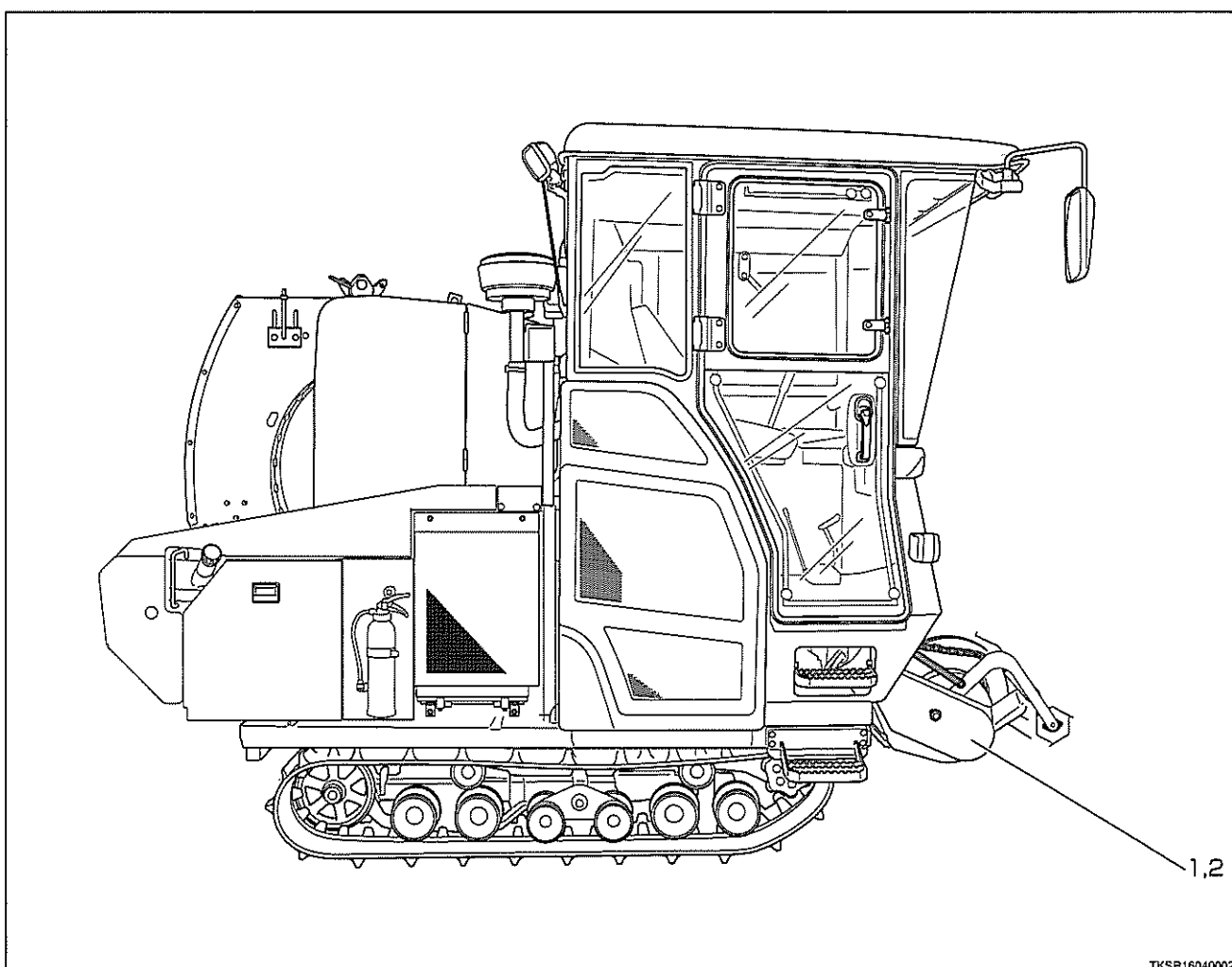
区分	メーカー名	商品名
エアコンガス	デンソー 有名メーカー品	カーエアコン・クーラ用ガス R-134a (HFC-134a)
コンプレッサオイル	デンソー	冷媒機オイル ND-OIL8
ウォッシュ液	シェル石油 有名メーカー品	シェルウインドクリーナ

16.4 主要消耗品



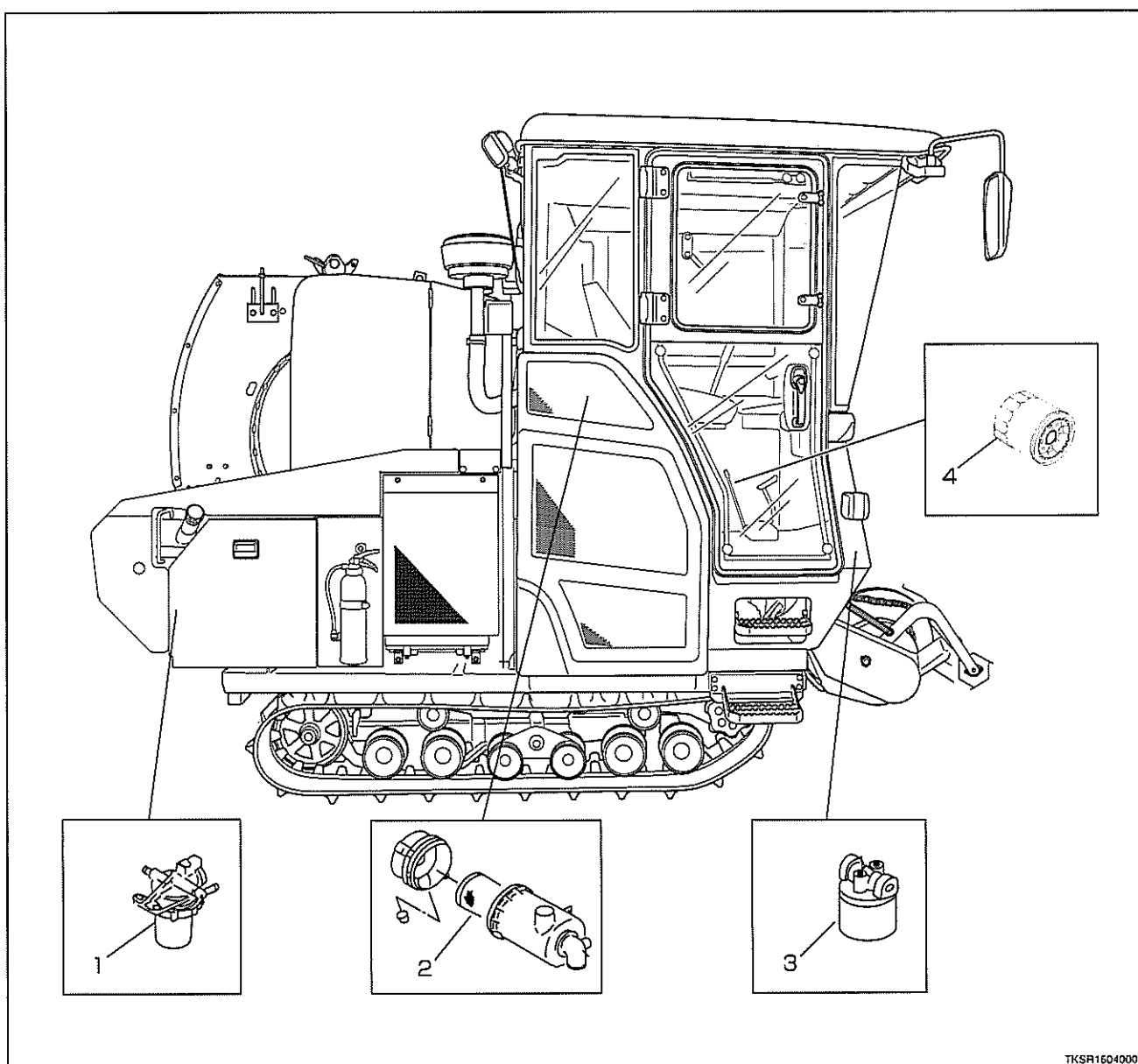
TKSR16040001

No.	品名	コード番号	使用個数／台
1	タイン	40101-5231-000	28
2	サイドタイン	40101-5232-000	8
3	ボルト 8 × 30 (8T・ゼンネジ)	01318-5080-300	2
4	タフロックナット 8	02160-0081-700	2
5	ボルト 6 × 30 (8T・半ネジ)	01118-0060-300	1
6	ネット 103cm	33101-9912-002	1



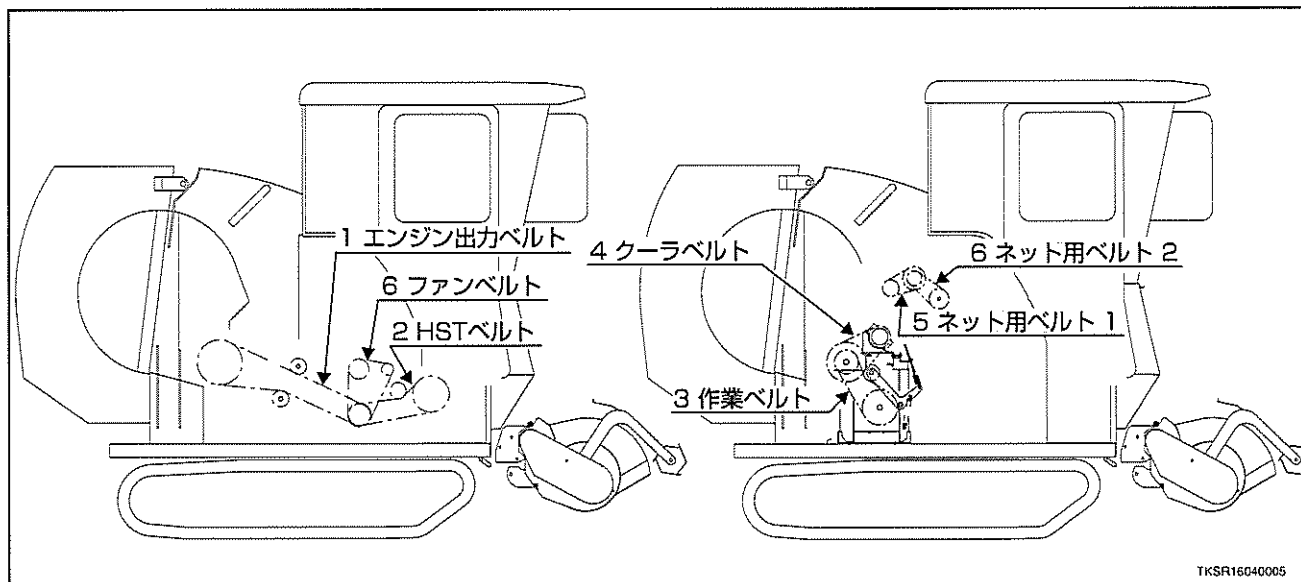
TKSR16040002

No.	品名	コード番号	使用個数／台
1	ボルト 8 × 40 (8T・生地)	01118-2080-400	1
2	ザツキナイロンナット 8	02311-4003-080	1



No.	品名	コード番号
1	フューエルフィルタ エレメント	1513-102-329
2	エアークリーナ エレメント	1650-104-203
3	HST オイルフィルタ カートリッジ	3669-354-250
4	エンジンオイルフィルタ カートリッジ	6213-240-005

◆ ベルト配置



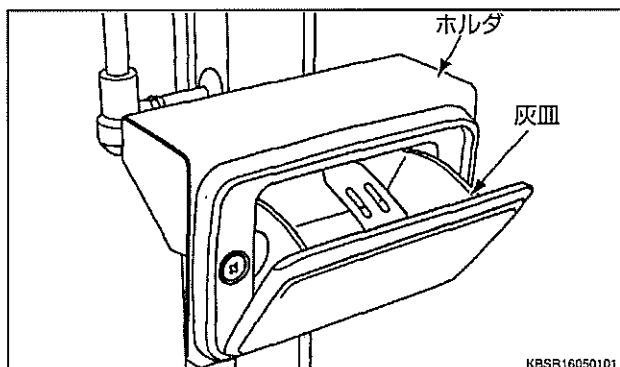
No.	品名	サイズ	注文コード番号	使用個数／台
1	エンジンベルト	LB - 88SG	03610-5120-880	2
2	HST ベルト	VB - 46	3817-122-008-00	2
3	作業ベルト	LB - 46SG	03610-5120-460	3
4	クーラベルト	A - 40	03610-0010-400	1
5	ネット用ベルト 1	A - 25	03610-0010-250	1
6	ネット用ベルト 2	A - 27	03610-0010-270	1
7	ファンベルト	LA40.5 (コグ)	6213-671-032-00	1

16.5 オプション

16.5.1 灰皿

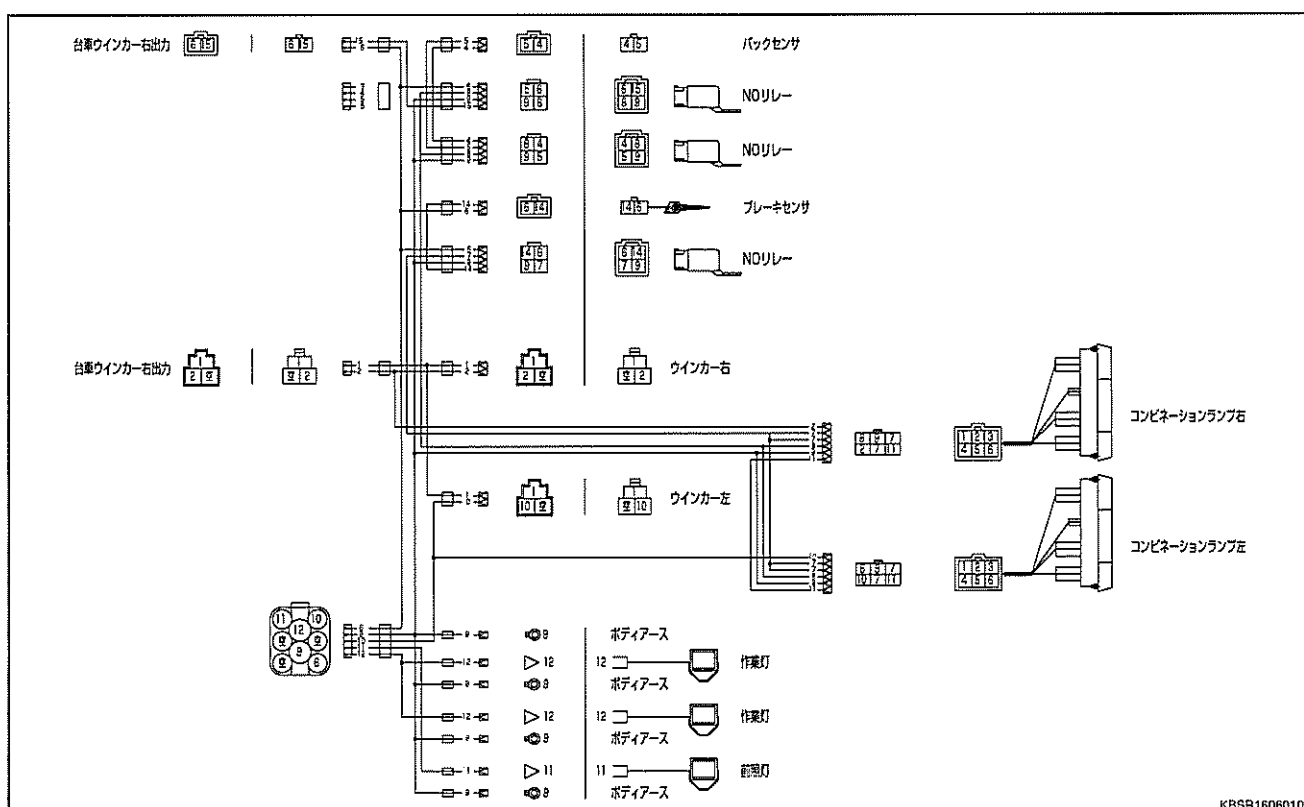
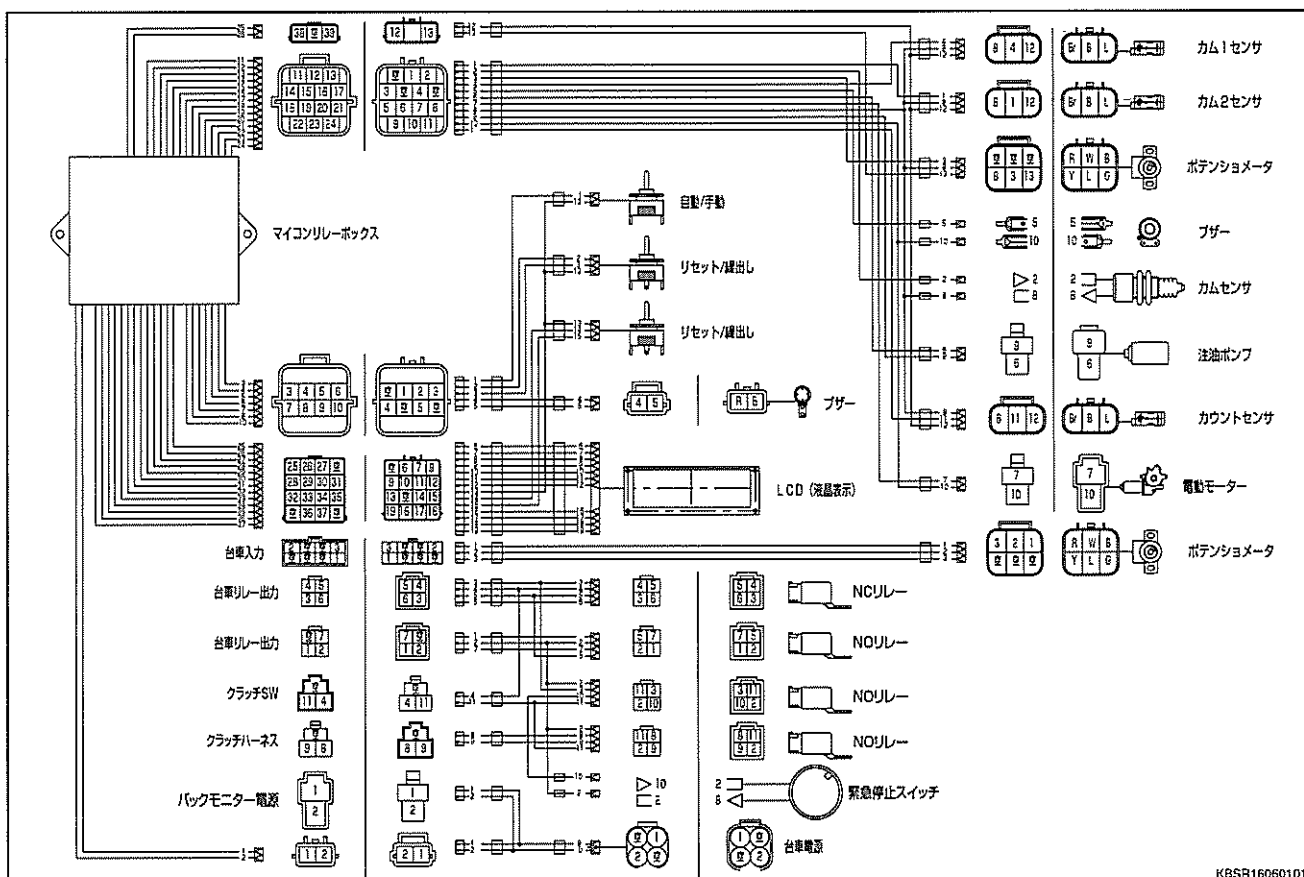
キャビン仕様機に灰皿が装着できます。

注文部品名	コード番号	必要個数
アッシュトレイ SET	3857-235-200	1

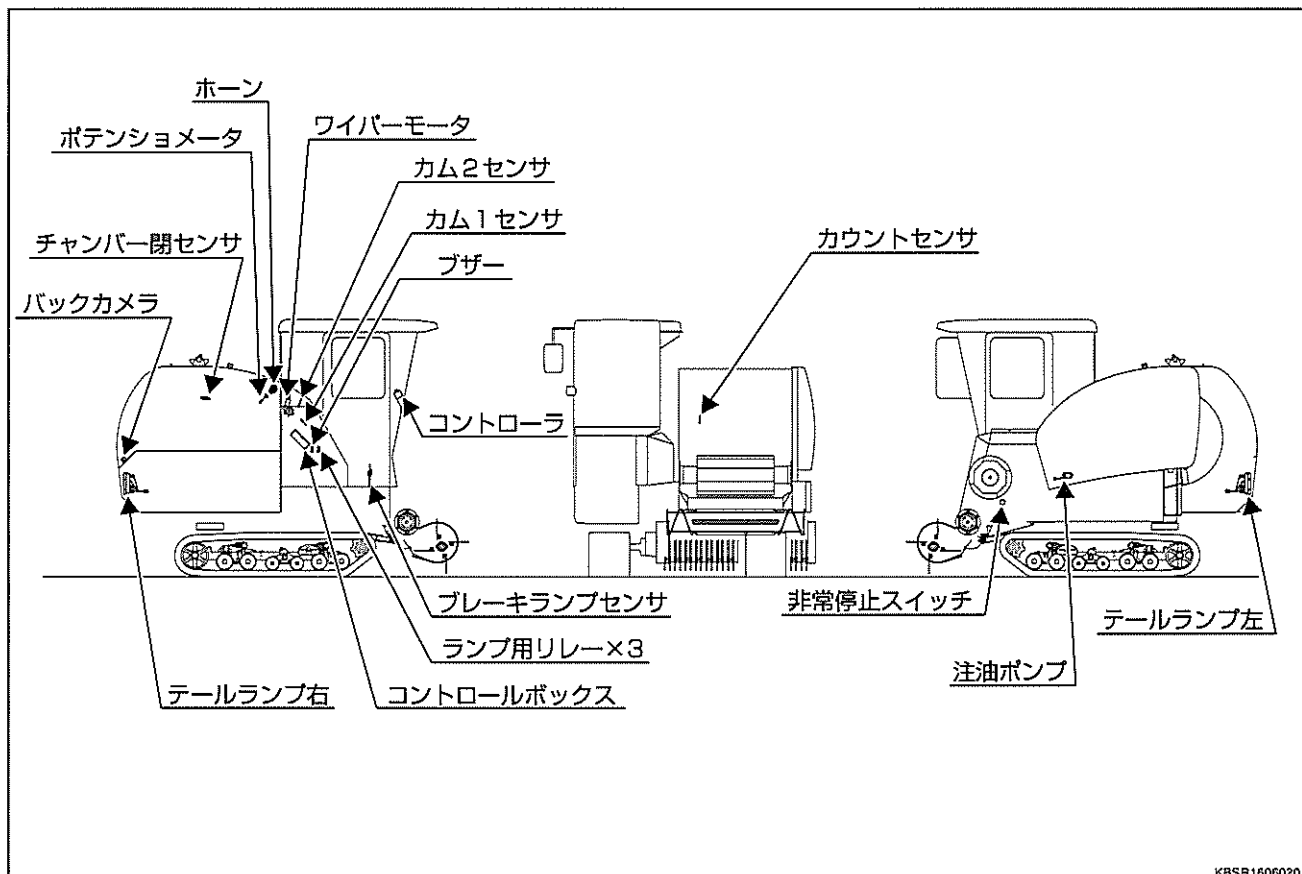


16.6 配線図

16.6.1 ロールベアラ コントロールボックス部



16.6.2 ロールベアラ 電装配置図



KBSR16060201